

狭山市地域福祉推進計画
親子アンケート調査報告書

平成29年1月

狭山市、社会福祉法人狭山市社会福祉協議会

目 次

第1節 調査の概要	・・・	1
第2節 調査の結果【児童・生徒編】	・・・	2
(1) 回答者に関する基本的な情報	・・・	2
(2) 地域に関すること	・・・	3
(3) 要援護者への支援に関すること	・・・	18
第3節 調査の結果【保護者編】	・・・	41
(1) 回答者に関する基本的な情報	・・・	41
(2) 家族と身の回りに関すること	・・・	44
(3) 暮らしにおける悩みや不安に関すること	・・・	48
(4) ご近所づきあいや自治会活動に関すること	・・・	51
(5) 地域活動に関すること	・・・	57
(6) 大規模災害を契機とした今後の活動に関すること	・・・	63
(7) 身近に感じる地域に関すること	・・・	65
(8) 地域福祉の推進状況に関すること	・・・	71
(9) 福祉教育に関すること	・・・	73
(10) 自由意見	・・・	76

親子アンケート調査中間報告

第1節 調査の概要

(1) 調査の目的

狭山市地域福祉推進計画の中間評価を行うにあたり、狭山市民の福祉に関する意識及び潜在的なニーズ等を把握するとともに、今後の地域福祉に関する計画のあり方を検討するための基礎資料とすることを目的に実施しました。

なお本報告は、単純集計結果をまとめた経過的報告であり、今後、クロス集計等、必要な分析を加えた最終報告を行う予定です。

(2) 調査対象世帯

779世帯(市内の公立小学校の5年1組または中学校2年1組に在籍する児童・生徒及びその保護者)

(3) 調査方法

学校を通じた配布・回収

(4) 調査期間

平成28年10月3日(月)から27日(木)まで

(5) 回収結果

- ① 配布数：779票
- ② 有効回収数：639票
- ③ 回収率：82.0%

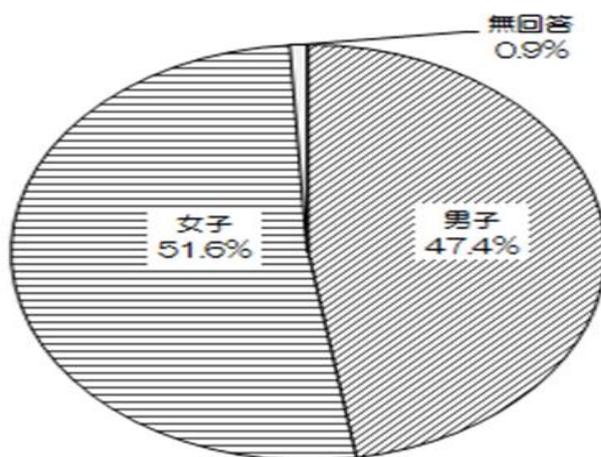
(6) 注意事項

- ① 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。四捨五入の関係で、合計が100%にならない場合があります。
- ② 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常の100%を超えます。
- ③ 選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いることがあります。

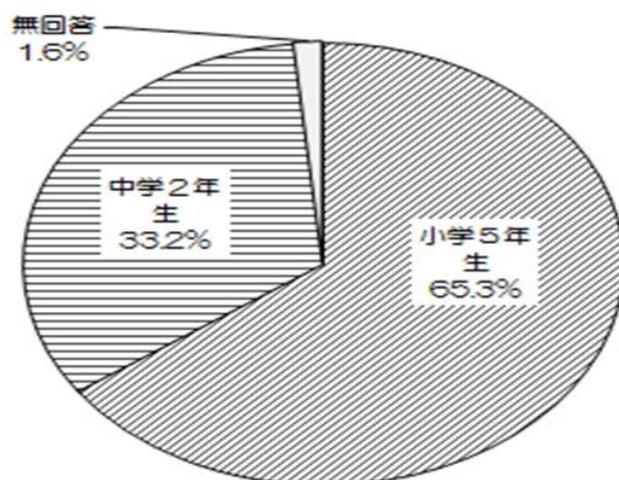
第2節 調査の結果【児童・生徒編】

(1) 回答者に関する基本的な情報

問1 性別

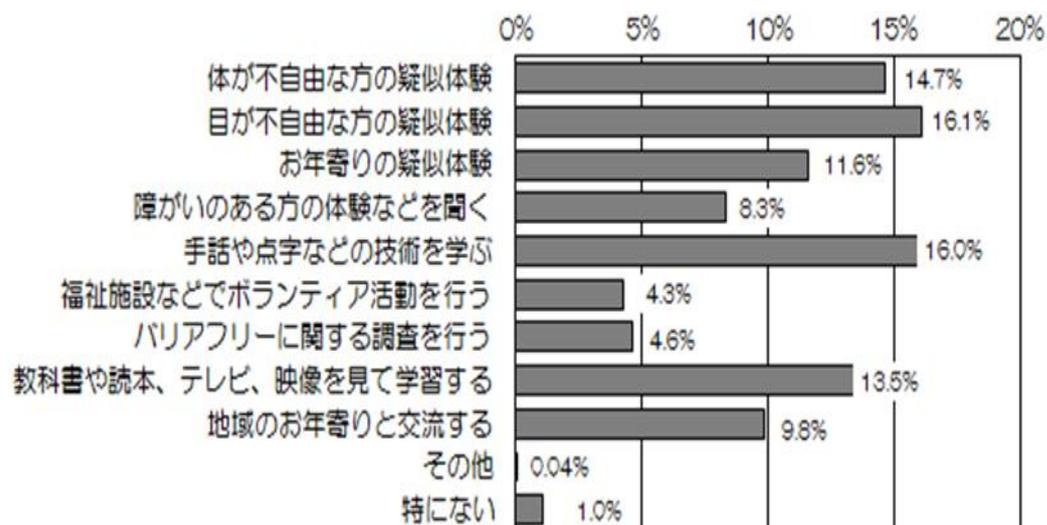


問2 学年



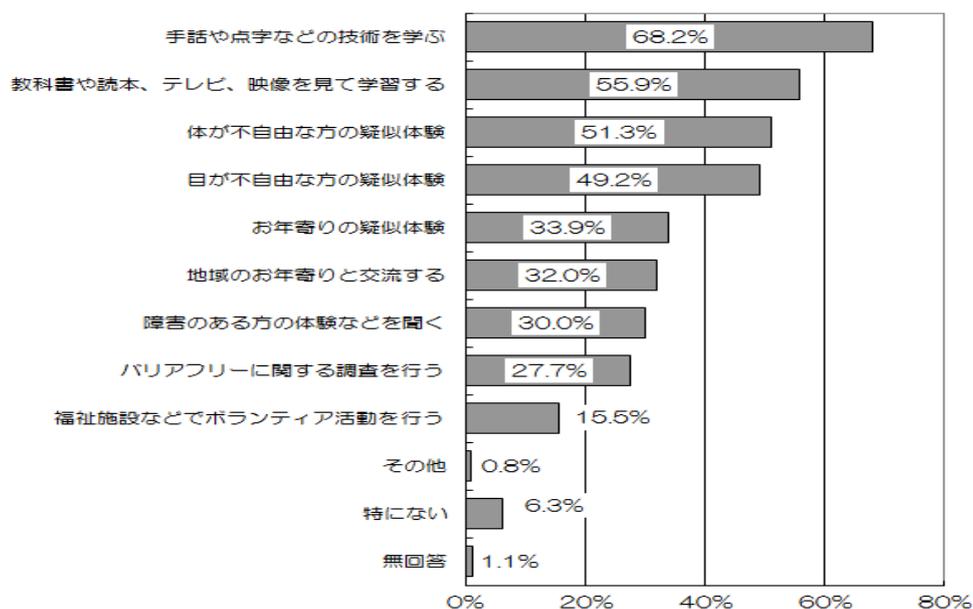
(2) 地域に関すること

問3 福祉（みんながいつまでも仲良く幸せに生活すること）に関して、学校で学んだことがあるもの。あてはまるところ（全て）をお答えください。

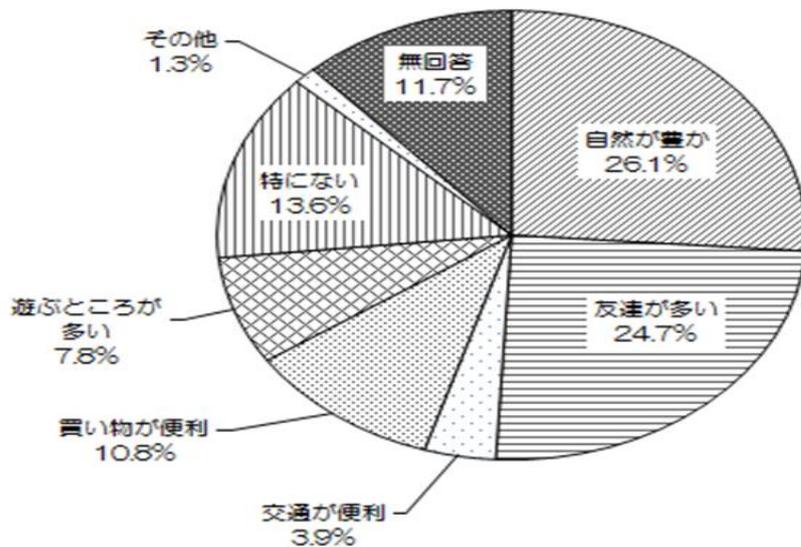


「目が不自由な方の疑似体験（目隠しし、杖を頼りに歩く）」（16.1%）がもっとも高く、次いで「手話や点字などの技術を学ぶ」（16.0%）、「体が不自由な方の疑似体験（車椅子に乗る）」（14.7%）、「教科書や読本、テレビ、映像を見て学習する」（13.5%）となっています。
 前回調査でも同様な回答が上位となっています。

《参考》 前回調査（問3）

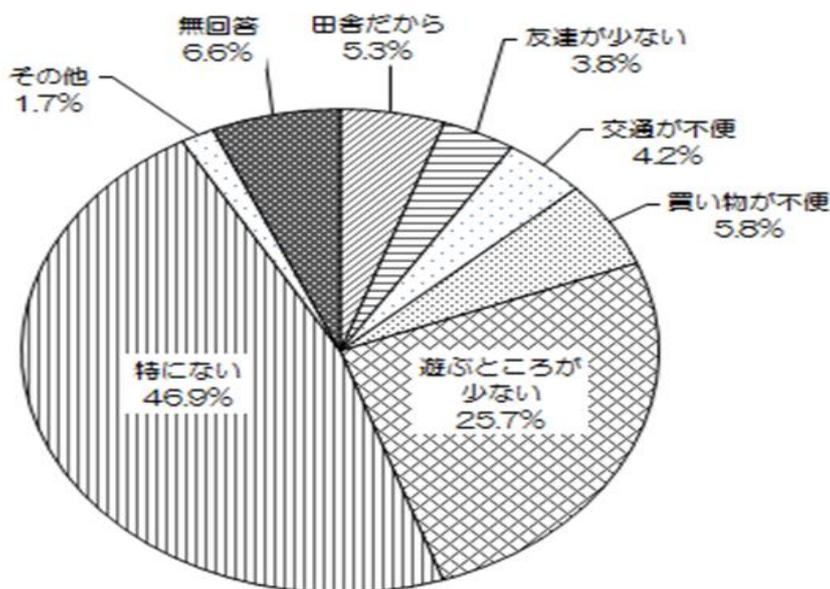


問4 住んでいる地域の好きなところ、良いところ



「自然が豊か」(26.1%) がもっとも高く、次いで「友だちが多い」(24.7%) となっています。

問5 住んでいる地域のきれいなところ、悪いところ



「遊ぶところが少ない」(25.7%) がもっとも高く、次いで「買い物が不便」(5.8%) となっています。

問6 あなたは、どのような地域なら、大人になっても住みたいと思いますか。(自由回答)

主な意見

- 近所の人と仲良く、あいさつができる。
- 困っている人がいたら助け合える。
- 地域全体で笑顔が絶えない。
- 防犯設備が整っている。
- 災害や事故が少ない。
- 災害があった時にすぐに避難できる場所がある。
- 遊べるところや店が多い。
- 交通が便利。
- 自然が豊か。
- 友達が多く、皆で集まれる施設があると良い。
- 働けるところが近くにある。
- 自慢できる場所、有名なものがある。

① 地域のつながりや支え合いに関すること

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">● 近所で仲が良い地域。● まわりの人がやさしい人。● ご近所づきあいがいいところ。自然が豊かなこと。● いつでもみんなで仲良く遊べたり何かこまった時に助け合える地域。● 周囲との交流ができる。● 住んでいる人みんなで協力したり助け合えたりできる。● みんな(近所の人など)と仲良く話せる所。● 高齢者とも、もっと親しみ合えて、いざという時、助け合える。● 何でも助け会えるご近所。● 自然がいっぱいでみんなで助け合える。● いつでも相談できる。 | <ul style="list-style-type: none">● 自然で、助け合えるように、会話して、仲良くなれる。地域なら大人になっても住みたいと思っています。● 都会で地域のみinnと助け合えること。買うもの(文ぼう具)などが近くで買える。● 知らない人ともすれちがったら、お互いにあいさつできる。● 地域の人たちとすごく仲が良いと、住みつづけたいです。助けあうこともできる。● 近所の人みんな仲が良い。● もう少し地域の人といっぱい話し合えたらいい。● 朝や下校のときあいさつをする。 |
|---|--|

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 自然が豊かで、<u>話せる人が多く</u>、大きな音が無い。 ● みんながみんなを思っている関係がある。 ● 人と近所で話せる。 ● ご近所の仲が良い。 ● 仲がよく助け合える近所がいいです。 ● 地域の人たちとの関りが深い。 ● ご近所さんと仲が良かったらいいです。 ● 優しい人がいるところ。 ● 仲が良くて親切。 ● 地震が起きたときすぐにご近所で助け合える。 ● 困っている人がいたら助けてあげる。 ● ご近所で仲よく、助けあえる。 ● 自然がいっぱいあって、みんな仲良く助けあって暮らせるところ。 ● 市民がみんな知り合い助け合える市なら、住みたいと思う。 ● 近所の人と仲がよくて、困ったことがあったら、助けあうことができる地域。 ● 明るく、近所の人と仲の良い地域。 ● ご近所の人たちが、やさしくしてくれて災害が少ない地域。 ● 地域の人との関係がよい。 ● どんな時でも協力できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 地震や水害がおきたときでも、みんな助けあっていけるところ。 ● 協力して、助け合うことや、みんな話しかけるところ。 ● みんなの仲がいい地域。 ● 仲よく助けあったほうがいい。 ● 自然が豊かな土地でご近所がとても仲の良い人。 ● <u>近所の人との交流がたくさんある</u>ところになってほしい。 ● 自然で豊かで、人がやさしい所が住みたい。 ● 近所で仲よく楽しいことがある所。 ● 地域の人達が元気で親切な地域。 ● 安全に、気楽にすごせてみんなが助け合えるような地域。 ● 親しくない人ともあいさつができる。 ● 緑があってみんなが親切。 ● ご近所の人と仲が良く、事故があっても助けあえる。 ● <u>交通ルールを守って</u>緑が豊かで助け合える地域。 ● 自ら、<u>あいさつをする</u>地域。 ● ご近所でずっと仲よくできるところ。 ● 地域で協力できて助けあえる地域。 ● 近所の人やさしくしてくれる。坂の高いところ。 |
|--|--|

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 近所で助け合えて、仲がいい。 ● <u>ご近所づきあい</u>がいい。 ● 自然が豊かで、知らない人でも助け合える地域。 ● 近所の人^がやさしく、友達が^多くて自然が多い所^がいい。 ● 近くの家の人が困ったら、助け合える。 ● 地域の人と助け合える。 ● <u>地域の人たちと交流できる機会が多い</u>地域。 ● みんなが親切で明るい地域。 ● 地域との関わりがよい。 ● 近所の人同士、仲がよくて助け合える地域。 ● みんな仲良しな地域。 ● 困っている人がいたら、助けあう。 ● わたしは、何かあっても近所で助け合える地域なら、住み続けたいです。 ● 住みやすくて、近所同士仲が良い地域。 ● 困った時、助けあえるところ。 ● 何かがあった時に近所で助け合える。 ● 年齢に関係なく近所の人と仲良くできる。 ● <u>昔から住んでいる人と新しく引越してきた人が仲良くできる</u>街、公園のある街。 ● 助け合える地域。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 地域みんなで協力したい。 ● 今の近所よりもっと協力出来て助け合えるような感になったら住み続けたい。 ● 僕がおじいちゃんになって外で苦しくなったとき助けてくれる地域。 ● 何か起こっても周りの人たちが優しく関わってくれる。 ● 困っている人がいたら助け合える。 ● 近所同士仲良くて困った時に、助けあえるといいと思う。 ● みんながみんなで助け合える所。 ● 近所の人たちが全員仲が良くて、すぐ何ごとでも助け合える。 ● みんなが仲良く明るくできる地域。 ● ご近所とすぐ仲良くなれる所。 ● 笑顔の街。 ● お年寄りに優しく、毎日笑顔で暮らせる街。 ● 困った時に助け合えて安心して暮らせる地域。 ● 近所のみんなが仲良く、<u>些細な事でも話が</u>できるよう助け合える地域。 ● みんなで助け合えるような地域。 ● 近所の人^がやさしくて困っていたら助け合える人たちがいる地域。 ● 地域の人と助け合える。 |
|---|--|

<ul style="list-style-type: none"> ● もっと、地域の仲が良く、色々な支援があった方が良い。 ● 地域全体で<u>笑顔が絶えない</u>。 ● 明るく、地域の人と話し合える。 ● 地域の交流が良い地域。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 犯罪がなく、<u>小さい子から年寄りまで仲の良い地域</u>。 ● ご近所で助け合える。 ● 子どもから高齢者まで仲良く暮らせる地域。 ● 地域全体が仲良く助け合っていていける。 ● 困っている人がいたら助け合える地域。
--	--

② 治安・防災に関すること

<ul style="list-style-type: none"> ● 逃げこめる所が近くにある所に住みたい。 ● 災害や事件がおきたとき、助けあえる地域。 ● 安全に住める地域だから。 ● 安全で気持ちがいい所。 ● 安全な建物の中や、倒れるものがない地域 ● 地震がおきたときに近くに避難所がある。 ● <u>家をあけているとき、家を見ている</u>。 ● 災害が起きたとき安心できる地域。 ● 自然災害がなく、悪い人もいない、平和なところ。 ● 交通が便利な場所で、災害のとき、すぐに逃げたりできるような所。 ● 地震があっても避難場所が多い所。 ● 地震、火事がおこったときの避難所。 ● 津波がなくて、地震が少ないところ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全で不審者・強盗やそんな人がいないところ。 ● <u>防犯設備がちゃんとしていて</u>、夜道も街灯があって明るく、災害が起きたとき、近所で助け合える、交通が便利な地域。 ● みんな仲良しで、犯罪がおこらない。 ● 地震やなんらかのことがおきたとき、みんなと協力して助け合う。 ● 災害が起きた所に支えをしてくれる地域。 ● 地震や津波がおきても安全な所。 ● もし、津波がきたときすばやく高いところに、逃げこめて、救助が早く来るところ。 ● 火事など災害が起きた時ご近所の方たちが助け合える。 ● <u>火事が起きたとき、すぐにご近所で助け合える</u>。 ● 暗い所、人があまり通らない所がない地域。
--	--

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 安全に暮らせる所。 ● 事故が少ない所。 ● <u>不自由な方でも安全で、安心だと思える地域。</u> ● 地域の人がやさしく、犯罪が無い平和なところ。 ● 地震や火災がおきたときに助け合えるようにしたい。 ● 事件が少なくて安心して住めるところ。 ● 自分の身に何かあった時、助けあえる、不審者のいない地いきなら。 ● 防災設備があって、安全で、お年寄りや子供が笑顔でやさしく、自然が豊かな地域。 ● 泥棒や不審者などの少ない地域。 ● 悪いことをする人がいない安全な地域。 ● 災害が起きたとき、近所で協力できるところ。 ● 災害があってもみんなが協力できる街。 ● 平和で何があっても親切なところに住みたい。いい人がいっぱいいるところ。 ● <u>老後の心配がない地域</u>、変な人がいきなり包丁とかで刺したりしない地域。 ● 災害の時、助け合える。<u>不審者が少ない</u>。近所づきあいがいい。 ● 近所の人たちと仲良く、不審者がいなくて平和のところ。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 友達がたくさんいて、災害が起きたとき避難場所が近くにあるところ。 ● 地震や火災がおきたとき助けあえる人たちがたくさんいる。 ● 災害があるとき、逃げられる場所がある。 ● 災害があった時、助け合い寄り添える未来を作りたい。 ● <u>災害などが起きたとき避難する場所が近くにある地域</u>に住み続けたいです。 ● 何か災害とかがおきたとき助け合えること。 ● お年寄りの援助や、地震がおきたとき、非常食や水が配られる。 ● 地震とかが来ても、山崩れや津波の来ないところ。 ● 土砂くずれや地震の被害が少ない所。 ● 自然が豊かで、もしも何かあったときにすぐに安全な場所に逃げられるように交通が便利な地域です。 ● 災害の心配が少なく、もしもの時はすぐに避難が出来たりするところ。 ● 災害が起きたとき、すぐに知らせたり対応してくれる地域。 ● 災害になった時、近所の人たちと助け合える。 ● 地震が起きたとき<u>近所で助け合える街</u>。 ● 地震が起きたとき、すぐにご近所で助け合える。 |
|--|--|

<ul style="list-style-type: none"> ● 交通が便利で災害の時に丈夫なところがある。 ● 地震が起きたら、すぐに避難ができる。 ● <u>災害がおきにくいところ。</u> ● 地震も津波もない所です。 ● 災害が少ない所。 ● 津波などが少ないところ。 ● 安全な街・場所。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 治安が良い地域。 ● 悪い人がいない地域。 ● <u>どの世代も安全に楽しく暮らせる。</u> ● 事件や事故のないところ。 ● <u>明るい地域</u>であること、何があっても安心できる。 ● この世の中が平和で、側と同じようなことができる。
--	---

③ 遊び、買い物、交通に関すること

<ul style="list-style-type: none"> ● 遊ぶ場所を増やして、安全な場所をたくさんつくる。 ● 友達ともみんないっしょに遊べる。 ● 友達が多くて遊ぶところがいい。あとお店もいっぱいあるところがあればいい。 ● もっといっぱい遊べるところがほしいです。 ● 遊ぶところがいっぱいあって<u>車などを気にしないで走りまわれるところ。</u> ● もうちょっと、遊ぶ所があって、友達と遊びやすい場所があってほしい。 ● 自然が豊かで、買い物が便利で、遊ぶところが多いところがいいです。 ● 自然が豊かで、遊ぶところが多くて交通が便利。 ● 遊ぶ場所が多ければ交流できる。 ● 安全な場所に遊ぶ所がある。 ● 近くに店があること。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 買い物がしやすい所。 ● お店などが近いところ。 ● 買い物の場所が家に近くて、友達が多い所。 ● 交通が便利で、すぐに買い物に行けるような所。 ● 知り合いが多くてお店が近い場所。 ● スーパーが近くにあれば。 ● 近くにお店があって、買い物が便利だし、知り合いが多いから。 ● <u>本屋が多くなってほしい。</u> ● <u>駅と店が近くにあるところ。</u> ● いろんなところにコンビニがある。病院がたくさんある。 ● 田がなくなってスーパーマーケットになったらいいな。 ● 家の近くにお店があってほしい。 ● 自然が豊かで交通が便利で<u>スーパーやコンビニがある所。</u> ● 文房具店が多い所。
---	---

- がけ上や交通が便利なところとすぐ買い物ができるといいです。
- もうすこし近くにスーパーなどがある。
- 買い物が近くにあるから、あまり遠くに行かなくても大丈夫だから。
- カーショップやゲームセンターや大きい広場や公園があって、電車の路線が多い町がいいと思います。
- 店が近くにある、近くに警察署、消防署、学校がある。近所に家がいっぱいあるところ。
- 買い物や交通が便利なところ。
- 自然がいっぱいあって買い物が便利で安全な地域。
- 売り物が安い地域に住みたいです。
- 不自由な人が買い物を心地よくできるようにしたい。
- 虫があまり出なくて、オシヤレのものができてほしい。
- ショッピングモールや、ファミレスがあるところ。住宅のところがいい。
- 都会で、買い物が便利で、空気がきれいなところで、交通が便利なところ。
- 交通が便利でショッピングセンターが数多くある。
- 文房具屋がたくさんある街。
- 友達が多くて、遊ぶところが多いところ。
- 子どもが遊べる場所が多い所。
- 交通が便利で、子どもが楽しく遊べるところがある地域。
- もうちょっと公園を増やし、もちろん遊具が多い方がいい。もっと「引っ越してきたいな。」という市にして、もうちょっと賑やかにすると思います。
- なるべく遊ぶ所やお店、ご近所の人たちがいいところ。
- 遊ぶ所がたくさんあって、楽しいところ。
- ショッピングモールがあり、街がきれいで、都会で、便利な店や遊ぶところがあり、生まれてきてよかったと思う街。
- 遊ぶところが多く、団地内の樹が減って、店の品揃えをもっとよくし、特産物や、有名なものが出来たらいいなと思う。
- 遊園地の近くがいい。映画館の近く。
- 遊ぶ所が沢山あって、楽しい所！！もっとお店とか増やしてほしい。それがムリなら、違うもっといい県！
- 遊べる所やショッピングモールなどが多い。
- 買い物が便利。

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● もうちょっとラポートみたいな建物を増やしてほしい。 ● 東三ツ木や堀兼は田舎なので、店が欲しい。 ● <u>店がたくさんあり</u>、事故が少なく、災害も少ない街。 ● 買い物や交通が便利で、施設がたくさんあり、<u>車道が広い</u>ところ。 ● 大きなデパートとかアウトレットなどがあったら、大人になっても住み続けたい。 ● 人がいて、スーパーとか買い物がたくさんあって、子どもが遊べる場所と<u>中学・高校生が遊んだりできる場所</u>があって、避難場所も近くにあるところ。 ● 交通が便利で<u>買い物も便利</u>で緑が豊かな地域。 ● 生活に便利な<u>バスの充実</u>。買い物する場所が近くに出来ればいいと思う。 ● ご近所さんたちの仲が良い、そして交通や買い物が便利。 ● 交通事故がなくて、けが人などが出ない地域。 ● 交差点での<u>事故が起こりにくい</u>街。 ● 空気が良くて、交通が良い所。 ● 道路が広くなって事故にならない。 ● <u>交通が安全な</u>地域。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 環境、交通の便が良く、交流が多いところ。稲荷山公園駅の改造。 ● 交通手段がたくさんあり、買い物が楽。そして<u>治安が良い</u>といいと思う。 ● 交通が便利で安全できれいな地域がいいと思います。 ● 森が近かったり、交通も便利で、ネットができる所。 ● 交通が便利で、交通事故などおきない地域です。 ● 交通がもっとよくなって、公園をいっぱいつくる。 ● 交通を便利にしたら、いいと思う。 ● ゴミが落ちていなくて交通が便利な地域。 ● 親が車を運転するときカーブのところが家がたつので見えなくなるから困るので、近所とか細かいところがいいところに住みたい。自然が豊かなど。 ● 交通が便利で近所の人が家族のように親しくしている。 ● 田舎だけどすぐ町とかに出られるような所。 ● 交通が便利で、お年寄りの方も、いっしょに暮らせる。 ● 色々なところに便利に行け、<u>人がたくさん交流できる</u>場所。 ● 交通が便利で住みやすい地域。 ● <u>交通が便利</u>な所。 |
|---|--|

● 自動車を減らして鉄道を利用する(CO2を減らす)。

● 交通事故が少ない。

④ 自然、環境に関すること

- 常に自然を大切にしてい
て、いっぱい森や林がある
ところ！！あと、田や畑がい
っぱいあるような所！！
- これからも自然が豊かであ
ってほしい。
- 公園が少ないからもうちょ
っと多くしたら。
- みんな外で遊んで、ゲーム・
家で遊ぶなどが少ない。
- 自然が豊かで動物や虫が多
い地域。
- 自然がいっぱいあったら住
む。
- 自然が豊か、多いところ。
- 自然が豊かで、あまり人工的
ではないところ。
- 自然が豊かで友達がっぱ
いいるところ。
- 自然が豊かでいつでも遊べ
るところ。
- 自然が豊かで緑が多い所。
- 自然が豊かで、マナーが守れ
るところ。
- 自然が豊かなところに住み
続けたい。
- 自然が豊かで気持ちいい地
域。
- もっと自然がもっと豊かだ
ったら狭山市にいたい。
- 自然の豊かな狭山市がいい
です。

- 田舎がいい。祭りなどがあ
って広い公園があって自転車
専用道路がある所。猫の出現
場所がある所。
- いなか。
- 海から遠くて自然いっぱい
な地域がいいです。
- 津波など近くに海がない場
所。
- 海から家が近いところ。
- まわりに海や山がない地
域。
- 東京のどまん中。
- 心がやすらぐ場所。具体的
に森など。
- はらっぱ（草がはえている
広い所）。
- 森、川などの危なくない場
所。
- 山の水が飲めるところ。
- 畑がいっぱいあって農作業
ができる地域に住みたい。
- 自分で野菜を育てられるよ
うなところ。
- 自然豊かで畑や田んぼが多
くあるところ。
- ネオンや街灯が多く、暗く
ないところ。
- 夜でも明るい、緑がある。
カラスがごみを荒さない。
- うるさくなく、夜景がきれ
いな街。

<ul style="list-style-type: none"> ● 都会でもないし、田舎すぎてもいないので、狭山市に住み続けたい。 ● 今は自然が豊かだけど、このまま<u>自然を保ち、楽しい暮らしをしたい。</u> ● <u>安全で自然がいっぱいのところ</u>なら大人になっても住み続けたい。 ● 自然が豊かで緑が多いところに住み続けたいと思う。 ● 今ある自然は、このまま、ずっと、あってほしい。 ● 地域の人たちがポイ捨てしないきれいな町。 ● <u>ゴミがなく、きれいな町</u>をつくりたい。 ● ゴミが少ない地域。～理由～ ゴミがたまに落ちているから。 ● 挨拶をみんながする、ゴミ拾いをみんながする。 ● 清掃活動みたいなのをやって、きれいなところ。 ● 自然が多く、16号のガス対策。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 虫の少ない所。 ● 犬がいるところ、ふんが落ちてない。 ● 生き物を大切にする地域。 ● <u>生き物がたくさんいるところ。</u> ● 自然が豊かで生き物を大切にする地域。 ● 公園が広い。 ● <u>大きな公園が近くにあるところ。</u> ● 自然が多いところか、友たちがいるところや静かなところか、車が少ないところ。 ● 自然が豊かで近所の人と仲良くなれて助け合える。 ● 自然が豊かで、遊ぶ所が多い所。 ● 自然が豊かな所、みんながやさしい所。 ● 風がきもちよくて、自然が豊かなところ。 ● 自然が豊かで空気がおいしい。 ● 自然が豊かで親切な地域。
--	---

⑤ 子育てに関すること

<ul style="list-style-type: none"> ● もし、何かあった時、近くに買い物できる場所ができたら便利だし、子どもができた時、<u>子どもが遊べる公園</u>なども増やしてくれるといい。 ● <u>子ども達がたくさん遊べる</u>ような公園が近くにあって、近所の人と仲が良ければよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大人になって、子どもといっしょに遊べるところがあるところがほしい。 ● 遊ぶ所が多く、いつでも<u>子どもが楽しめる所。</u> ● 子供が安心して遊べる公園や、近所で助け合える。 ● 森がもっと増えて、子どもが遊べる地域。
--	---

<ul style="list-style-type: none"> ● 事故やトラブルが少なく、自然が豊かで気持ちが落ち着き、<u>子どもが元気に遊んでいる街</u>。 ● <u>子どもがたくさんいるところ</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>子どもが安心して暮らせるところ</u>。 ● 環境が良く、<u>子どもがたくさんいる街</u>。
---	--

⑥ **友達・交流・イベントに関すること**

<ul style="list-style-type: none"> ● セタ祭りや近所の小さい祭りなど、<u>みんなと協力して、盛り上げていける地域</u>だとい ● 安全で怪我をしなくて、遊ぶところがたくさんで、<u>友達がいるところがいい</u>と思いました。 ● <u>もっと交流を増やせるイベント</u>を地域で行いたい。 ● <u>みんなで集まれる施設</u>がもう少しあると、放課後が楽しくなる。 ● 交通が便利で、自然が豊かで<u>友達がたくさんいる地域</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 友達が多いこと。今の家。 ● 友達が多くて、緑のきれいな所。 ● 友達が多いから年をとっても仲良くできるから。 ● 自然が豊かな、話せる友達が<u>いっぱいいる地域</u>。 ● いい友達がいるところ。 ● 友達がたくさんいる町。 ● 知り合い、友だちが<u>いっぱいいる地域</u>。 ● 楽しい所。 ● ひまな時に話す人がいる。
---	--

⑦ **就労・教育に関すること**

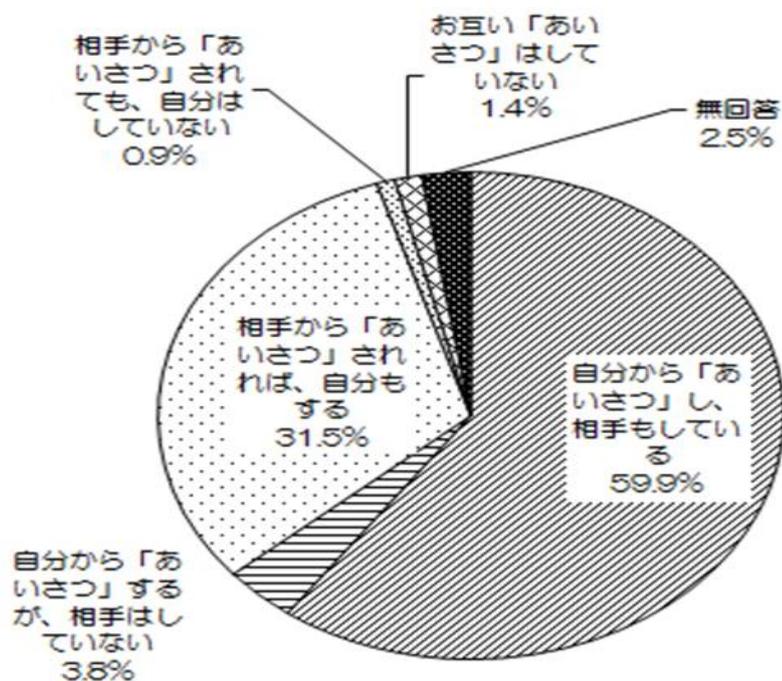
<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校の<u>教育レベルを上げたり</u>、大人になって、仕事をするときの時給をあげてくれればいい。 ● <u>いじめや差別がなく</u>、いつ誰が来ても「ここはとても良いところだ」と思ってもらえる街。 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>働けるところが近く</u>にあり、安定した収入が得られ、子どもが遊ぶところが多い地域。 ● 学校の近く。 ● 月給などが多い。
--	--

⑧ **その他**

<ul style="list-style-type: none"> ● わたしは、<u>今住んでいる場所</u>が好きだから、できれば大人になっても住みたいと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 狭山市に住み続けたい、悪いところがなく<u>住みやすいから</u>。 ● 今のまがいいと思う。
---	--

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● <u>家族と一緒にいたいから、ずっと狭山に住みたいです。</u> ● 東京に住んでみたい。狭山よりも都会に住んで、<u>狭山にない所を感じたい。</u>狭山の方が良かったらもどって来ると思う。 ● 東京以外の地域なら住み続けたい。 ● 静岡のような県。 ● 大人になって都会にでたい。 ● どこでも大丈夫。 ● 住み続けたくはない、<u>もっと発展させてほしい。</u> ● 自分勝手な人、迷惑をかけて平気な人がいない地域。 ● 変なおばさんに悪いうわさを流されないようなところ。 ● <u>近所とのトラブルをなくす。</u> ● 家が近すぎてどこが自分の家なのか分からなくなってしまいうから。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 友達がたくさんいる。飛行機の音がしずか。家がたくさん。学校が近い。ご近所と仲良く。広場がある。 ● 庭が広くて、友だちが多くて、景色がよくて、お店が近い。 ● 生活が便利なこと。 ● <u>便利な所に住みたい。</u> ● 不自由なく暮らせる所。 ● 有名なものがあるところ（<u>自慢できるのがあるところ</u>）。 ● 障害者の方のための設備が整っている所。静かな所。 ● もっと<u>近くに病院などができたほうが良い。</u> ● 病院が家から近くて安心できる。 ● わからない。 ● 特にはないです。 |
|---|--|

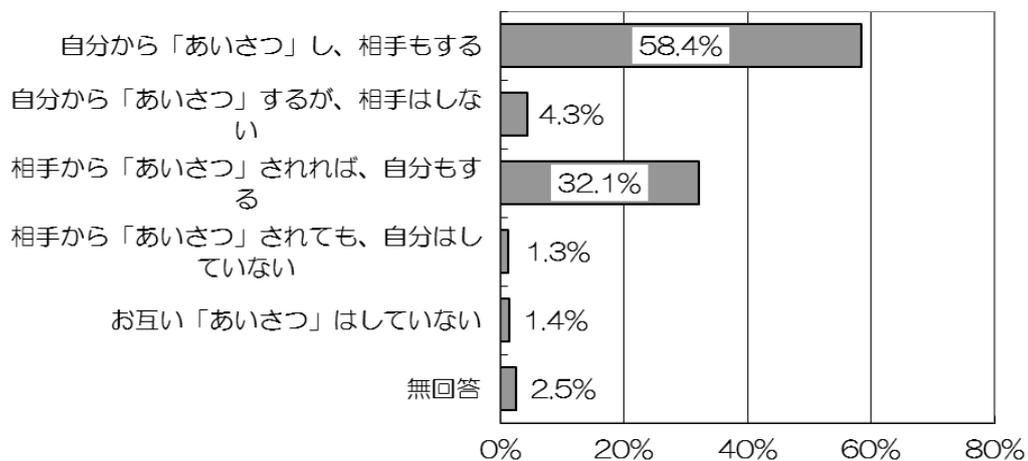
問7 あなたは、ご近所の方など、地域の大人に対して「あいさつ」をしていますか。



「自分から「あいさつ」し、相手もしている」(59.9%) がもっとも高く、次いで「相手から「あいさつ」されれば、自分もする」(31.5%) となっています。

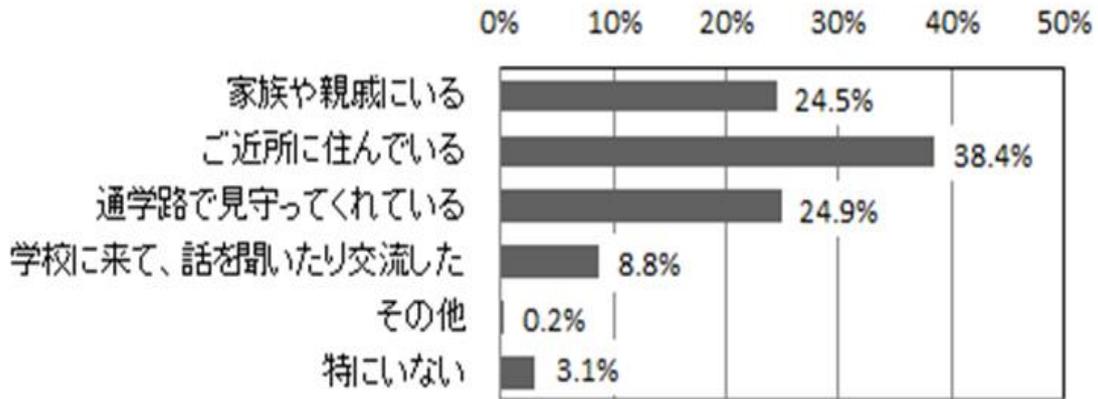
前回調査でも同様の回答が上位となっています。

《参考》 前回調査 (問7)



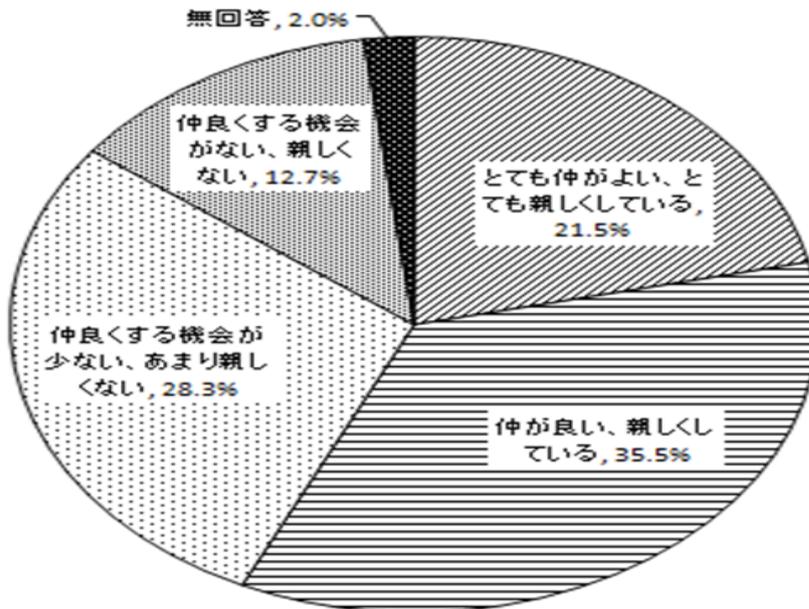
(3) 要援護者への支援に関すること

問8 あなたが住んでいる地域には、お年寄り（おじいさんやおばあさんなど）がいますか。あてはまるところ（全て）をお答えください。



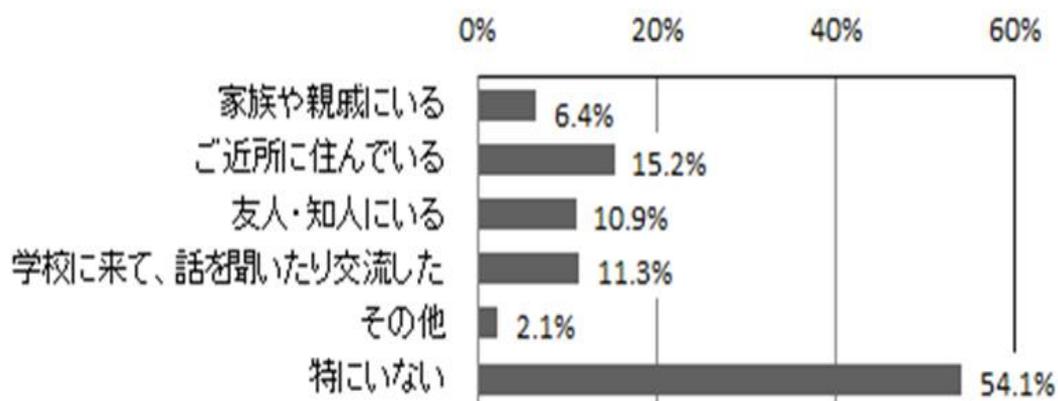
「ご近所に住んでいる」(38.4%) がもっとも高く、次いで「通学路で見守ってくれている」(24.9%)、「家族や親戚にいる」(24.5%) となっています。

問9 あなたは、そのお年寄りと仲が良いですか。



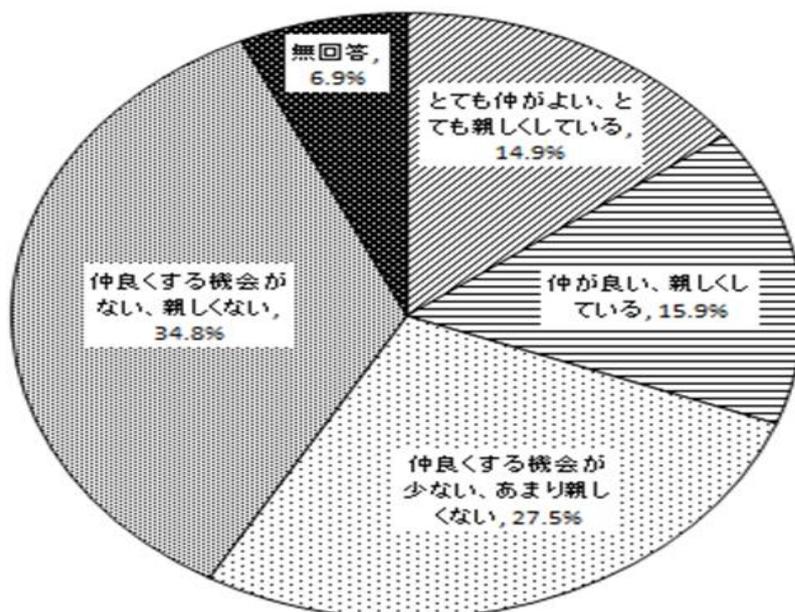
「仲が良い、親しくしている」(35.8%) がもっとも高く、「とても仲がよい、とても親しくしている」「仲が良い、親しくしている」を合わせて、お年寄りと仲が良いとの回答が57.0%となっています。

問 10 あなたが住んでいる地域には、「障がい」がある方がいますか。あてはまるところ（全て）をお答えください。



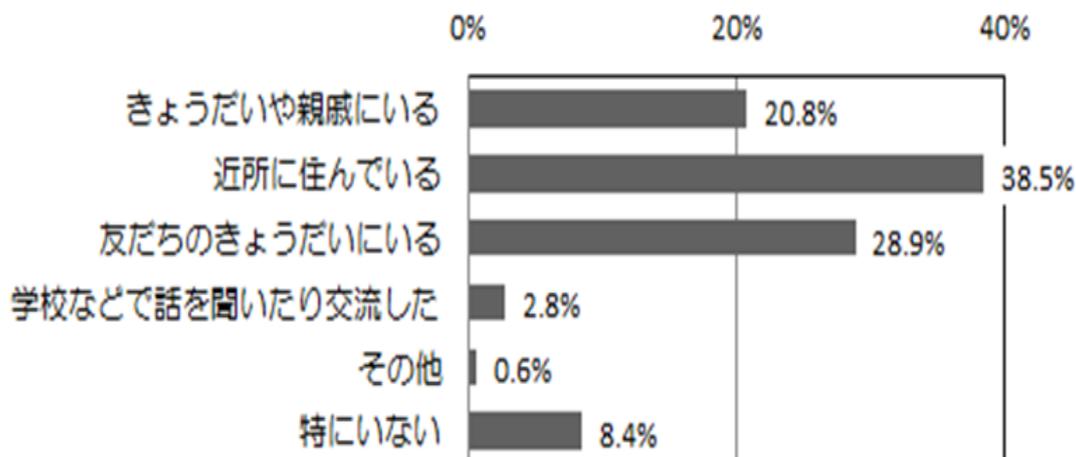
「特にいない」(54.1%) がもっとも高く、次いで「ご近所に住んでいる」(15.2%) となっています。

問 11 あなたは、その「障がい」がある方と仲が良いですか。



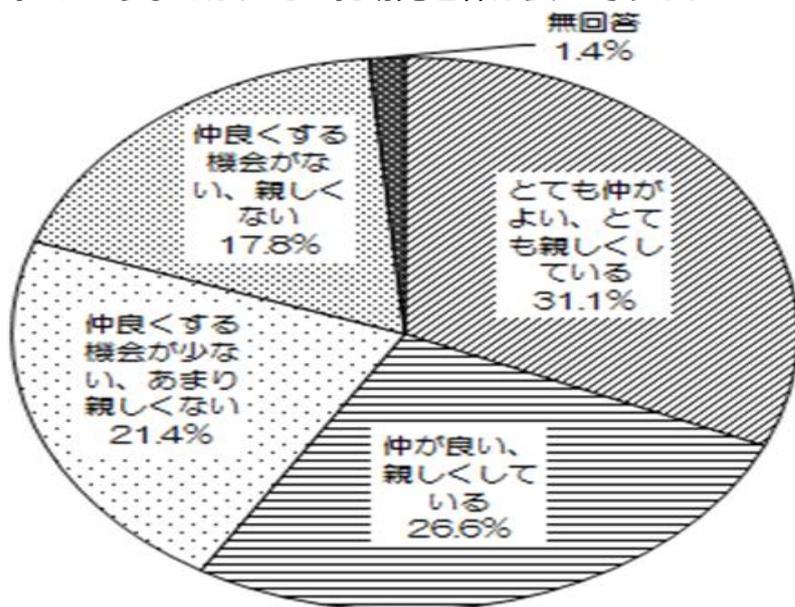
「仲良くする機会がない、親しくない」(34.8%) がもっとも高く、「とても仲がよい、とても親しくしている」「仲が良い、親しくしている」を合わせて、「障がい」のある方と仲が良いとの回答が 30.8% となっています。

問 12 あなたが住んでいる地域には、乳幼児（赤ちゃんや幼稚園・保育園に通う子）がいますか。あてはまるところ（全て）をお答えください。



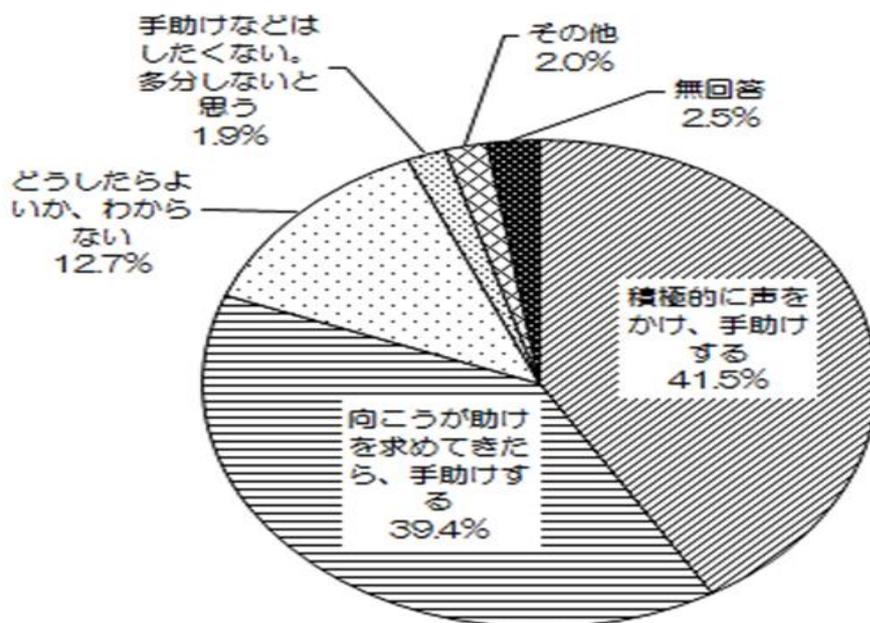
「ご近所に住んでいる」（38.5%）がもっとも高く、次いで「友だちのきょうだいにいる」（28.9%）となっています。

問 13 あなたは、その乳幼児と仲が良いですか。



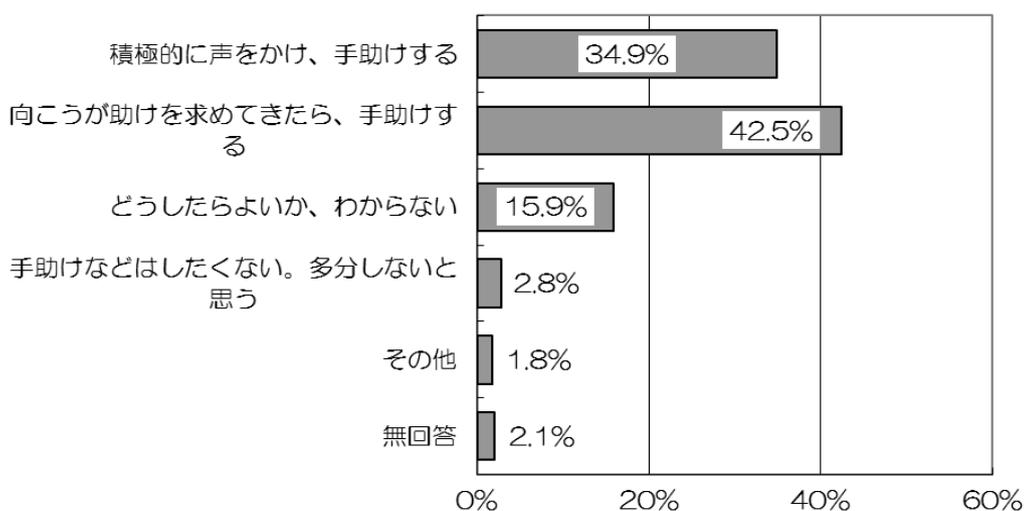
「とても仲がよい、とても親しくしている」（31.1%）がもっとも高く、「とても仲がよい、とても親しくしている」「仲が良い、親しくしている」と合わせて、乳幼児と仲が良いとの回答が 57.7% となっています。

問 14 近所にいるおじいさんが道で困っています。あなたなら、どのように接しますか。

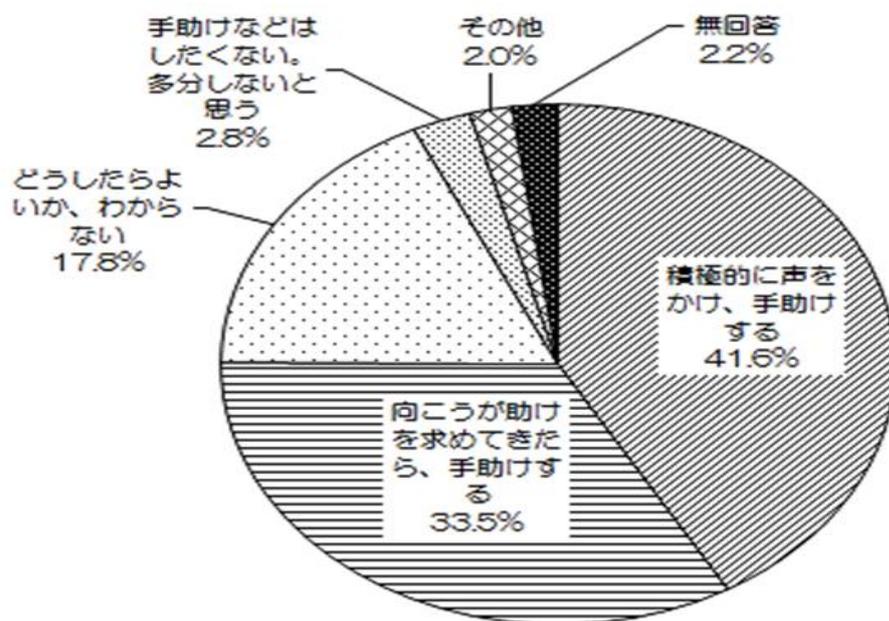


「積極的に声をかけ、手助けする」（41.5%）が最も高く、「積極的に声をかけ、手助けする」「向こうが助けを求めてきたら、手助けする」と合わせて、手助けをするとの回答が80.9%となっています。
 前回調査でも同様の回答が上位となっており、手助けをすると回答した方が微増しています。

《参考》 前回調査（問 14）



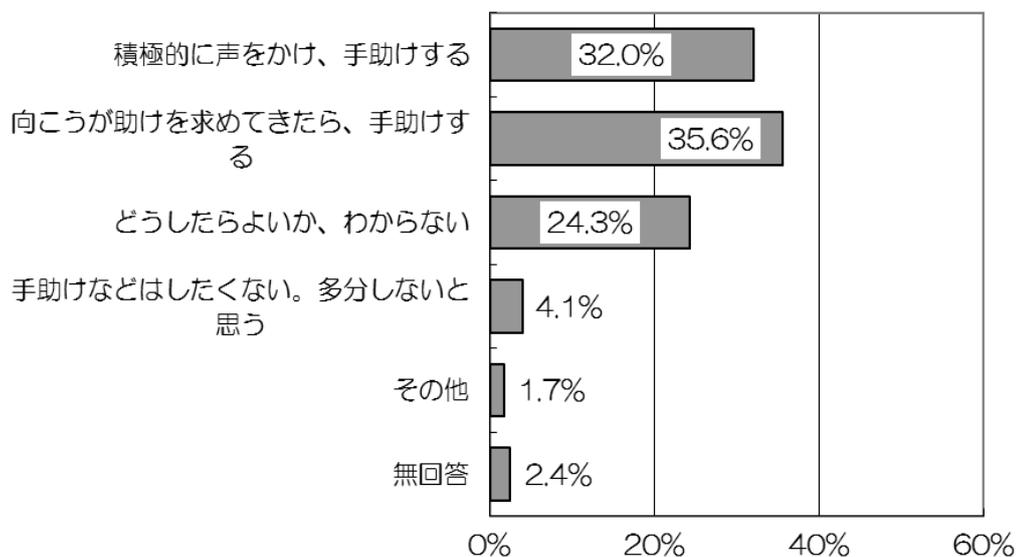
問 15 近所にいる「障がい」がある方が道で困っています。あなたなら、どのように接しますか。



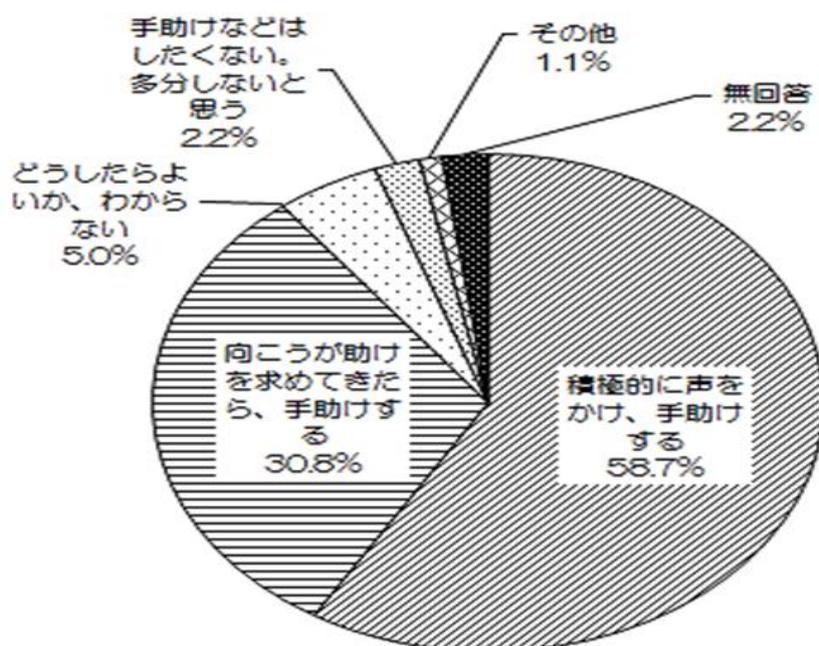
「積極的に声をかけ、手助けする」(41.6%) がもっとも高く、次いで「積極的に声をかけ、手助けする」「向こうが助けを求めてきたら、手助けする」と合わせて、手助けをするとの回答が 75.1% となっています。

前回調査でも同様の回答が上位となっており、手助けをすると回答した方が増加しています。

《参考》 前回調査 (問 15)

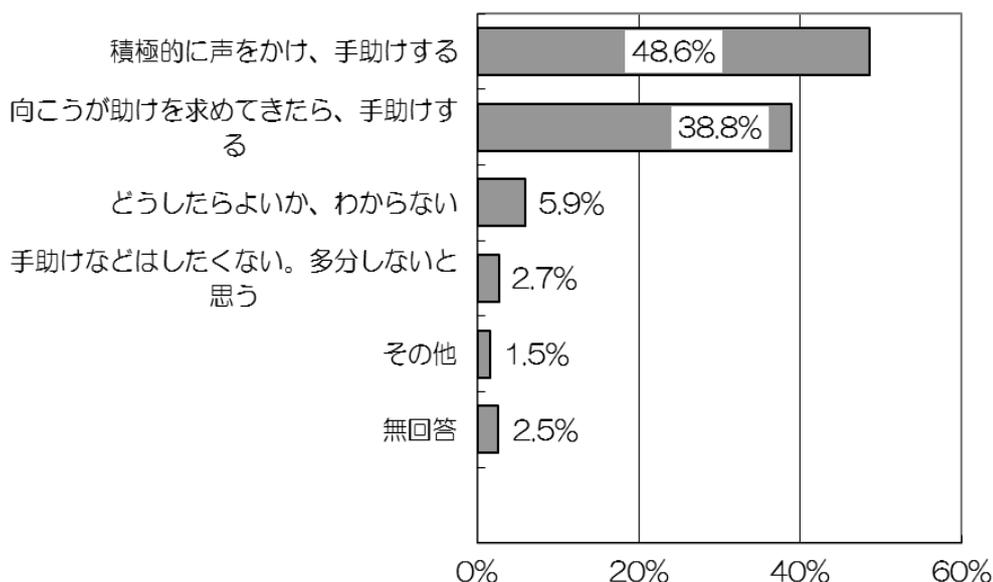


問 16 校内で困っている生徒がいます。あなたなら、どのように接しますか。

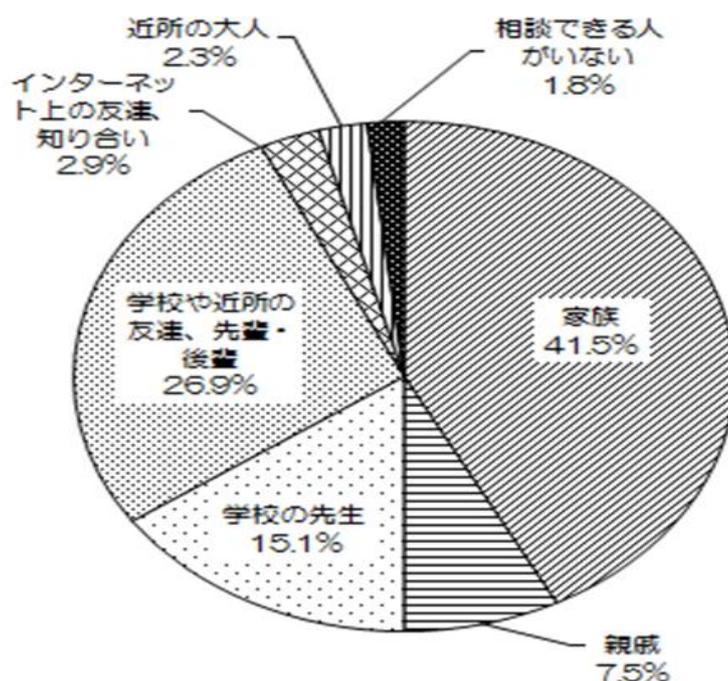


「積極的に声をかけ、手助けする」(58.7%) がもっとも高く、「積極的に声をかけ、手助けする」「向こうが助けを求めてきたら、手助けする」と合わせて、手助けをするとの回答が89.5%となっています。前回調査でも同様の回答が上位となっており、手助けをすると回答した方が微増しています。

《参考》 前回調査 (問 16)



問 17 あなたは、困っている時に誰に相談をしますか。



「家族」(41.5%) がもっとも高く、次いで「学校や近所の友達、先輩・後輩」(26.9%) となっています。

問 18 今後、何らかの支援を必要とするお年寄り（おじいさんやおばあさんなど）、「障がい」がある方などが、一段と増えていきます。みんながいつまでも仲良く幸せに生活していくためには、どんなことが必要ですか。あなたの考えや気持ちを書いてください。

主な意見

- 交流を増やして、いざという時に助け合えるようにする。
- 笑顔であいさつをし、顔見知りになる。
- 近所づきあいを増やす。
- 子どもから高齢者まで、皆が参加できる場をつくる。
- 高齢者や障がい者のことを知る。
- 差別をしないで思いやりをもって接する。
- 誰かに任せっきりにしないで、少しでも協力する。
- 接し方が分からないので、学ぶ機会があると良い。
- 建物や道路などのバリアフリー化を進める。
- ボランティアに参加する。

① 地域のつながりや支え合いに関すること

- お年よりや障がいのある人だからって、いじめたり差別せず仲良く助けあっていけるようになったら良いと思っている。
- 困っているときに助けあったり、仲良くしてからだったら、積極的に助けるようにしたい。
- その相手に、やさしく、親切にして、困っている人を助ける。そして、市民全員で助けあえる関係にしたい。
- 積極的にあいさつ、手助けし、相手の心を動かし仲良くしていく。それから相手の方も同じことをしていかないと仲良くはなれないと思う。外へ出てお出かけでも行ってみたらどうだろうか。地域の防災訓練などイベントがあった時はなるべく行くなどすると大人と話すことができ、おたがい仲良くできる。ただ、大人がひどい言葉を言うとお年寄りは行きたくなくなるだろう。そうならないためには「やさしい言葉づかいで積極的にあいさつや手助けすると、みんながいつまでも幸せに生活できる」と私は思う。
- お互いに仲よく、やさしい気持ちをもって接することが大切だと思います。
- もっと交流を深めて、いざという時にも上手に接することが出来るようにしたらいいと思う。お年寄りや障がい者方を大切に接する。
- みんなが仲よく、気持ち良くすごせるように、誰でも、誰とでも助けあえる関係になり、何か困っている人がいれば男女・大人・子ども関係なく、助けてあげることがとても大切で今、必要だと思います。
- みんながみんなを大切にすることが大事だと思います。そしたら何かあったときも、助けてあげられると思います。普段から親しみを持って接することが、大事だと思います。
- お年寄りや障がい者など関係がなく仲良く助けあうことが大切だと思います。お互いにあいさつをし合い、地域との関わりを強くするべきだと思う。
- 障がいがあっても、なくてもお互いに助け合い、思いやりをもって接し仲良く幸せに暮らしていくことが大事。
- 障がいの方でも関係なく、困っていたりしたら助けてあげてくれることを心がけたりすることが大切だと思う。

- 自分から友達などになりたいと努力して、家族などに相談できる人を増やして行って相談してすっきりできるようにする。
- 困っていたら助けてあげたり、いつも元気な所を見せて元気をつけてもらい、あいさつもしっかりしたことが大事だと思います。
- 人と人が相手の気持ちを考え、どうしたらいいかを思いやりをもって接することができれば、みんなの暮らしがよりよくなる。
- 困っていたら、積極的に声をかけ、助け合い、お互い挨拶をして、地域の方が幸せに暮らせるようにすることが大事だと思う。
- 相手が困っていたら声をかけたり、助けてあげることが大事だと思う。また、あいさつをする。
- みんなが協力し合って、困っている人がいたら、気づいた人が声をかけてみんなが楽しくなれる地域を作ることが大切だと思う。
- 相手のことを常に思いやり、困っている人がいたら積極的に声をかけ、豊かで争いのない人間関係を築く。
- 差別することなく、笑顔で接し助けていく。差別している人がいたら注意する。
- 人に対して常にやさしい気持ちをもって生活する。誰かの力になれるよう努力することが大切だと思う。
- 仲良くしたりする！あいさつとか皆にちゃんとしっかりとする。困っていたりしていたら、声をかけたり、聞いたりする！！
- お互い積極的に声を掛け合い、あいさつしたりしてコミュニケーションをとることが大事だと思うのと、積極的にボランティアに参加して地域の人と関わっていくことが必要。また、誰かが困っていたら恥ずかしがらずに声をかけ助けることが地域の人がいつまでも仲良く幸せに生活していけると思う。
- お互いやさしく、思いやりをもって接することが大事だと思う。暴言は絶対ダメ。
- 偏見の目で見ないで、お互いに寄り添って助けあっていけばいいと思います。
- 障がい者のお年寄りを見つけたら自分から声をかけて助けた方がいいと思う。
- 助け合い、思いやりが大事だと思う。あと、声をかけられたら、ちゃんと返事をする。
- 人を差別することなく仲良く暮らせればいいと思う。
- お互い思いやりを持つことが大切。

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 路であったら挨拶をし、親しくなり問題が起きたら協力できるようにする。 ● お互いにあいさつし、思いやりを持って接することが大事だと思う。 ● お互いあいさつしあい、困っていたりしたら自分から積極的に手伝う。 ● 相手を優先として、困っていたら声をかける。そしてあいさつもする。 ● あいさつをする、やさしくする。声をかける。困っていたら声をかけたり、助けてあげる。 ● 笑顔であいさつしたり、笑顔で困っている人にたずねることが大切。 ● 困っている人がいたら助けて、手助けやあいさつを中心に親しんでいく事が大事だと思う。あいさつをたくさんする。 ● あいさつをしっかりし、困っている人には、積極的に助けてあげることが大切。 ● あいさつなどで接する機会を増やして、やさしく接したり、助けたりする。 ● あいさつし、助け合い、仲よくしていき、接することが必要だと思う。 ● お互いあいさつし、困っていたら声をかけ、なるべく仲良くしておく。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 積極的にあいさつや、声かけ。誰にでも相談できることが大切だと思う。<u>ありがとうの気持ちをしっかり言う。</u> ● お互いにあいさつし、積極的に接することが大事だと思う。 ● 互いにあいさつして思いやりをもつことが大事だと思う。 ● 1人1人積極的にあいさつをして、みんなで助け合うことが大切だと思う。 ● お互いにあいさつをし合い、時間がある時は話したりしたら親しくなれると思う。 ● 何かあれば助け合い、あいさつも、もっと増やしたい。 ● みんなが普段からあいさつや、話をしたりすることが大切だと思う。 ● お互いにあいさつし、相手のことを知っておく。 ● 自分からあいさつし、困っている人がいたら助け合いたいと思う。 ● 元気よく挨拶などをして、近所の方と仲良く、思いやりをもって接していくことが大切。 ● お互いにあいさつし、思いやりをもって接することが大切だと思う。 ● あいさつをしっかりして、気軽に声をかけ、助けあっていきたい。 |
|--|--|

- 挨拶やマナーを大切にして、思い合うことが必要だと思う。
- いじめなどがなく、お互い協力し合うことが大事だと思う。
- いじめなどがなく、お互い協力し合うことが大事だと思う。
- 積極的に声かけをする。家族が手助けする。
- 優しくしたり声を自分からかけたりする。
- 積極的に声をかけて、どんな人でも、親しくなって顔を知る事が大事と思う。
- 困っている人がいたら、積極的に話しかける。
- 道に迷っていたら積極的に声をかけ道を教えるようにする。
- 困っていたら自分から声をかける。
- 困っていたら、声をかけ、お互いに親しくする事が必要だと思う。
- 困っているお年寄りや障がいがある方がいたら声をかけ、助け合いをするのが大切だと思う。
- 自分から話し、友だち・知り合いになり名前をおぼえて、困っている時助ける。
- 何か困っていそうだったら、積極的に声をかけて助け合うことが大切。
- たくさんあいさつして、いざという時に助け合えるようにしておくことが大切と思う。
- みんなと仲が良く、あいさつがあり、積極的に手助けができること。
- お互いにあいさつし、思いやりを持って接すること。
- お互い声を掛け合い、助け合う。安全に生活をする。
- お互いがお互いを思いやるようなことが必要だと思う。
- お互いのことを理解し、思いやりをもって接することが大事だと思う。
- 思いやりを持ち、みんなで支え合う。
- お互いの事を考えて協力して生活していくことが大切である。
- 互いを思いやって行動する。
- 思いやりを持ち、誰もが助け合うことが当たり前という気持ちを持てたら素敵だと思う。
- 思いやりをもって助け合う気持ちをみんなが持てればいいと思います。
- みんなが一人一人を思って生活をすればよい、便利で快適な街を作ればよいと思う。
- 支え合ったりすることが大事だと思います。

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● お互いに助け合って思いやりをもって接することが大事だと思う。 ● 困っている人がいたらすぐに助け、思いやりの多い地域にする。 ● お互いに思いやり、協力し合うことが大切だと思います。 ● みんなと助け合い、思いやりを持って生活することが大事だと思う。 ● お互いに協力し、みんなで思いやりを持って接することが一番大事だと思う。 ● みんなで協力していき、思いやりを持って仲良く暮らしていけたらいいと思います。 ● できないことを手伝ってあげて思いあう。 ● みんなで助け合い、<u>良い言葉が飛び交うようにする</u>。 ● みんなで助け合うことが大事だと思う。 ● 若い人たちが助けあう。 ● お互いに助け合い、あいさつをしあえることが大事だと思う。 ● お互い困っているときには、助けて、協力することが大事だと思う。 ● いっぱい助け合って、きずなを深められたらいいと思います。 ● お互いに困っていたら助け合うことが大切だと思う。 | <ul style="list-style-type: none"> ● お互いに協力し合って困っている時は助ける。 ● みんなで助け合うこと。 ● みんなで協力しあうといいと思う。 ● みんながみんなお互いを理解し合い助け合うことが大切。 ● お互いに支えあうことが大切だと思う。 ● お互い助けあったり、支えあったりしたらいいと思う。 ● 困っている時はお互いに助け合う。 ● みんなで助けあいながら生活していけばいいと思う。 ● お互いに助けあうことが大事だと思う。 ● 助け合う。仲良くする。 ● おたがい助けあい、いっぱい接することが大切だと思う。 ● お互いに助けあって、交流して、親しくなることが大切だと思う。 ● お互いに助けあい思いやりをもって接することが大事。お話相手になってあげる。 ● みんなが助け合って幸せになれることが大事だと思う。 ● お互いに助け合いをすることが大事だと思う。 ● 一人が困っていたらみんなが助け合えることが大事。 ● みんなで助け合う地域にしたい。 |
|---|--|

<ul style="list-style-type: none"> ● <u>地域同士で助け合ったり、支援できるような環境をつくる事が大切だ</u>と思う。 ● なるべく近所のおじいさん、おばあさんと仲良くなっておけば、助け合いができると思います。 ● 助け合い笑顔で仲良く暮らす。 ● 色々な人と助け合っていた方がいいと思います。 ● 思いやったり、助け合う。 ● なるべく声をかけたりする。 ● お年寄りの方と仲良くすれば、困った時にお年寄りに相談できると思う。 ● お互いに仲良くしていき、関係を大切にすることが大事だと思う。 ● 手伝いをする気持ちをもった人たちが増えれば、いいと思う。 ● みんなが手助けして仲良くする。 ● 困っていたりしたら助けてあげる。 ● みんなで助け合うことが大事。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 助け合って生きる。災害が起きたときとかは障がいがある人とか、お年寄りの方の手伝いをする。 ● 困っているときは、お互いに助けあう。 ● 皆で助け合える生活。 ● 困っている人を助けて、事故をなくすようにする。 ● 知らない人でも助けあっていきていく。 ● お互いに相手のことを理解し合って支え合っていくことが大事だと思う。 ● 積極的に助けたりして、そういうのをすれば近所が良くなる。 ● どんな人にもやさしくして、いけばいいと思う。 ● 相手が、安心できるようにやさしく接する。 ● 仲良く接する場所があったらいいと思います。 ● みんなが仲良くする。 ● 助けたり、話しあったりする。 ● 協力し助け合えることが大事。 ● 地域で助け合う。
--	---

② あいさつに関すること

<ul style="list-style-type: none"> ● 積極的に声をかけ、あいさつをする。 ● お互いにあいさつをして、やさしく、声をかけたりしていく。お互いに助け合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>元気にあいさつ</u>する。積極的に話しかける。困っている人を見つけたら手助けする。 ● 自分からあいさつして、困っている人がいたら助ける。
--	--

- あいさつなどして地域の人と親しみをもってなにごとも協力できることが大事だと思う。
- 会ったらまずあいさつする。
- お年寄りがいたらあいさつをして、困っていることを手伝ってあげるような生活をしていきたいです。
- お互いにあいさつし、「地震が来た」といったら助けられる事が大事だと思う。
- 通学の時「いってらっしゃい」と言ってくれる人がいるので、笑顔で挨拶をしたい。やさしい気持ちが何よりも大切度と思う。
- 助け合い。積極的に声をかけるなど、会ったらあいさつ。気軽に話す。
- あいさつも大切！！お互い助け合いながら生きていく！！
- あいさつがきっかけで、親しくなることもあるので大切だと思う。
- あいさつや、いっしょに話したりして親しくした方がいいと思う。
- いつも登校のとき立ってくれる年寄りさんにあいさつをする。
- あいさつをし、顔を知ってもらえれば、もっと仲良く幸せに暮らせる。
- まず、身近な、あいさつをしたらいいと思う。高齢者の方には、はっきりとした言葉でゆっくり話してあげる。
- 全員と仲良く幸せに生活出来るかは分かりませんが、見かけたらあいさつする位でいいと思います。
- あいさつがとても大切になってくると思います。また、周りの環境も機械的なものが増えたりしているので、昔ながらの自然豊かな環境が大切だと思います。
- 毎日のように挨拶することで、地域の交流が深まり助けてほしい時に助けることができると思う。
- みんなで挨拶をして、挨拶でいっぱいになる地域がいい。近所人に積極的に話しかける
- 挨拶をすることが日常の中の一つにしたらいいと思う。
- いじめをしたり、いけないことをしないで、お互いにあいさつをすることが大事だと思う。
- どんなときもあいさつできて、仲良くできたらいいと思う。
- 近所の人と会う度にあいさつをし、仲良く接することが大事だと思う。
- あいさつしあって、みんなをいい気持ちにする。

<ul style="list-style-type: none"> ● 知らない人でも、あいさつをして困っていたら助ける。 ● 障がいがある人を避けたりしないで、あいさつをすることだと思ふ。 ● お互いにあいさつし、誰にでもやさしくする。 ● お互いにあいさつをして、困ったとき助けてもらう。 ● 元気にあいさつをしてふれ合う。 ● いつも会ったらあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 近所の人や花に水やりをしている時など、あいさつをして仲よく話す。 ● できるだけ家や朝「おはよう」などの言葉をかけ、病気になるていないか確認する。 ● みんなと仲良く、お互いにあいさつをする。 ● あいさつをして、親しくなる。 ● 自分からあいさつをするようにする。
---	---

③ 地域交流に関すること

<ul style="list-style-type: none"> ● お年寄りの人達にやさしく声をかけて手助けしたり、あいさつやお話をしたらいいと思う。お年寄りの人達が喜ぶ事や交流しあえるところを作ったら、とても良いと思う。自然豊かな場所をお年寄りの人達といっしょに散歩するなど、交流をしたい。 ● 仲よくするためには、いつも顔を合わせて、困ったときには手助けをしたりする。 ● 近所のおじいさん、おばあさんと親しくなること。赤ちゃんや子どもがと仲よくする。 ● お互いに思いやりをもつ、<u>近所の付き合いを多くすること</u>が大切だと思ふ。 ● 親しくし、やさしく接するのがいいと思ふ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 月に一度くらいに交流し、親しくなって仲良くなり、お互いやさしい心を持って接する。 ● <u>もっとお年寄り・障がいの人と交流する。</u> ● 今までより話して楽しくすごして、そのまんま続いていけばいい。 ● もっと地域の人と親しくしたい。 ● 困っていたら助けたり、あいさつをいっぱいしたらいいと思う。思いやりをもつて仲良くする。 ● 地域の防災訓練をし、地域の人顔を知る。 ● その人たちと積極的に交流していくと良いと思ふ。 ● もっと仲良くなっていろいろな行事に参加する。
---	--

- 障がいがある人でもできるイベントを作れば楽しく生活できると思う。
- 一般の人と障害者の交流を増やしてお互い積極的に話し合うことが良いと思う。
- あいさつをして、交流を増やしていくことが大切だと思いました。
- お互いに交流を深め、ともに思いやりを持ち、しゃべったりすることが大事。
- 友達と仲よく明るい町にする。交通事故にあわない。
- 積極的に助け合い、もっと知らない人でも交流していけばいいと思う。
- 近所の人と親しくなるために、近くで開催する行事などに積極的に参加した方がいいと思う。
- やさしく接して仲良くすることと、地域で交流することが大切だと思う。
- 優しく接する。
- 月に1回くらい、地域の人達と交流会をやる。お話をしたりする機会が増えて、少しずついろいろな人と親しくなれるように。
- お年寄りの方や障がいをもっている方などに自分から声をかけたり、あいさつをして仲良くなり、近所の人などいっぱい交流し、助けあって住むことが大事だと思う。
- お年寄りとあいさつをして、学校や幼児などの人達と交流をして笑顔を増やし、話を聞いて、絆を深める。
- もっとお年寄りなどの方と交流をする機会を増やし、もっと親しくしていくことが大事だと思う。
- 自治会でお年寄りや子供たちが一緒に参加できる場を作ったり協力し合うことが大事だと思う。
- お年寄り、障害の方と交流を持つ機会を増やし、お互いに信頼関係ができていないと、声も簡単に掛けられない(失礼になることもある)と僕は思う。
- みんなが思いやりを持てば、悲しいことは起きないと思う。まず、近所の人と交流を増やし、みんなでやればいいと思う。一人でやるのは不安だし、できないと思う人が多いと思うが、みんなで活動すれば積極的になれると思う。
- 近所の人達から交流、あいさつをしていき、仲良くしていく必要があると思います。声をかけていき一緒に何かできる事を考える。
- どんな人が近所に住んでいるのかわかるように、あいさつや交流をするのが大事。
- 仲良くする。

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 親しくする機会を増やす。 ● あいさつを互いにするなど親しくする機会を増やすことが大切だと思う。 ● 挨拶したり、地域の行事に率先して参加する。 ● 子どもと触れ合える老人コーナー的なものを作る。 ● みんなが気軽に話せる関係になる。 ● どんな障害や差別も、仲間割れはしないで、普通に話したり、遊んだりすればよいと思う。 ● お思いやりをもってお互いコミュニケーションをとり合う。 ● お年寄りと仲良くし、たくさん声をかける。 ● <u>お年寄りや障がい者、地域の人たちが接する機会が増えればよい</u>と思う。 ● 会ったらあいさつをし、少し、お話をしたりすることが大切だと思います。 ● お互いに接する機会を増やして仲良くすることが大事だと思う。 ● 挨拶やししゃべったりして、少しずつ親しくなっていけばいいと思う。 ● みんなで話をするために集まって仲良くしたい。 ● 交流するきっかけをたくさん増やす。 ● 地域の活動に参加する。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 差別なしに誰にでも声を掛けられるようにする、また、自分から挨拶し、<u>親しい人たちと交流する</u>などして接していくことがこれから大事だと思う ● お年寄りの話を聞き、良いことは真似をし、悪いことは真似をせず、よりよい狭山市にしたい。 ● 近所との交流を増やし、親しくなりあいさつする事が大事だと思う。 ● あいさつをしたりして、お互いを知っておくこと。 ● お年寄りでも障害を持っている人でも、交流を続けて遊んだり、助けたりする。 ● 周りの人ともっとたくさん関わりを持つことが必要になっていくと思う。 ● 地域の人たちとの関係を深めて触れあったりする。 ● 地域の人との交流が必要とされると思います。 ● 障害のある人の作業所でバザーが開かれた時、積極的に参加する。 ● 友だちと楽しく遊べるように工夫する。 ● いろいろな人と親しくなる。(交流する) ● 自分から声をかけていき、仲を深めていく。 ● あいさつをして、仲良くできるように話したりする。 |
|--|--|

④ 高齢者や障がい者への支援に関すること

- お年寄りや障がい者の人に長生きや幸せになってほしい。だからわたしはお年寄りや障がい者の方が大変そうにしたら、助けてあげる。
- 困っている人や障がいをもっている人には、声をかけて助ける。あいさつや親しみもわすれずに、接する。
- 目の見えない人や耳の聞こえない人の対応の仕方をまず広めるといいと思う。
- 支援する人が増えると、みんながいつまでも暮らせる。
- 障がいのある方がきたら、すぐに話し、お手伝いとかよく話したりしに行く。親切にして、仲良くする。
- もっともっと障がいがある方やお年寄りなどをもっと助けることが大事だと思います。
- お年寄りの人に、サービスを付けたり、助け合ったりできるように、呼びかけをしたりと、お年寄りにやさしくする。
- そういう人と、顔見知りになり、何かがあったら助けを求められるような関係にする。
- おじいさんやおばあさんを助けてあげたり、話をたくさんして関りを多くする。
- お年寄りでも障がいがある方でもなるべく 1人でできることはするべきだと思う。できない所だけみんなで協力、助け合えば良いと思う。支援に力を入れすぎてしまうと、それがあたり前になるから、支援のやり方もよく考えた方が良いと思う。
- お年寄りの方なら、できることをできるだけ、障がいがある方なら何の「障がい」かについて、手助けする内容を変えたりする。
- ぼくは、障がいをもっている人が困っていたら声をかけて助けたいと思う。
- その人が、困るということがないように、ぼくたちが支援をすればいいと思う。
- まずどのような障害の人がいるのか知り、相手の事を知るのが大事だと思う。
- 積極的におじいさん・おばあさん・障がいがある人に話を聞いて助けてあげる。
- お互いにあいさつして、お年寄りの人を、助けることが大事だと思う。
- あいさつをして、やさしく接し、障がいの方がいたらすぐに助ける。
- 困っていたら助けてあげる。あいさつをする。

- おじいさんやおばあさんの生活を理解し、困っていたら手を差し伸べることが大事。 障がいを持っている人の生活などを体験したり、学校で行う支援にも積極的にでて、理解し合うことが大事。あいさつをしっかりすることが大事。地域の方がかかえている問題をきいて、それを改善していきたいと思う。
- 障がいがあるからといって、人を差別せず思いやりを持って接し、困っている様だったら、積極的に話しかけ助けてあげる。 あいさつをされたら、いやそうにあいさつをかえすのではなく、明るくやさしく、あいさつをする。
- 自分の事だけではなく、助ける気持ちをもって生活することが大事だと思う。 障がいの持った方が、道の真ん中(きけんな所)にいたら、声をかけてあげる。
- お年寄り、障がい者だからって特別あつかいをするのではなく、ふつうの人と同じようにやさしく思いやりをもって接するのが大切だと思います。
- 困っている人がいたらしっかり声をかけて、あいさつやいろいろしっかりしていきたいです。 自分から声をかけて助けてあげたいです。
- 困っていたら助けてあげたり、お年寄りの人が重たいものを持っていたら、自分が持って少しでも楽になれるようにしてあげたいです。 それからお互いに、あいさつをして親しくなれるようにしたいです。
- お年寄り、障害のある方と関わる機会を増やして、信頼関係を築き、困っていることなどを話し合えるようになる事が大事だと思う。
- 向こうから助けを求めてきたら助けて、おばあちゃんやおじいさんなどを助けていきたいです。
- 困っていたら助けるし、お互いにあいさつをするなど、みんなと同じようにふつうに接するのが一番大切だと思います。
- あいさつをして仲良くしていきたいです。 お年寄りの方達に声をかけたり席をゆすったりして、目の不自由な人が近くにいたら避けてあげることが大切なことだと思います。
- 積極的にコミュニケーションをとっていければいいと思う。 障害者の為に手話を覚えたりすれば、仲良く生活できると思う。
- 障害のある人がいたら積極的に声をかけて助ける。

- 思いやりを持って接すること、またその人に対して何かできることがあれば手伝う。交流を深めて、もう少し仲良くなる。
- 誰かに任せっきりでなく、少しでも協力するという気持ちを持つことが大切な第一歩と思う。
- お年寄りや障がいがある人関係なくあいさつをしたり話しかけたりして、もし困っている人がいたらスルーしないで助けてあげることが大切だと思います。
- 障がいを持っている方を区別する人がいます。まず、それはなくしたら不愉快になる人がいないと思います。それから、お年寄りは年をとってしまうのはしょうがないことですし、いつかは自分たちもお年寄りになっていくから今助けられるお年寄りの方を助けたいです。
- 他の誰かがやってくれるという気持ちを無くし、自分から積極的に手助けをすることが大事だと思う。
- しっかりとコミュニケーションをとり、どんなことにも優しく対応することが大事。
- 毎週一日でも障がいの方と遊んだり、例と同じく思いやりをもって接するのいいと思う。
- もし障がいをもっている人が困っていたら自分たちが積極的に助ければよいと思う。
- 声かけられたら助ける、積極的すぎると逆に迷惑。
- 障がいのある方には積極的に声をかける。
- 障害のある方を馬鹿にしない。
- 障がい者の差別、意識をなるべく無くす。
- 自由で元気がある僕たち子供や若い人が積極的に動くことが大切だと思う。
- 相手が困っていたら、積極的に手助けをする。挨拶をする。
- 若い人が積極的に支援する。
- 最近障害のある方をよく見かけますので、障害者への工夫がもう少しあるといいです。
- 差別をしないで他の人と平等に接することが大事だと思う。
- お年寄りや、障害者の人に対応するのは難しいと思うがうまく対応したい。
- 障がいについてお互い詳しくなり、その怖さを知ってもらおう。
- 困っているお年寄りの方や、障がいがある方には、明るく接するのが大切だと思う。

<ul style="list-style-type: none"> ● 困っていたら、声をかけて、助けてあげる。あいさつも自分からやるのが大事だと思う。 ● おじいさん、おばあさん、障がいの人でも不便はなく、困っていたら助けてあげる。 ● <u>接し方がわからないから学校で学ぶ機会があればいい</u>と思う。 ● 何か困っているお年寄りの人がいたら親切に接して、手伝う。 ● 自分から声をかけ、困っていることを助けてあげる。 ● 困っている時はぜったい助けることが大切だと思う。 ● 障害のある人をすすんで助ける。 ● みんながそういう人たちに譲る心を持ち、元気のない人を助けたらよい。 ● お年寄りにやさしくするといいと思う。 ● 相手の気持ちを考えて行動する。 ● できるかぎり、手伝えることをする。 ● あいさつをして、どこに行くか聞いて、行き場所について行ってあげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎日あいさつをして荷物を持つのを手伝う。バスや電車で席をゆずる。 ● 年寄り、障がい、関係なく親しくするのが大事だと思う。 ● お年寄りの人たちと仲良くし、信頼できる関係になることが大事だと思う。 ● 障がいのある方には無理をさせず、協力し合える事が大事だと思う。 ● 思いやりを持ち、自分から声をかけることを心掛けたらいいと思う。 ● 差別などをなくしたり思いやりをもつことが大切だと思います。 ● あいさつなどをして思いやりを持って接することが大事だと思います。 ● 積極的に話しあって、やさしい気持ちをもって接すること。 ● 障がいがある人に助けたりして、より良い暮らしにする。 ● 手助けをする人が増えればいい。 ● お年寄りや障がい者が、もし困っていたら助けてあげたいと思います。
--	---

⑤ 環境に関すること

<ul style="list-style-type: none"> ● 車イスの方や目・耳が不自由な方のための設備を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ● バスや電車のドアに外に出ないように近づくと警報などが鳴った方がいいと思う。
--	---

- 公園などをきれいにしたり、買い物をする場所を増やす。バリアフリーをたくさん増やす。「障がい」のある人も住みやすい市をつくる。
- 障がいがある方の家に手すりや足もとの小さな段差などをなくし小さな坂を取り付けるなどする。家で暮らせない方は施設でみんなストレスがたまらないように楽しく仲良く生活するためには、障がい者を重く感じないで施設で暮らしている人と仲良くしていれば楽しく暮らせると思いません。
- 歩道を広くしたり段差をなくす町作りをすること。
- 車などはお年寄りを優先し、道の段差を少なくする。
- 事故がおこらないように安全な道などにする。安全になるようにガードレールなどをつけたりする。
- バリアフリーなどのお年寄りや障害のある方が安心して使える施設を増やし、そういう人への心の心がけを大切にしていくこと。
- お年寄りが便利になるよう、休憩する「ベンチ」などがあった方がいいし、助け合いをしていけばいい。
- お年寄りが快適にすごせるような施設をつくるといいと思う。
- お互いに仲良くし、年齢に関係なく接することとお年寄りや障がいのある方でも安心できる環境のことが大事。
- お年寄りや障害者の為のスロープや手すり、点字など、色々なところがあるといい。
- 車いすの人のためのスロープとか足が悪い人のためのスロープ、点字などを設置してほしい。手話をみんなで勉強してほしい。
- バリアフリーを増やす。障害のある人を差別したりせず、優しくその人が居心地の良いように接する。老人ホームなどに気楽に行けるようにする。
- 路に点字ブロックを作る。不自由のない街を作る。ゴミなどを放置しない。
- 公共施設に手すり、エスカレーター、エレベーターを設置。
- エレベーターを増やす。
- 年寄りがいく施設が大事だと思う。
- 障害者などを助けるような建物を増やす。
- お年寄りや障がい者に優しい公共施設を増やし、学校の行事でその施設との交流をたくさんする。
- 困っている人がいれば、誰でも助けてあげられる環境を作ればよい。

<ul style="list-style-type: none"> ● 駅や商業の場合のバリアフリー。あいさつ運動を駅など。 ● バリアフリーを増やし、高齢者や障害者が住みやすい地域にする。 ● 街のバリアフリー化、誰でも気軽に利用できる街づくり。 ● 急な坂とか階段は減らして、信号付きの横断歩道を増やす。 ● バリアフリーを考える。 ● 生活しやすい環境にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● お年寄りや障害者が楽に暮らせる設備、施設を作る。 ● 障害者やお年寄りなどが生活しやすいようにしていくことが大事だと思う。 ● お店とかが近くにあったら、体の不自由な人などが、生活しやすいと思います。 ● 誰もがすごしやすい道や店があるといい。 ● お年寄りの施設を増やし、仲よくなるために、たくさんの交流を増やす。
--	--

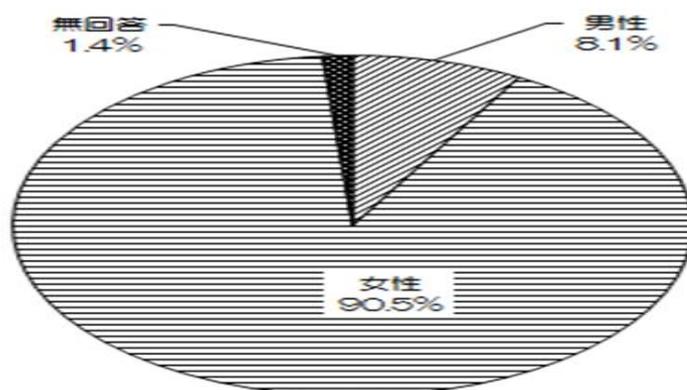
⑥ その他

<ul style="list-style-type: none"> ● いじめなどをなくす。 ● <u>どんなことでも相談できる</u>ところがほしい。 ● パラリンピックを続ける。 ● 知らない人に声をかけない。 ● 例と同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>ボランティアに参加する</u>。 ● ボランティアを増やす。 ● 募金活動があったら積極的に取り組む。 ● 先ず、税金を下げてから考えましょう。 ● わからない。
---	--

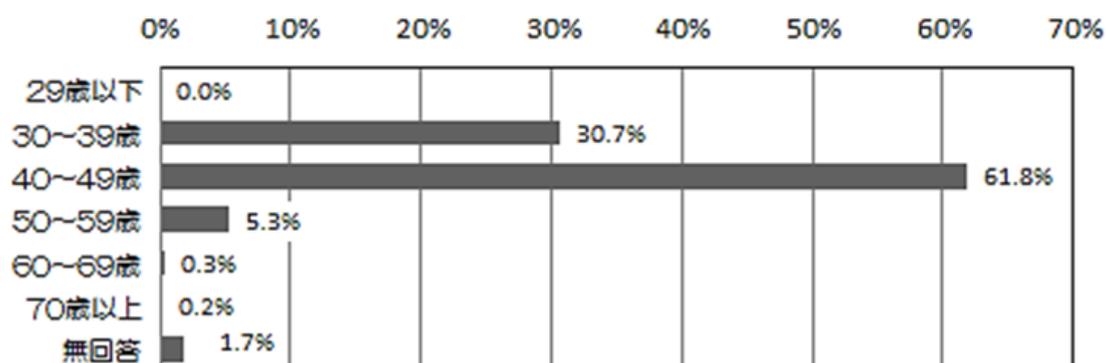
第2節 調査の結果【保護者編】

(1) 回答者に関する基本的な情報

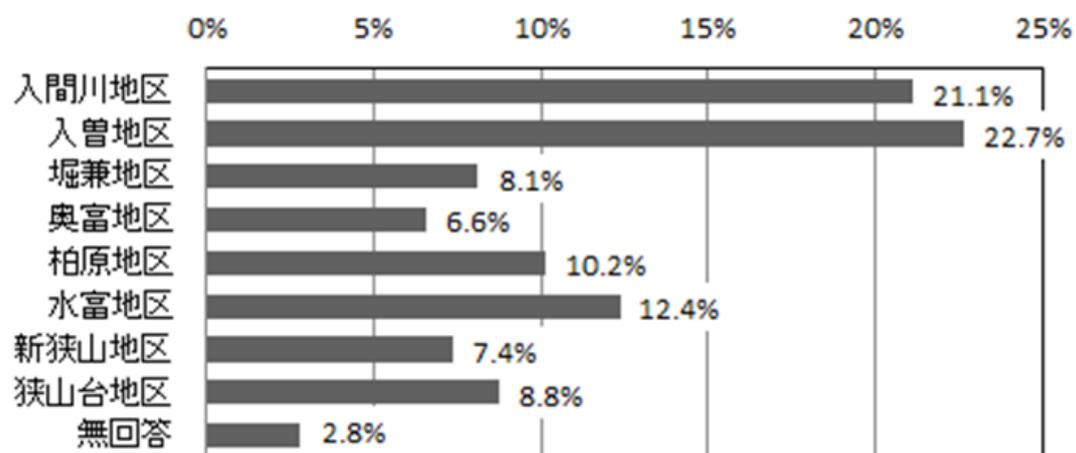
問1 性別



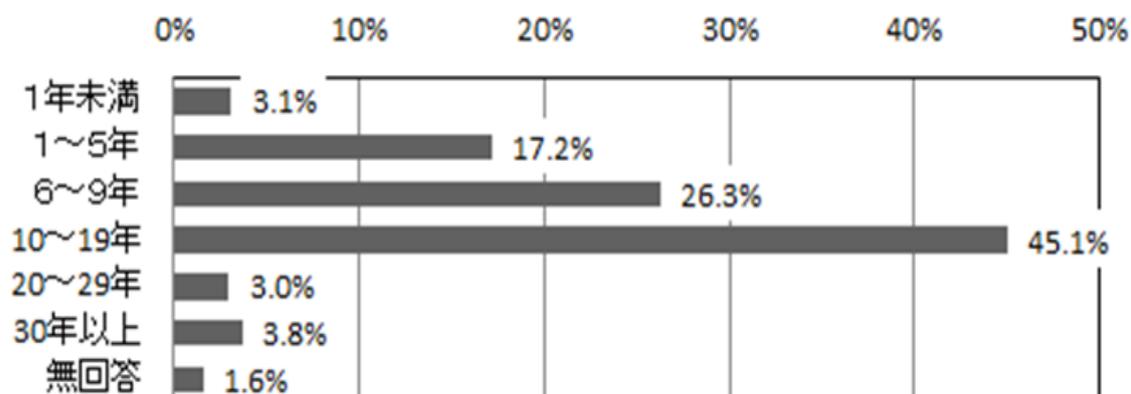
問2 年齢層



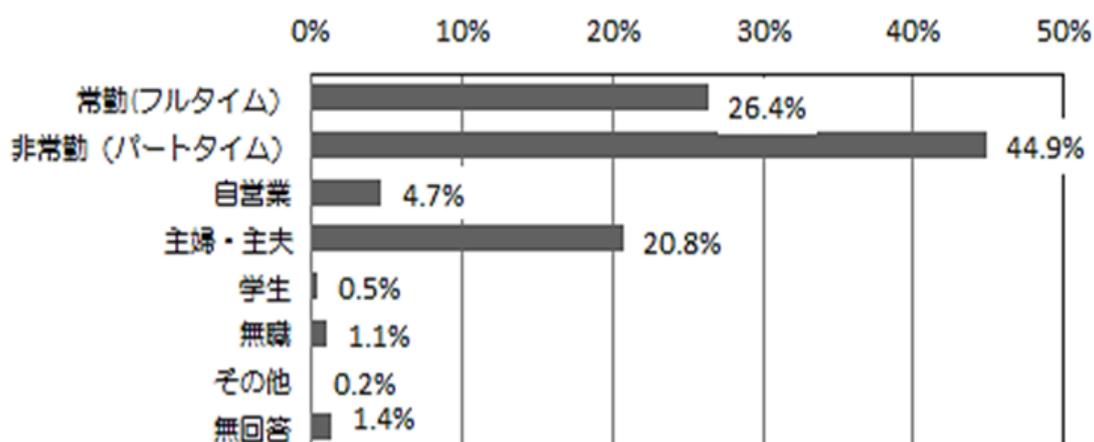
問3 居住地区



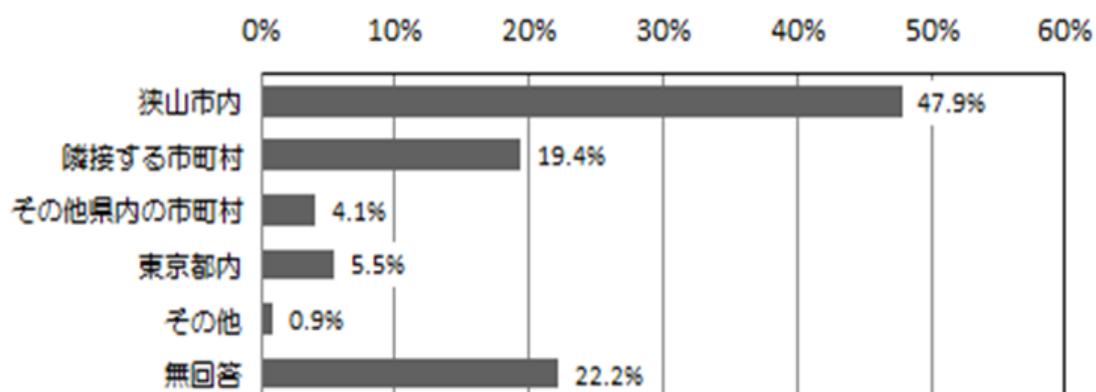
問 4 現住所の居住年数



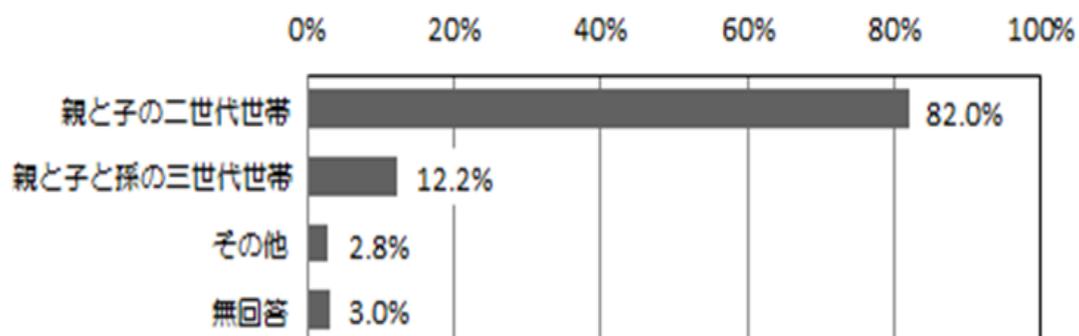
問 5 職業



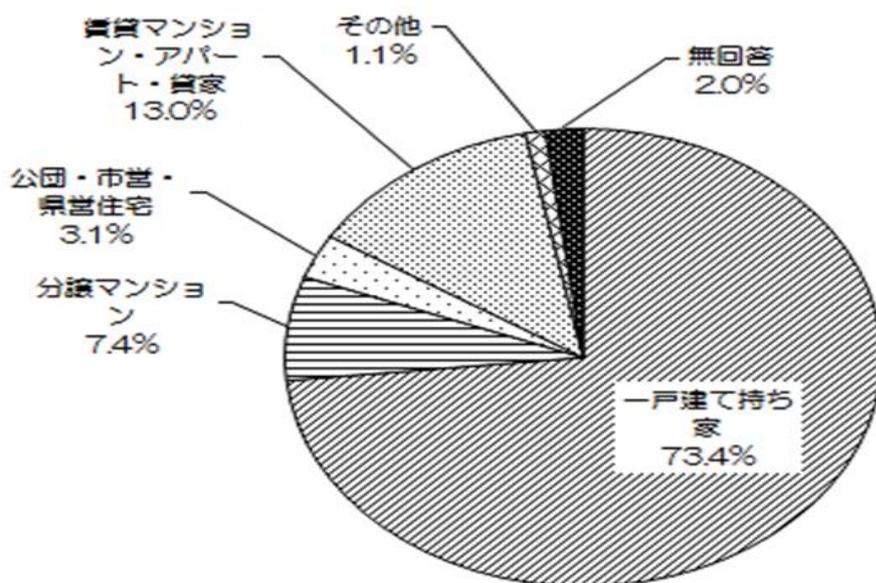
問 6 通勤・通学先の場所



問 7 家族構成

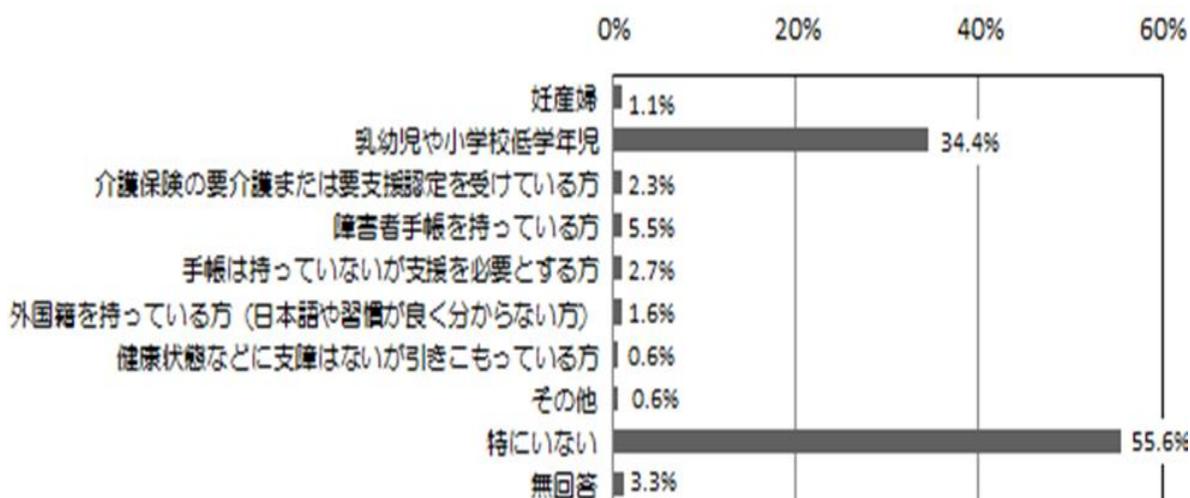


問 8 住居形態



(2) 家族と身の回りに関すること

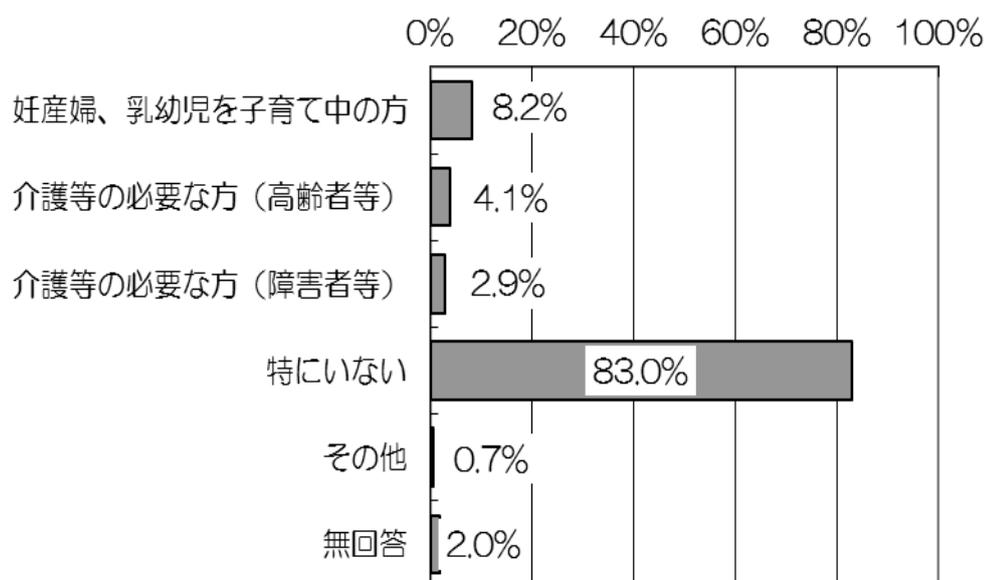
問9 あなた自身、またはあなたと同居されているご家族の中に右表に掲げる方がいますか。あてはまるところ（全て）をお答えください。



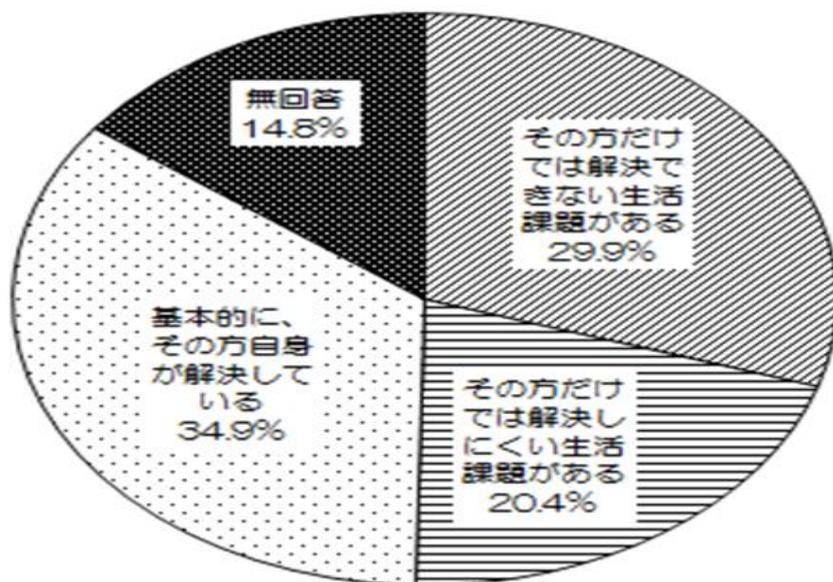
「乳幼児や小学校低学年を子育て中」（34.4%）がもっとも高くなっています。

子育て以外の介助・介護等が必要な同居家族がいる方が12.7%となっており、前回調査の7.0%から上昇しています。

《参考》 前回調査回答（問12）



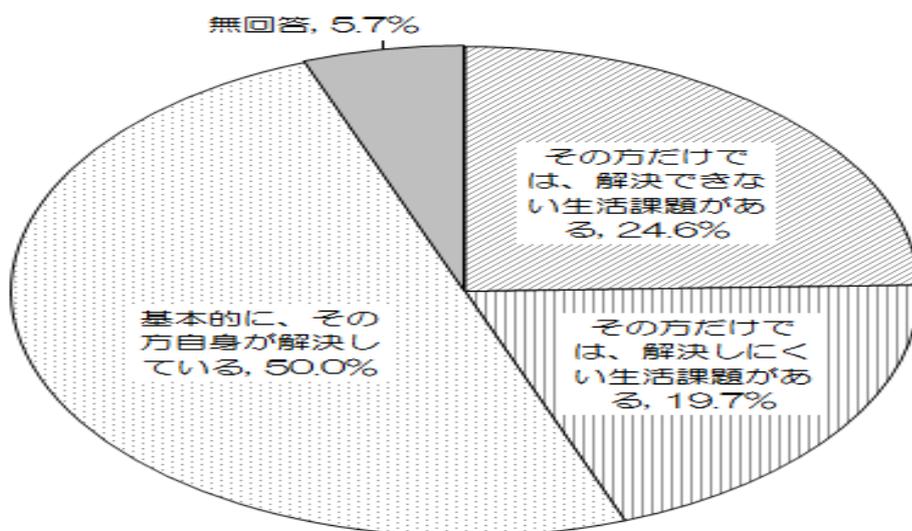
問 10 その方の生活課題（身の回りのことや家事等）は、その方自身が解決されていますか。



「その方だけでは、解決できない生活課題がある」と回答された方が全体の 29.9%となっています。

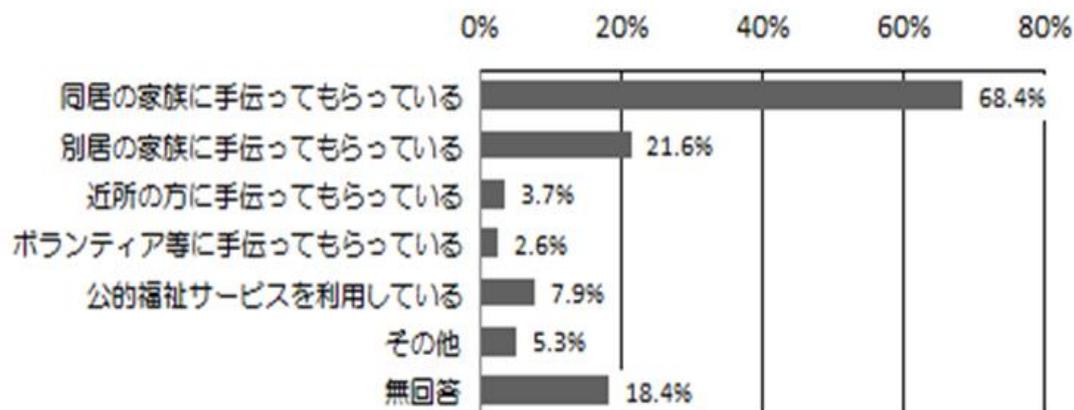
なお、前回調査では「その方だけでは、解決できない生活課題がある」「その方だけでは、解決しにくい生活課題がある」と回答された方の合計が 44.3%でしたが、今回は 50.3%と微増となっています。

《参考》 前回調査回答（問 13）



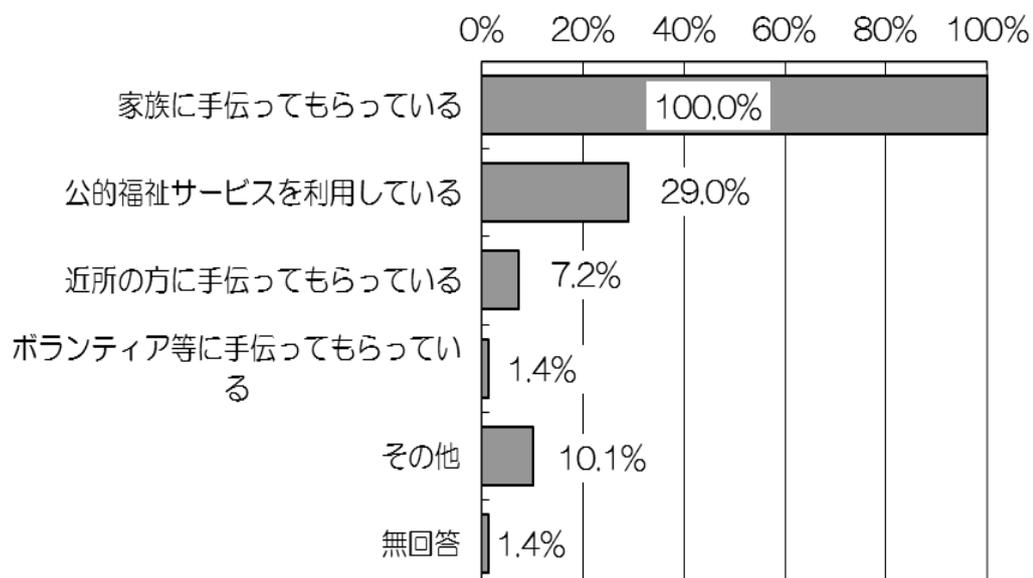
問 11 生活課題の解決に向け、どのような方法をとられていますか。

(答え「いくつでも」)

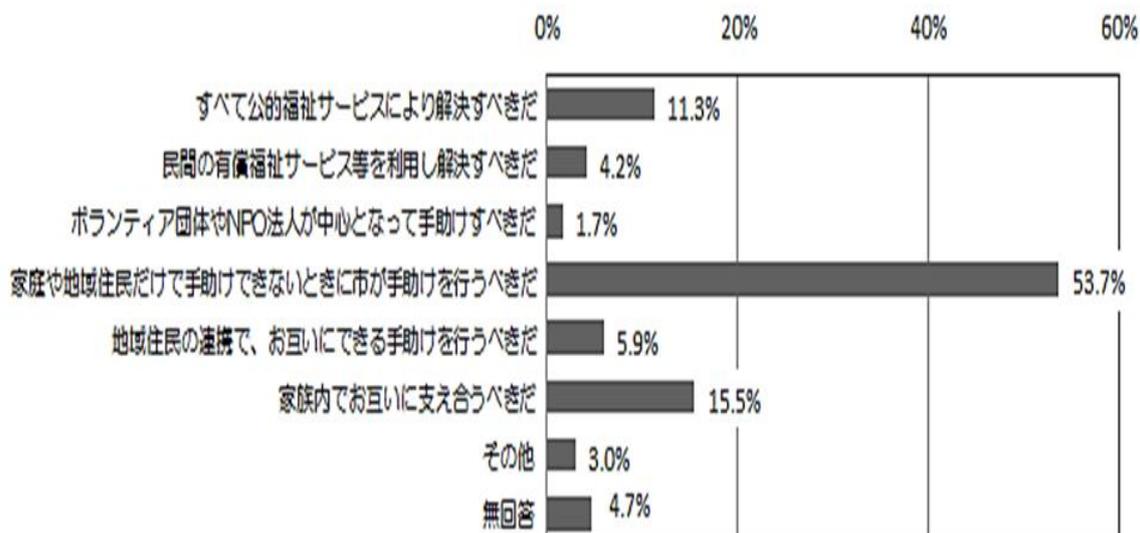


「家族に手伝ってもらっている」(68.4%) がもっとも高く、次いで「別居の家族に手伝ってもらっている」(21.6%) となっています。なお、前回調査でも「家族に手伝ってもらおう」がもっとも高く、家族による支援の大きさが伺えます。

《参考》 前回調査回答 (問 14)



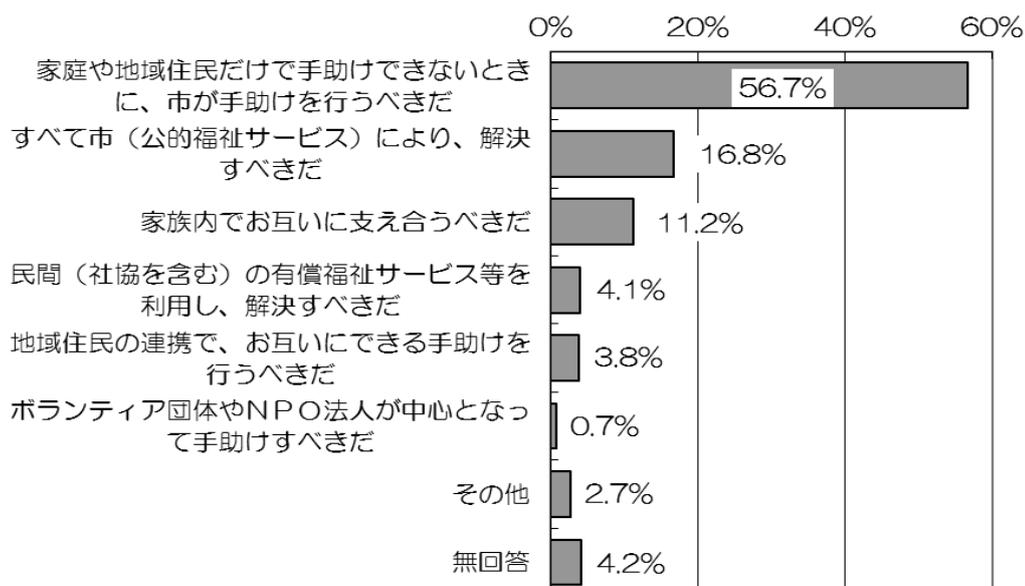
問 12 本来、生活課題を解決するための「望ましい姿」について、あなたの考えに近いものはどれですか。



「家庭や地域住民だけで手助けできないときに、市が手助けを行うべきだ」(53.7%)がもっとも高く、次いで「家族内でお互いに支え合うべきだ」(15.5%)となっています。

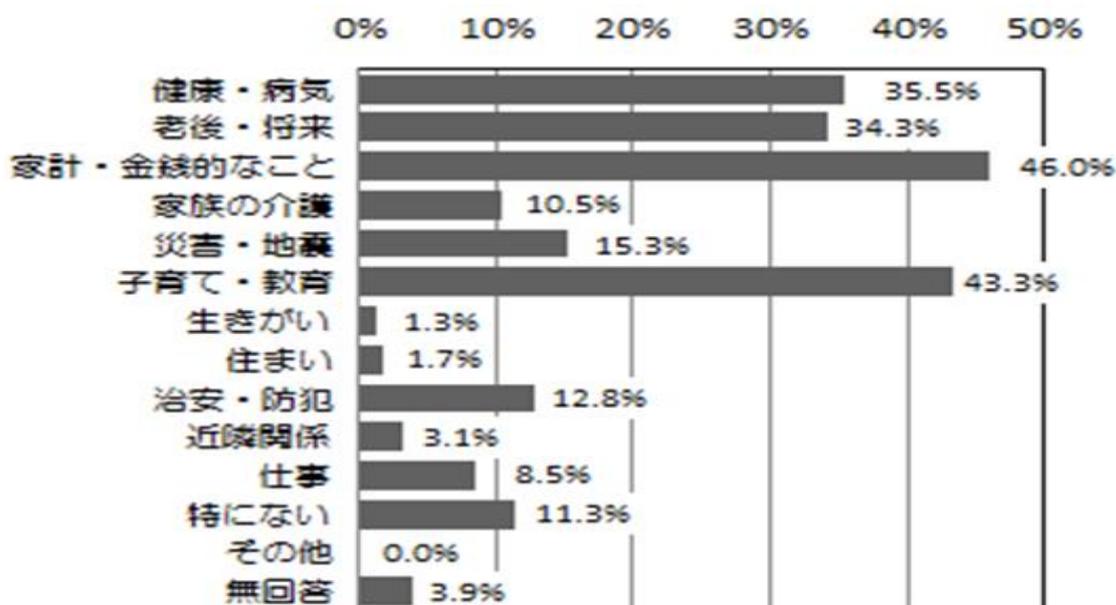
なお、前回調査では「家庭及び地域住民だけで手助けできないときに、市が手助けを行うべきだ」がもっとも高く、次いで「すべて市(公的福祉サービス)により、解決すべきだ」となっていました。

《参考》 前回調査回答 (問 15)



(3) 暮らしにおける悩みや不安に関すること

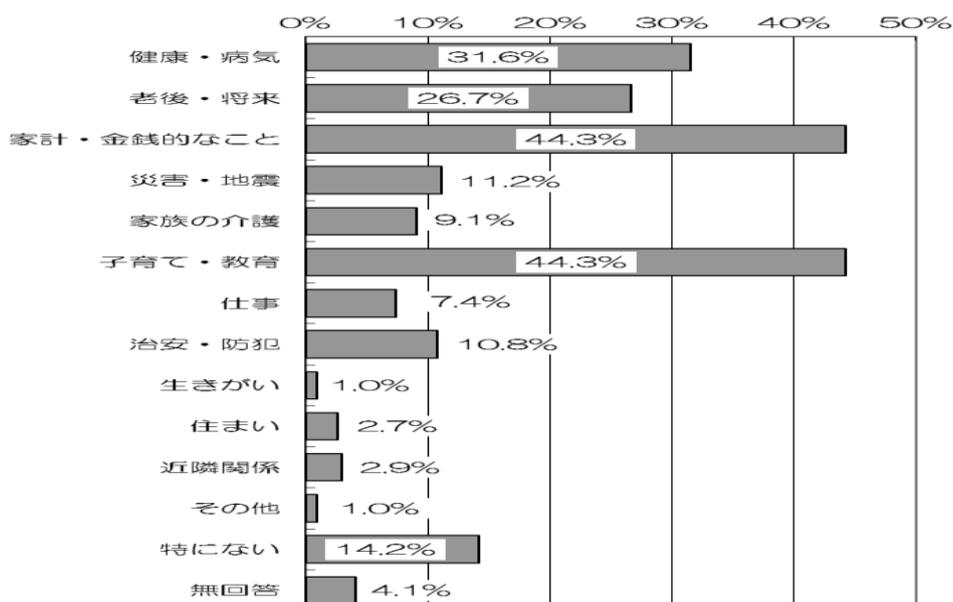
問 13 暮らしの中で、あなた自身やご家庭のことで、どのような「悩み・不安」がありますか。あてはまるどころ（3つ以内）をお答えください。



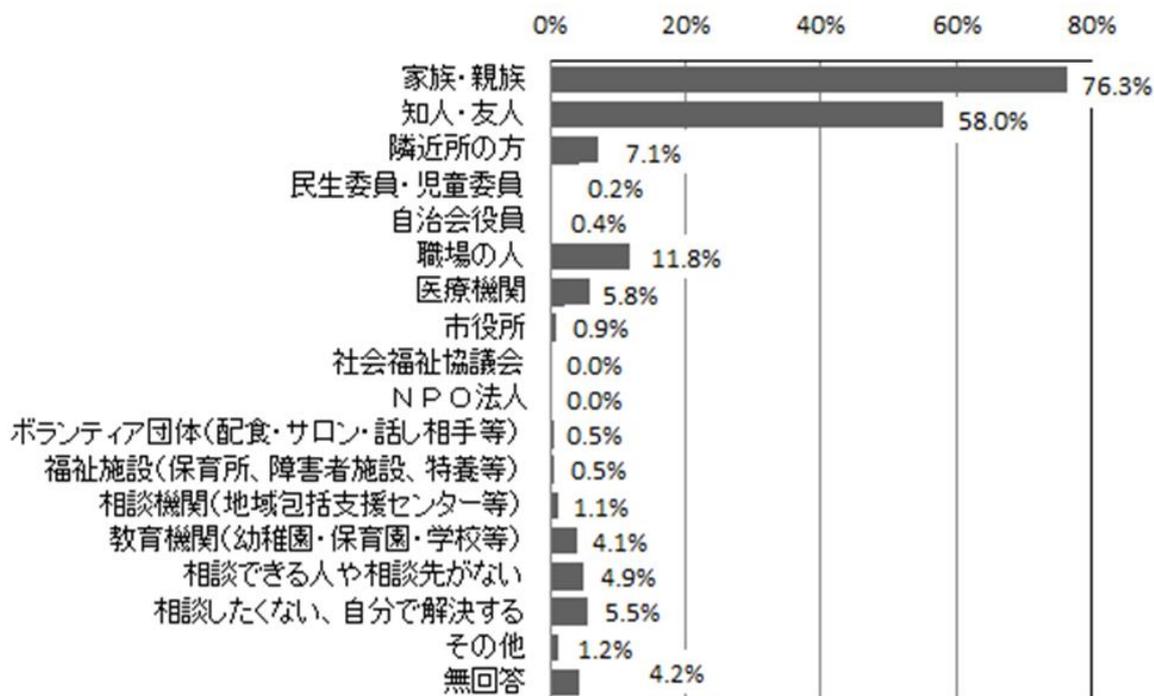
「家計・金銭的なこと」(46.0%)、がもっとも高く、次いで「子育て・教育」(43.3%)、「健康・病気」(35.5%)、「老後・将来」(34.3%)となっています。

なお、前回調査でも同様の回答が上位となっていますが、「健康・病気」の回答が微増となっています。

《参考》 前回調査回答（問 9）



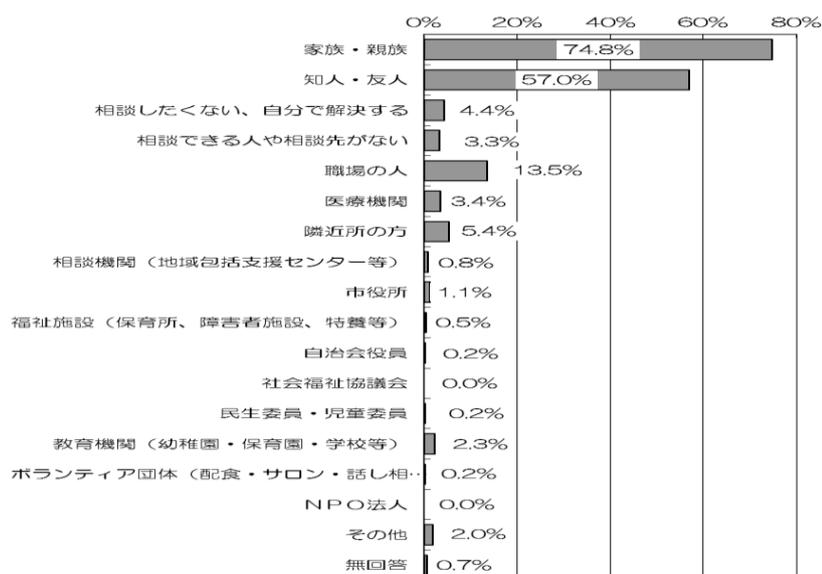
問 14 その「悩み・不安」について、誰に相談されていますか。あてはまる
ところ（3つ以内）をお答えください。



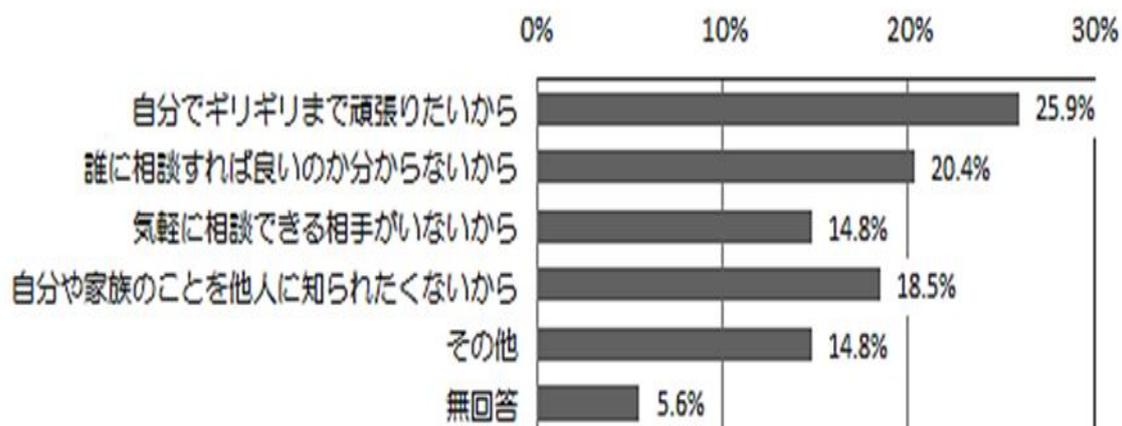
「家族・親族」(76.3%)がもっとも高く、次いで「知人・友人」(58.0%)となっています。

前回調査でも同様の回答が上位となっていますが、「相談できる人や相談先がない」という回答が微増しています。

《参考》 前回調査 (問 10)



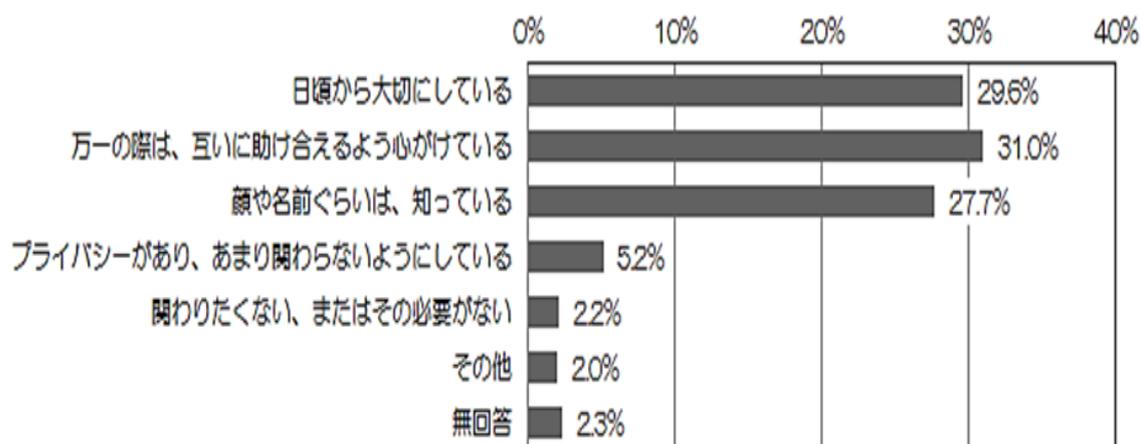
問 15 (問 14 で「相談できる人や相談先がない」「相談したくない、自分で解決する」と回答された方のみ) その理由は何ですか。



「相談できる人や相談先がない」「相談したくない、自分で解決する」と回答された方があげる理由として、「自分でギリギリまで頑張りたいから」(25.9%) がもっとも高く、次いで「誰に相談すれば良いのか分からない」(20.4%)、「自分や家族のことを他人に知られたくないから」(18.5%) となっています。

(4) ご近所づきあいや自治会活動に関すること

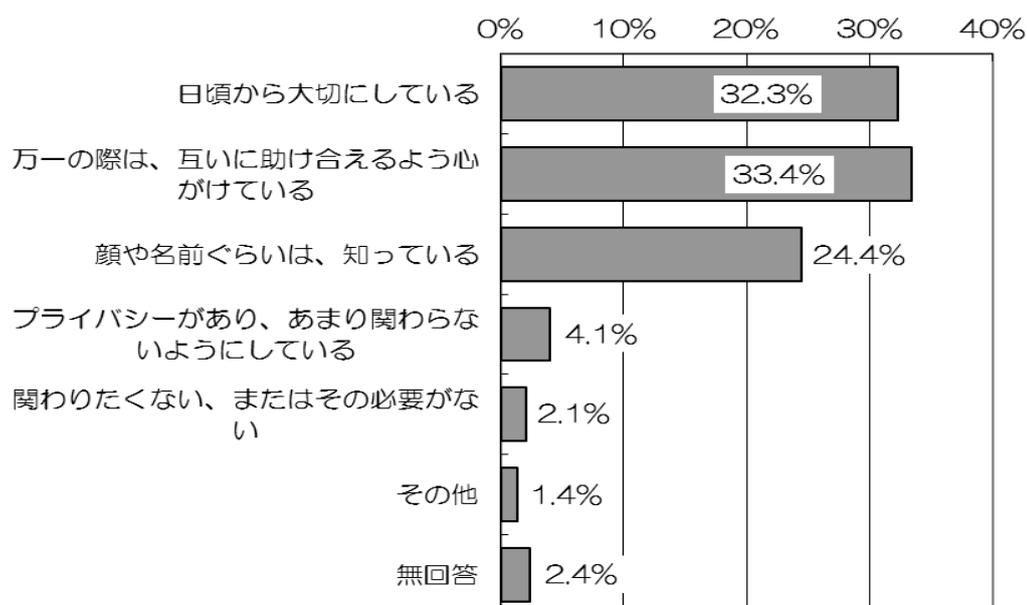
問 16 「ご近所づきあい」について、あなたの考えに近いものはどれですか



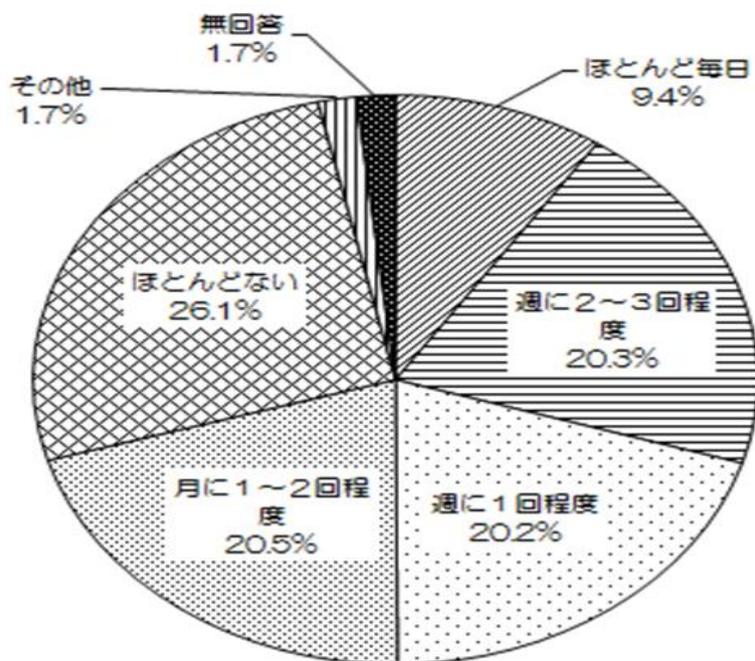
「万一の際は、互いに助け合えるよう心がけている」(31.0%)がもっとも高く、次いで「日頃から大切にしている」(29.6%)、「顔や名前ぐらひは、知っている」(27.7%)となっています。

前回調査でも同様の上位回答となっていますが、「日頃から大切にしている」という回答が微減となっています。

《参考》 前回調査回答 (問 16)



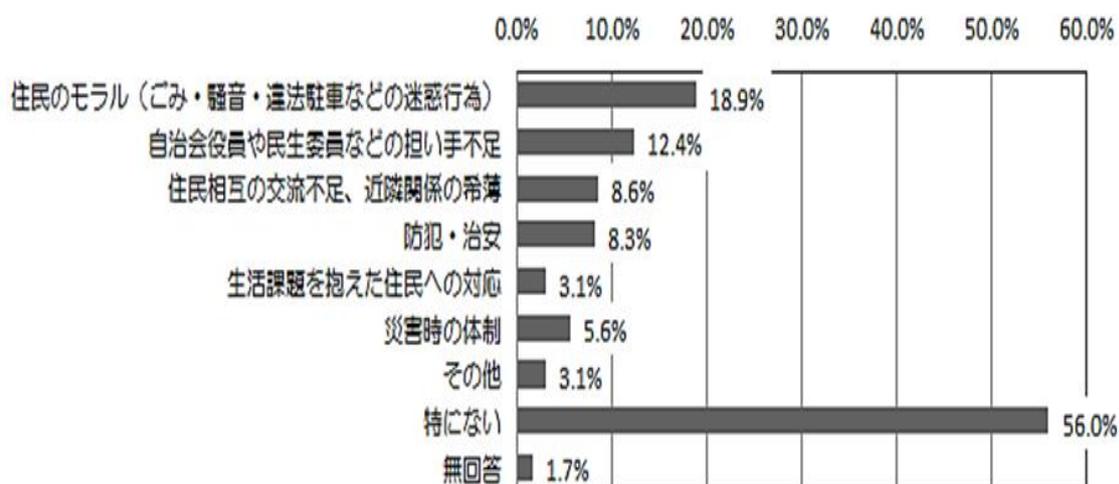
問 17 ご近所とのコミュニケーションをとる機会（世間話をする機会）はどの位の頻度でありますか。



「ほとんどない」(26.1%) がもっとも高く、次いで「月 1~2 回程度」(20.5%)、「週に 2~3 回程度」(20.3%)、「週に 1 回程度」(20.2%) となっています。

ご近所とのコミュニケーションが「週に 1 回」以下しかとる機会がない方が全体の約 6 割強と、日常的なご近所とのコミュニケーションの少なさが見えます。

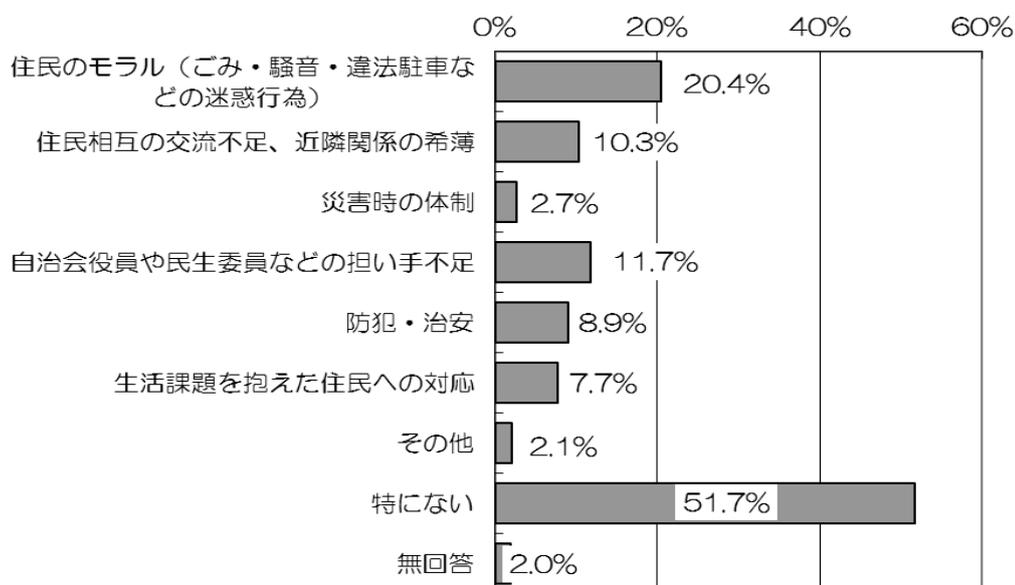
問 18 ご近所に関して、どのような困り事がありますか（答え「いくつでも」）



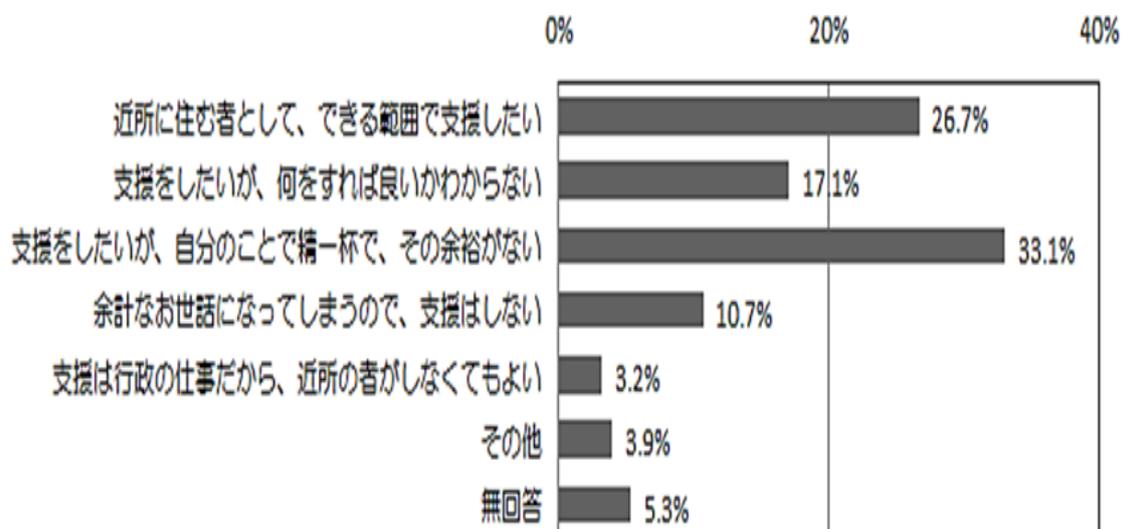
「住民のモラル（ごみ・騒音・違法駐車などの迷惑行為）」（18.9%）がもっとも高く、次いで「自治会役員や民生委員などの担い手不足」（12.4%）、「住民相互の交流不足、近隣関係の希薄」（8.6%）、「防犯・治安」（8.3%）となっています。

なお、前回調査でも同様の回答が上位になっています。

《参考》 前回調査回答（問 17）



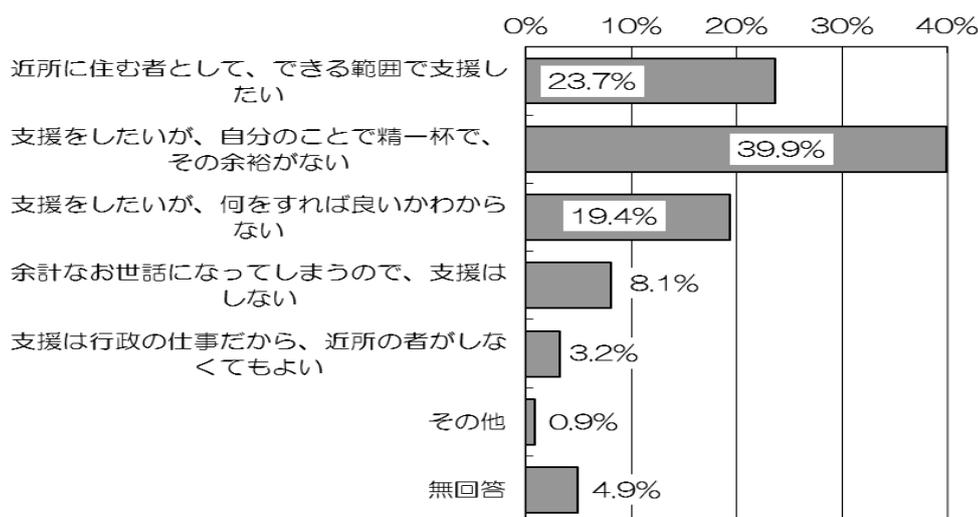
問 19 仮に、ご近所で身の回りのことや家事等に課題を抱える方がいた場合の解決方法について、あなたの考えに近いものはどれですか



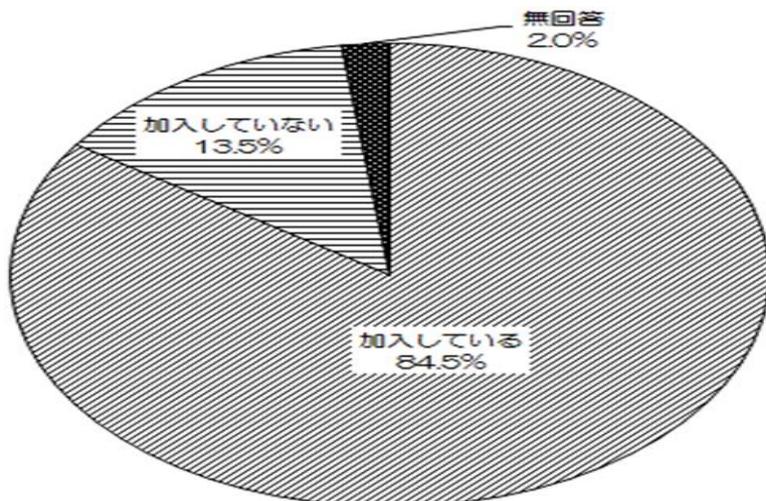
「支援をしたいが、自分のことで精一杯で、その余裕がない」(33.1%)がもっとも高く、次いで「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」(26.7%)となっています。「支援をしたいが、何をすれば良いかわからない」を含め、「支援をしたい」と考えている方が76.9%となっています。

前回調査でも同様の回答が上位となっていますが、「支援をしたい」と考えている方は83.0%から減少しています。

《参考》 前回調査回答 (問 18)

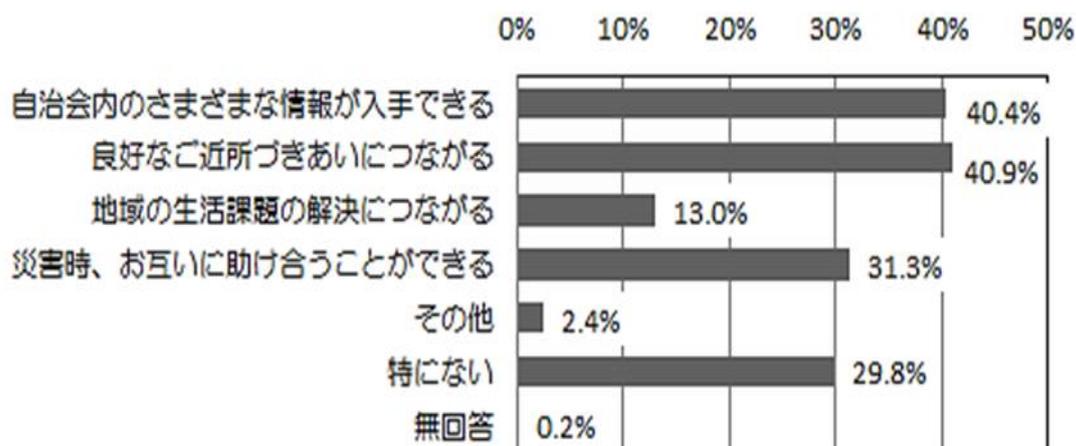


問 20 自治会に加入していますか



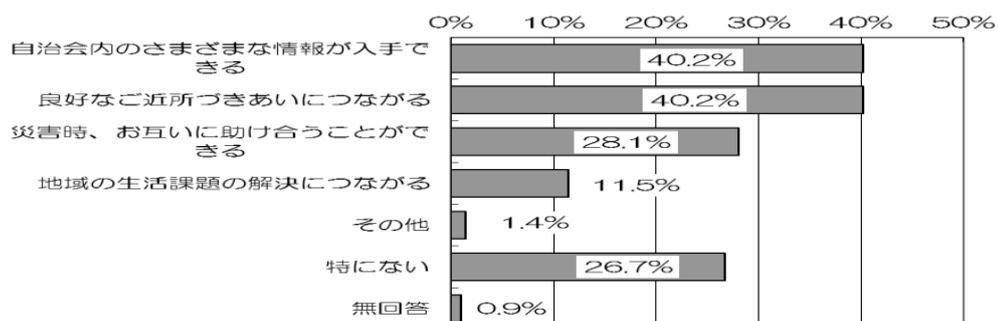
自治会に加入していると回答された方は全体の 84.5%となっています。

問 21 自治会に加入して良かったことは何ですか (答え「いくつでも」)

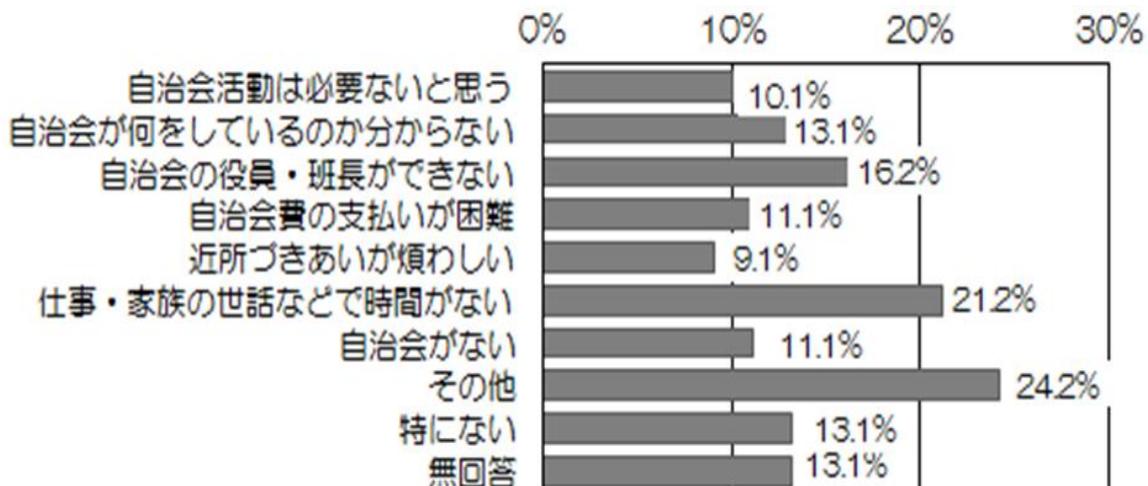


「良好なご近所づきあいにつながる」(40.2%) がもっとも高く、次いで「自治会内のさまざまな情報が入手できる」(40.4%)、「災害時、お互いに助け合うことができる」(31.3%) となっています。前回調査でも同様の回答が上位になっています。

《参考》 前回調査 (問 20)



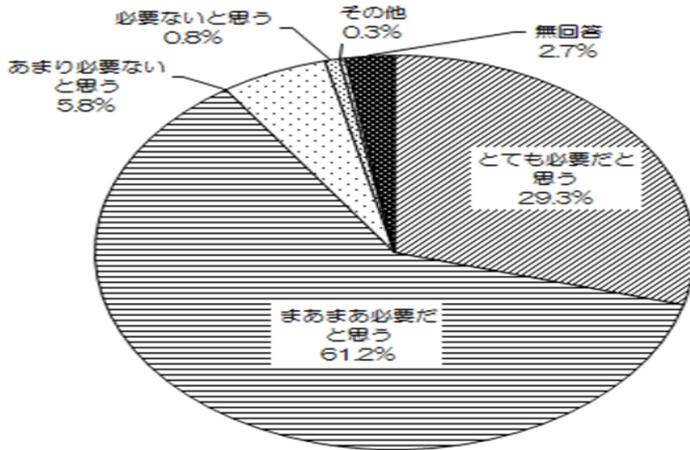
問 22 自治会に加入しない理由は何ですか。



自治会に加入していない理由としては「その他」(24.2%) がもっとも高く、次いで「仕事・家族の世話などで時間がない」(21.2%)、「自治会の役員・班長ができない」(16.2%) となっています。

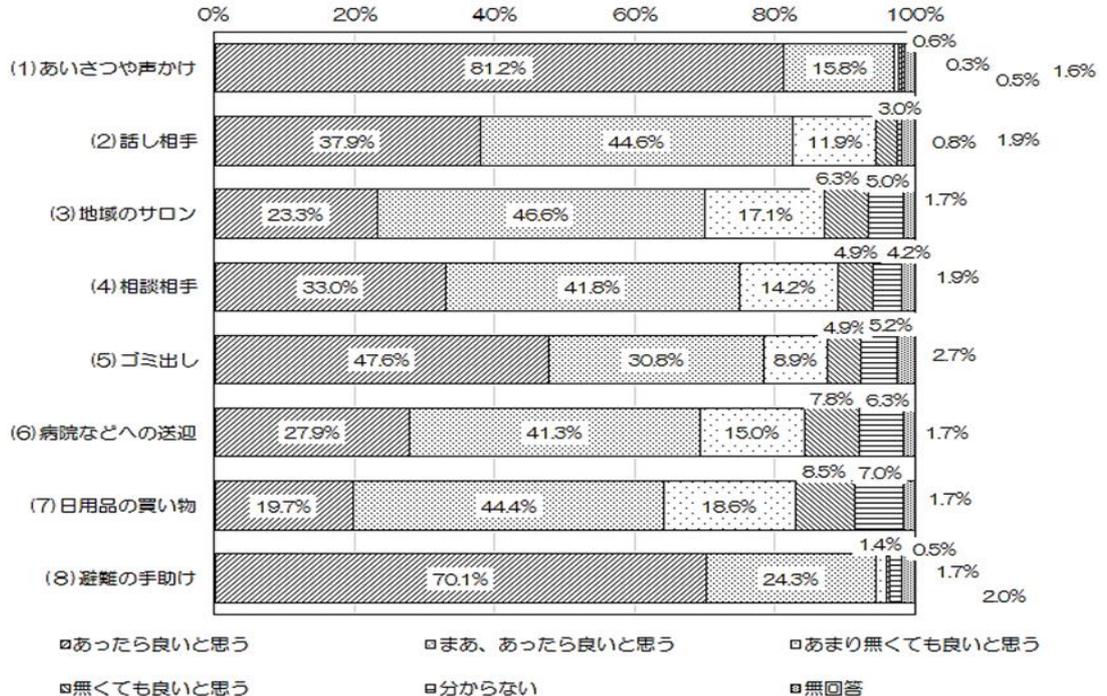
(5) 地域活動に関すること

問 23 地域のつながりの必要性について、あなたの考えに近いものはどれですか。



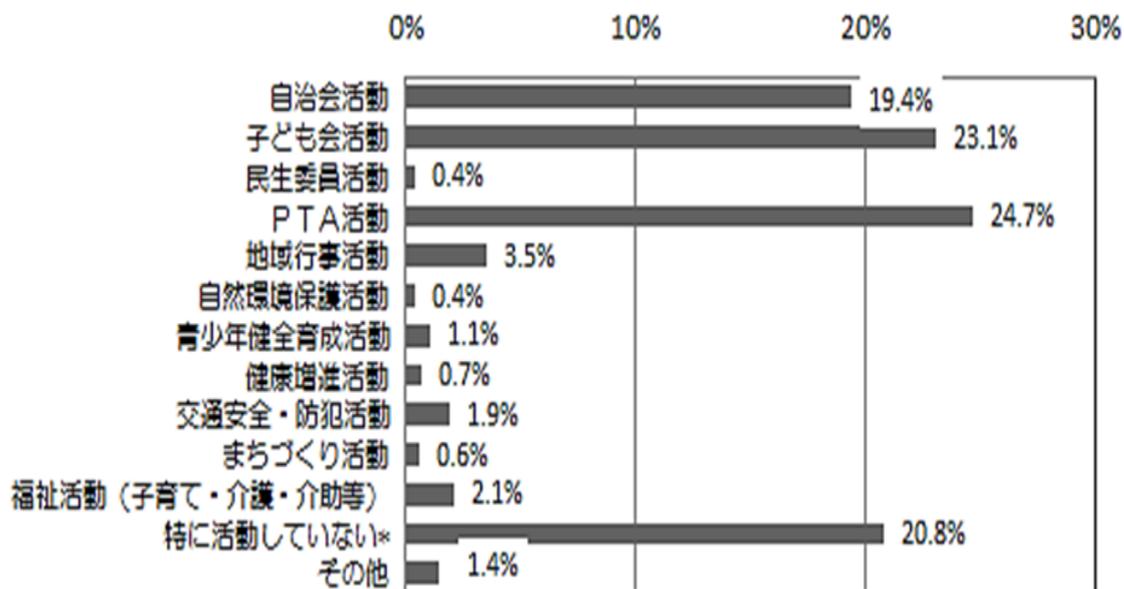
「とても必要だと思う」(29.3%)、「まあまあ必要だと思う」(61.2%)と、全体の約 9 割が地域のつながりの必要性を感じています。

問 24 地域での住民相互の支え合いに対する考えについて、あなたの考えに近いものはどれですか。



住民相互の支え合いが「あったら良い」との回答が「あいさつや声かけ」(81.2%)、「避難の手助け」(70.1%)、「ゴミ出し」(47.6%)で多く見受けられました。

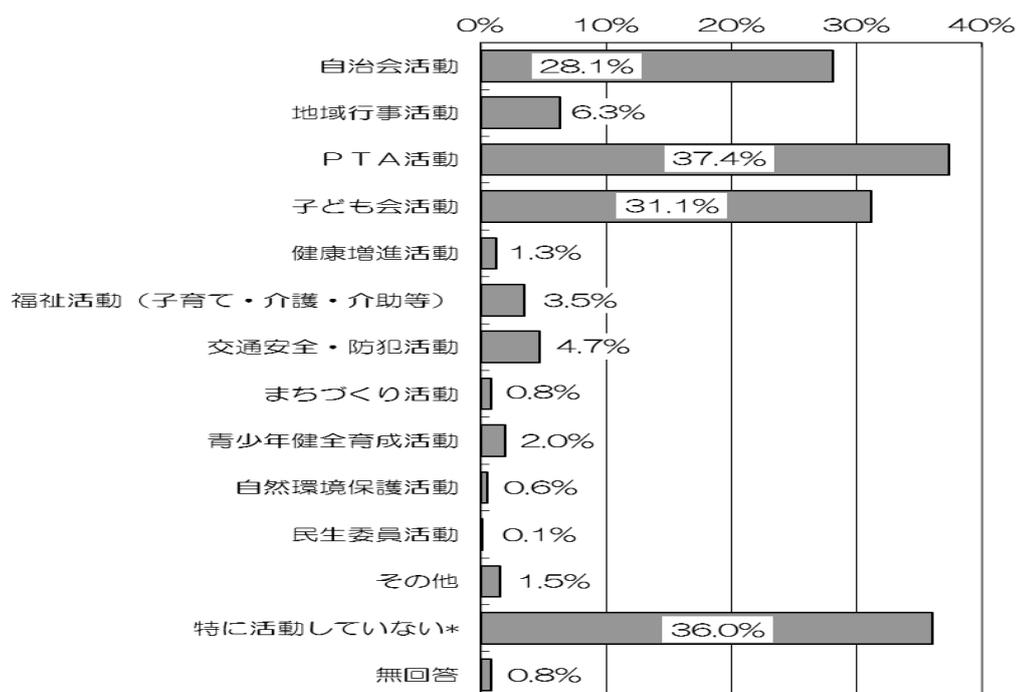
問 25 あなたは現在、地域のつながりや支え合いを高めるような活動（地域活動）をされていますか。あてはまるところ（全て）をお答えください。



「PTA 活動」（24.7%）がもっとも高く、次いで「子ども会活動」（23.1%）、「自治会活動」（19.4%）となっています。

前回調査でも同様の回答が上位になっています。なお、「特に活動していない」との回答は前回調査よりも減少しています。

《参考》 前回調査（問 21）



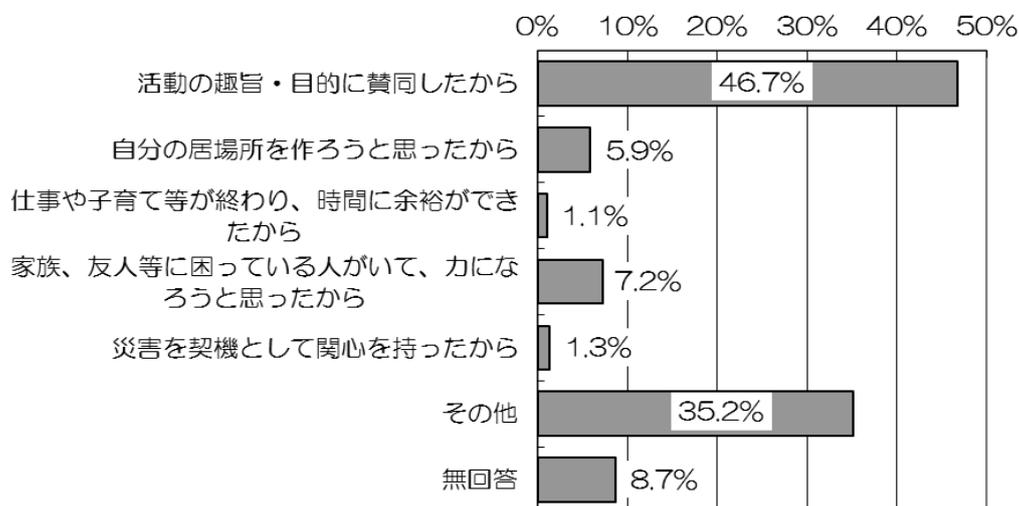
問 26 地域活動を始めた動機（キッカケ）は何ですか。あてはまるところ（全て）をお答えください。



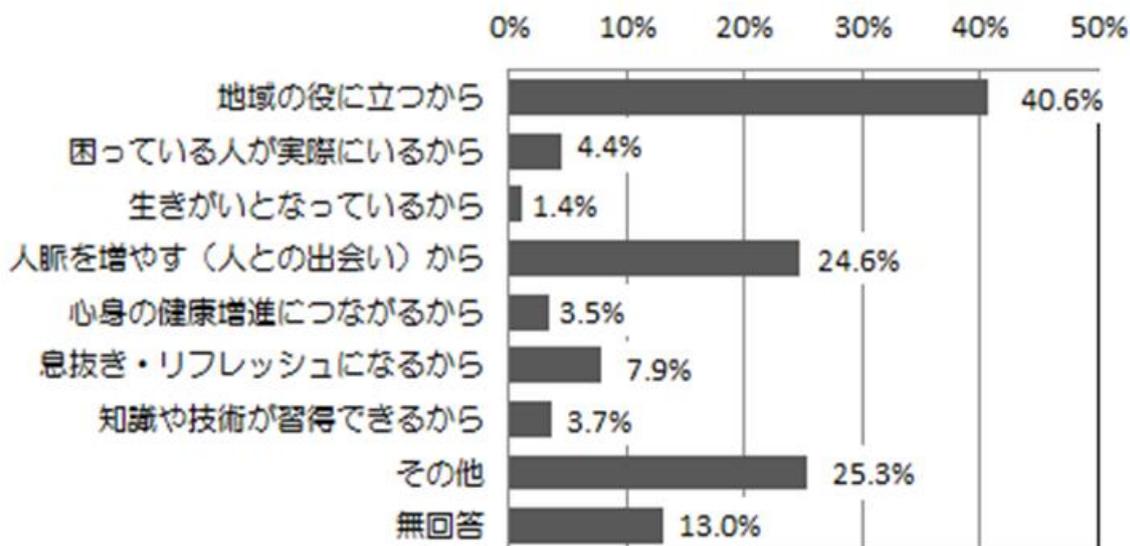
「自治会などから声がかかったから」（44.3%）がもっとも高く、次いで「家族や友人に誘われたから」（24.6）となっています。

前回調査では「活動の趣旨・目的に賛同したから」がもっとも高くなっていました。

《参考》 前回調査（問 22）



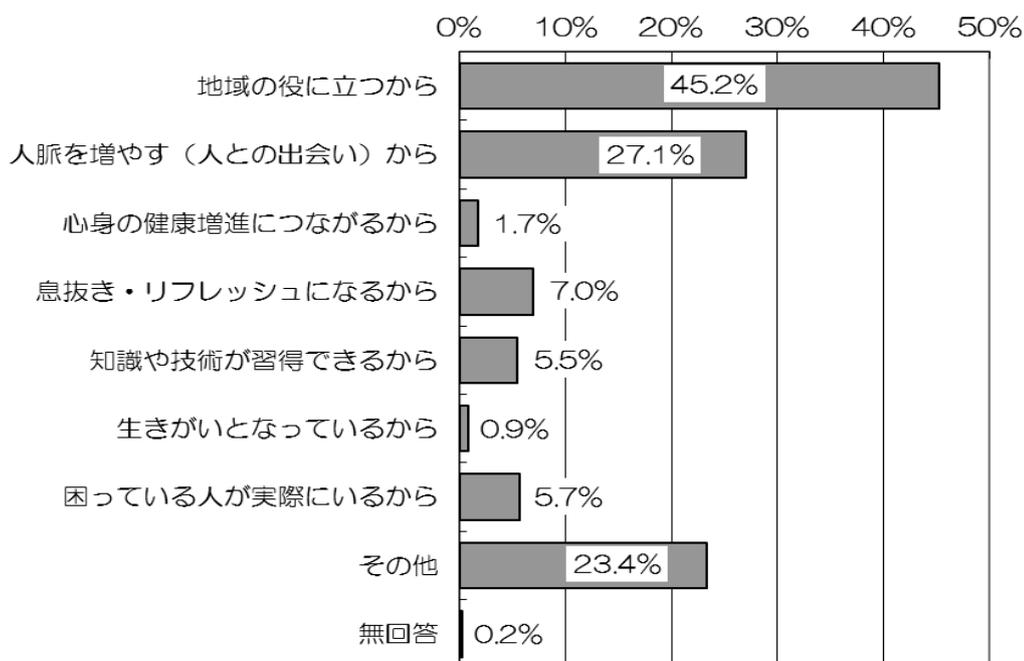
問 26 地域活動を続けている理由は何ですか。あてはまるところ（全て）をお答えください。



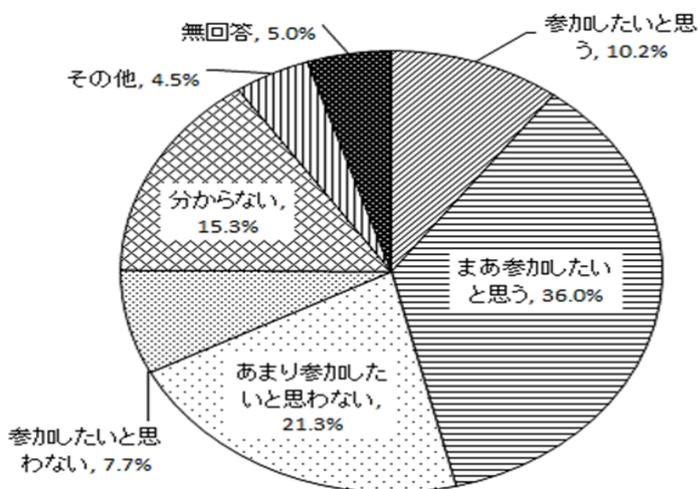
「地域の役に立つから」（40.6%）がもっとも高く、次いで「その他」（25.3%）、「人脈を増やす（人との出会い）から」（24.6%）となっています。

前回調査でも同様の回答が上位になっています。

《参考》 前回調査回答（問 23）

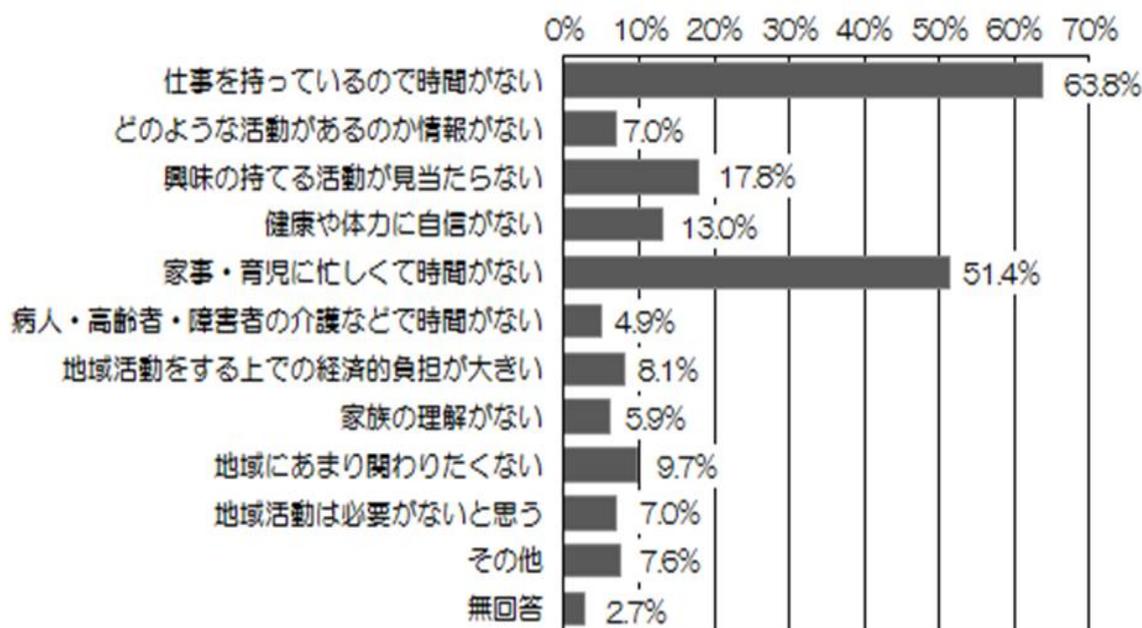


問 28 今後、地域活動への参加の依頼があった場合、あなたは地域活動に参加したいと思いますか。



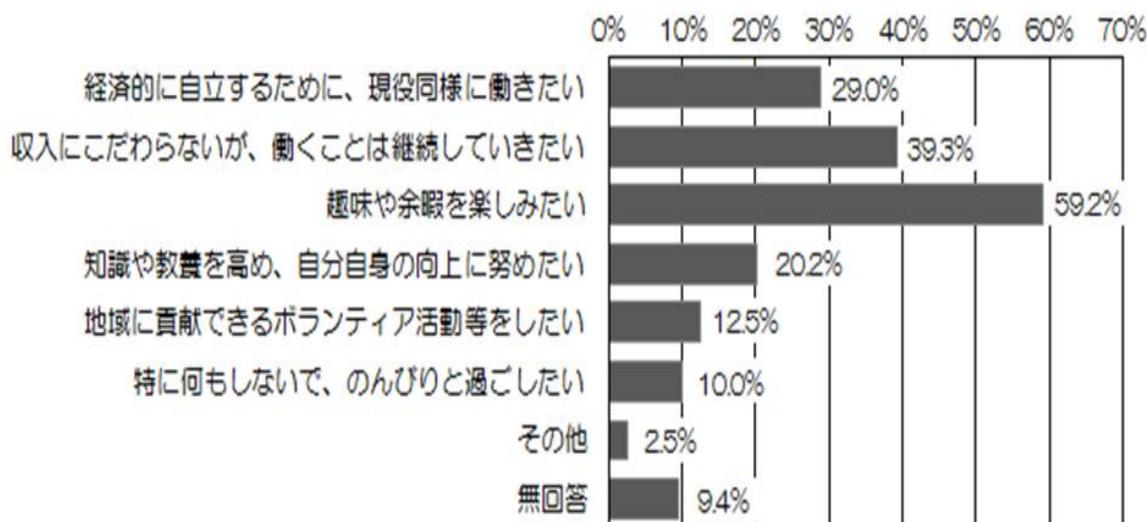
「参加したいと思う」(10.2%)、「まあ参加したいと思う」(36.0%)と、参加に意欲のある回答が全体の約 5 割弱となっています。

問 29 地域活動への参加をしたいと思わない理由は何ですか。あてはまるところ(全て)をお答えください。



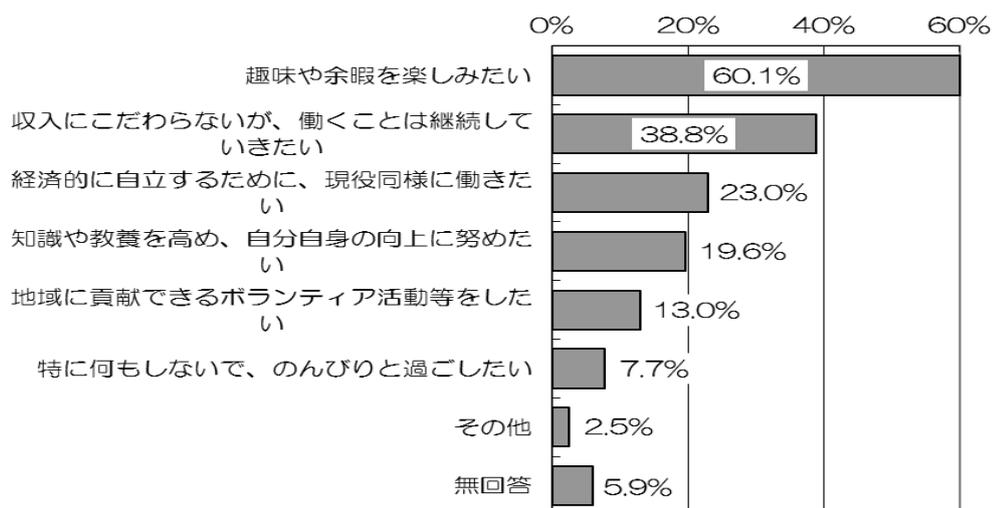
「仕事を持っているので時間がない」(63.8%)がもっとも高く、次いで「家事・育児に忙しくて時間がない」(51.4%)、「興味を持てる活動が見当たらない」(17.8%)となっています。

問 30 あなたは、あなた自身が 60 歳を迎えた後、主にどのように過ごしたいと考えていますか。あてはまるどころ（3 つ以内）をお答えください。



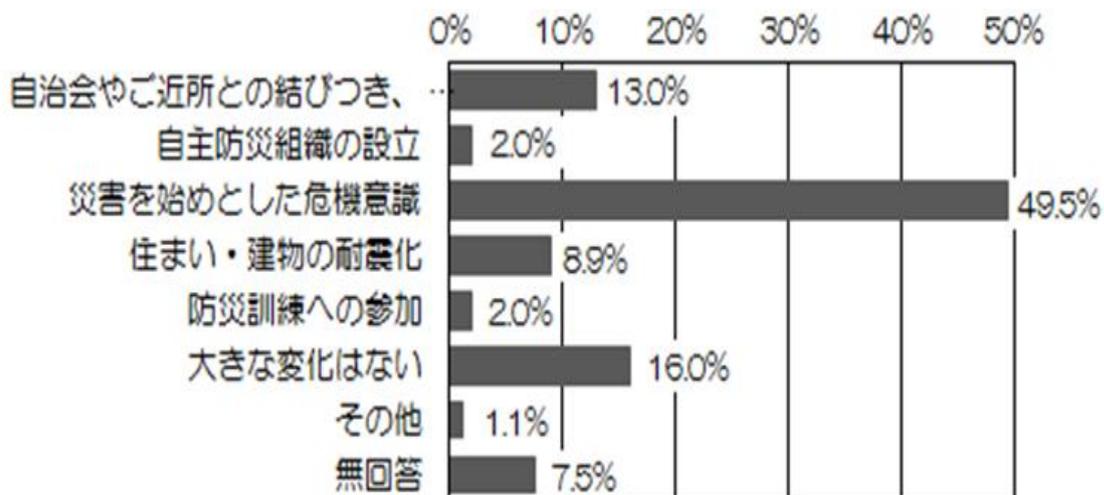
59歳以下の方が考える60歳以降の過ごし方としては、「趣味や余暇を楽しみたい」（59.2%）がもっとも高く、次いで「収入にこだわらないが、働くことは継続していきたい」（39.3%）、「経済的に自立するために、現役同様に働きたい」（29.0%）」となっています。
 前回調査でも同様の回答が上位になっています。

《参考》 前回調査（問 11）



(6) 大規模災害を契機とした今後の活動に関すること

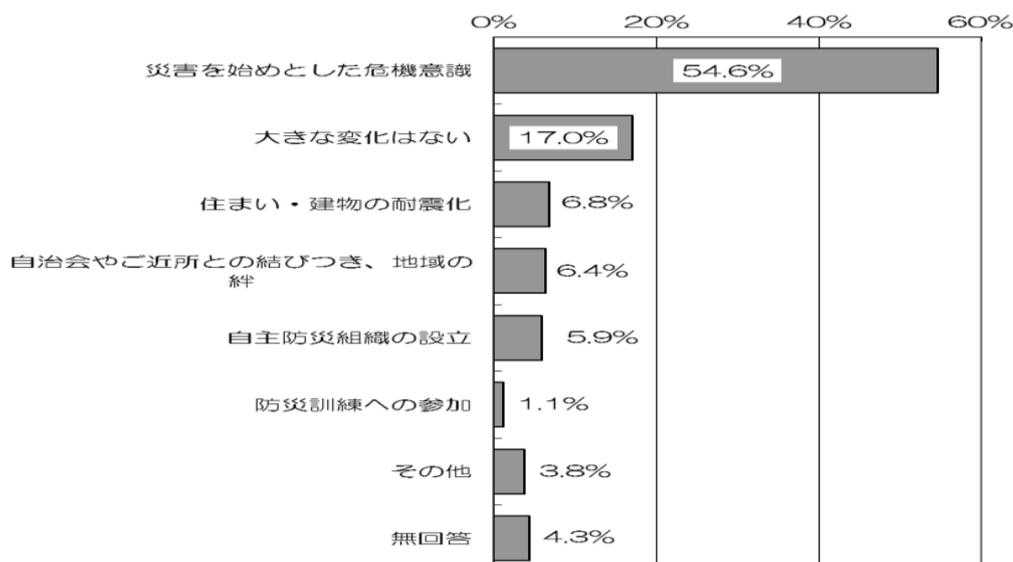
問 30 あなたは、東日本大震災や熊本地震などの大規模災害が発生する「前」と「後」とを比べ、価値観や意識が最も大きく変わったことは何ですか。



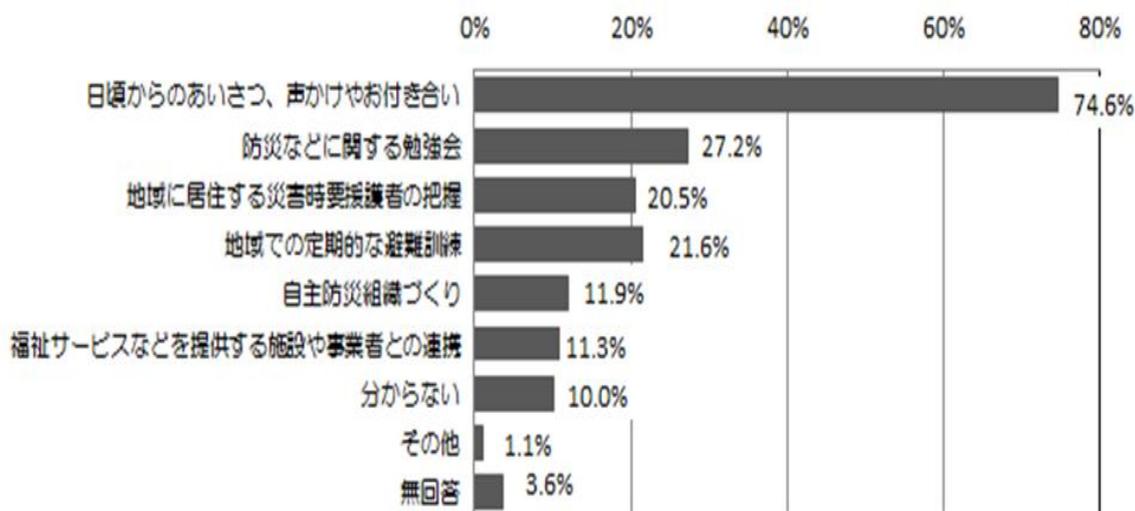
「災害を始めとした危機意識」(49.5%)がもっとも高く、次いで「大きな変化はない」(16.0%)、「自治会や近所との結びつき、地域の絆」(13.0%)となっています。

前回調査では、「災害を始めとした危機意識」、「大きな変化はない」、「住まい・建物の耐震化」の順となっています。

《参考》 前回調査 (問 29)

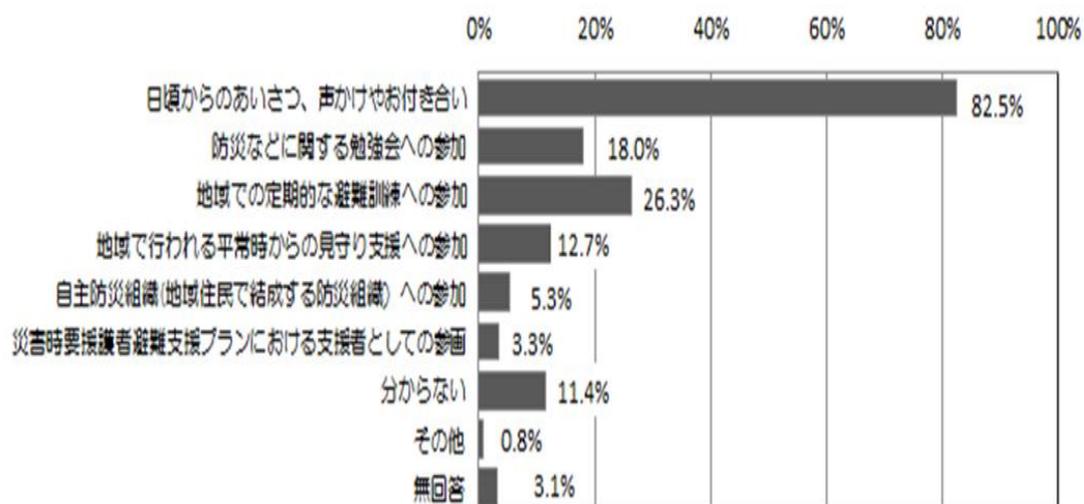


問 32 「災害時に住民が支え合う地域づくり」には、何が必要だと思いますか。
あてはまるところ（3つ以内）をお答えください。



「日頃からのあいさつ、声かけやお付き合い」（74.6%）がもっとも高く、次いで「防災などに関する勉強会（危険な箇所の把握など）」（27.2%）、「地域での定期的な避難訓練」（21.6%）となっています。

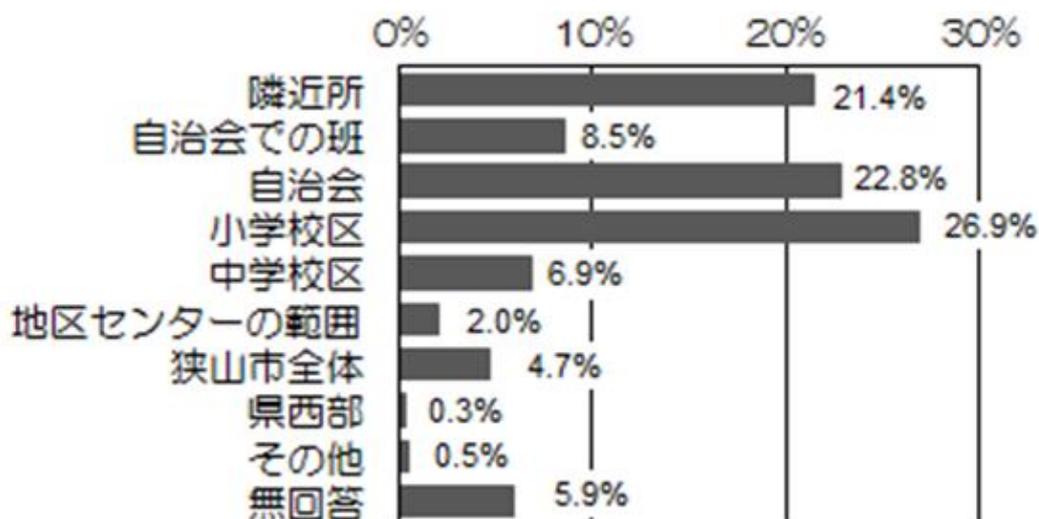
問 33 「災害時に住民が支え合う地域づくり」を進める上で、あなたができることは何ですか。あてはまるところ（3つ以内）をお答えください。



「日頃からのあいさつ、声かけやお付き合い」（82.5%）がもっとも高く、次いで「地域での定期的な避難訓練への参加」（26.3%）、「防災などに関する勉強会（危険な箇所の把握、災害ボランティア養成など）への参加」（18.0%）となっています。

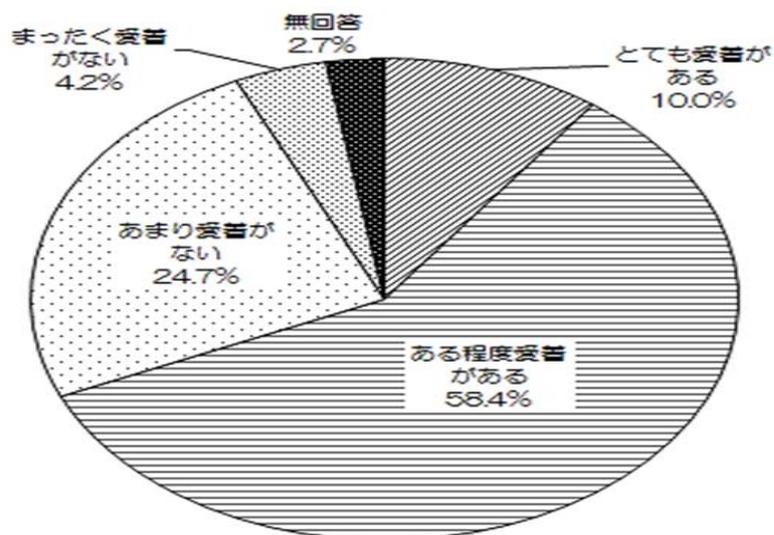
(7) 身近に感じる地域に関すること

問 34 あなたにとって身近に感じる「地域」とは、どのような範囲ととらえていますか。



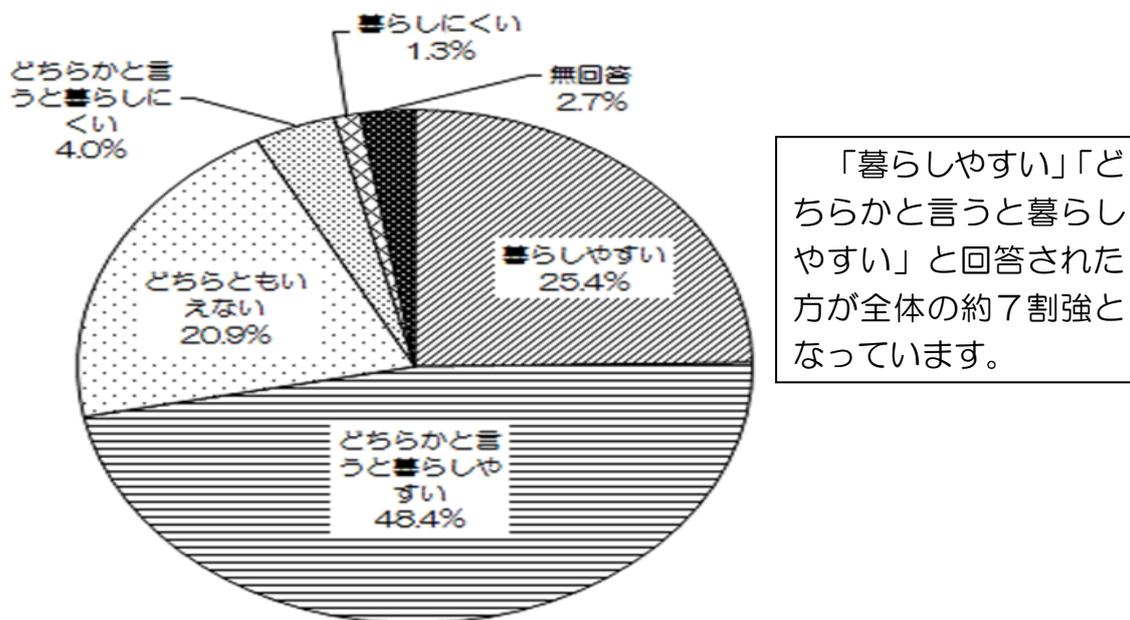
「小学校区」(26.9%)がもっとも高く、次いで「自治会」(22.8%)、「隣近所」(21.4%)となっています。

問 35 「地域」に対する愛着がありますか。



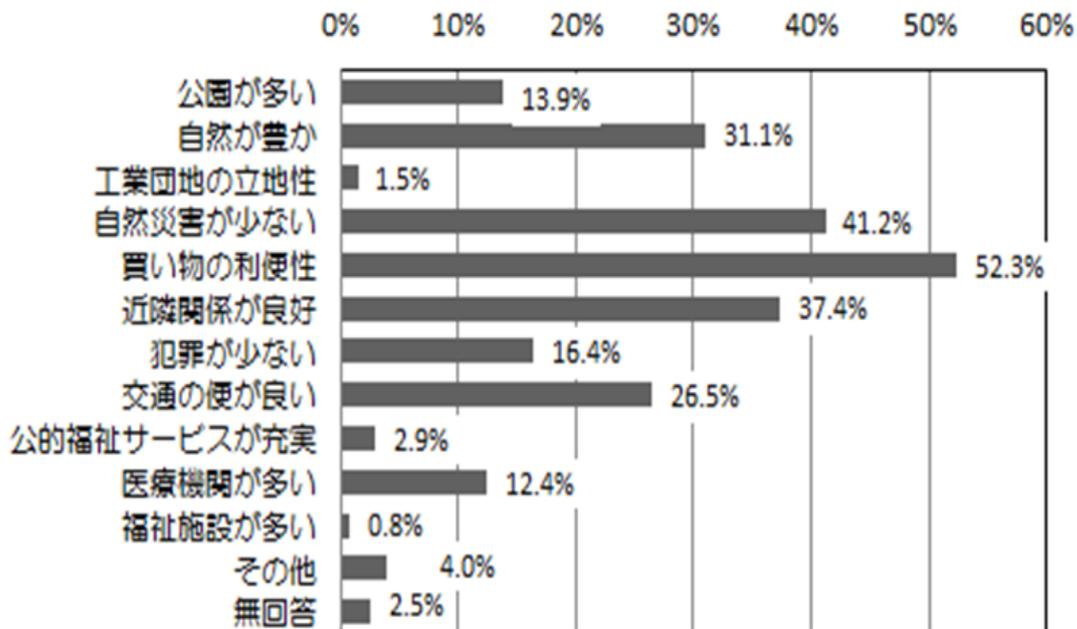
「とても愛着がある」「ある程度愛着がある」と回答された方が全体の約7割弱となっています。

問 36 あなたにとって「地域」は暮らしやすいですか。



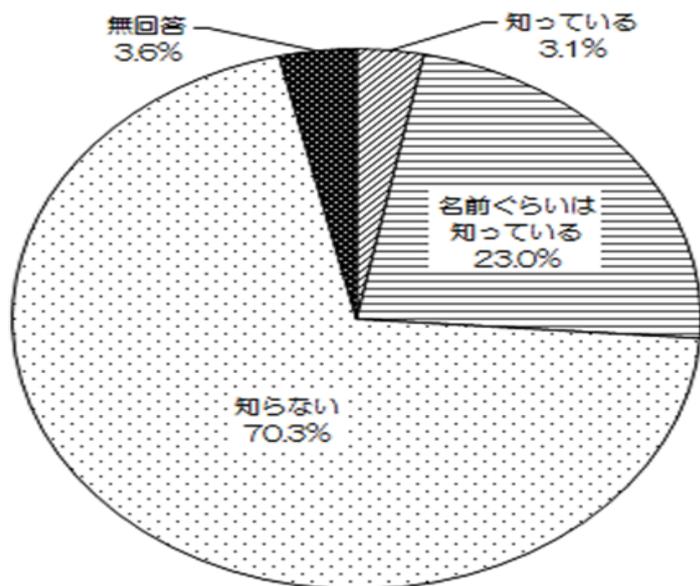
「暮らしやすい」「どちらかと言うと暮らしやすい」と回答された方が全体の約7割強となっています。

問 37 暮らしやすいと思う理由は何ですか。あてはまるところ（全て）をお答えください。



「買い物の利便性」(52.3%) がもっとも高く、次いで「自然災害が少ない」(41.2%)、「近隣関係が良好」(37.4%) となっています。

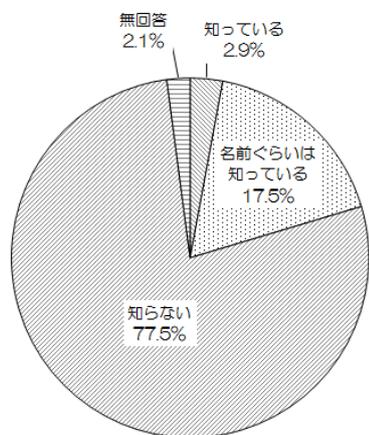
問 38 市と社会福祉協議会が策定した「狭山市地域福祉推進計画」を知っていますか。



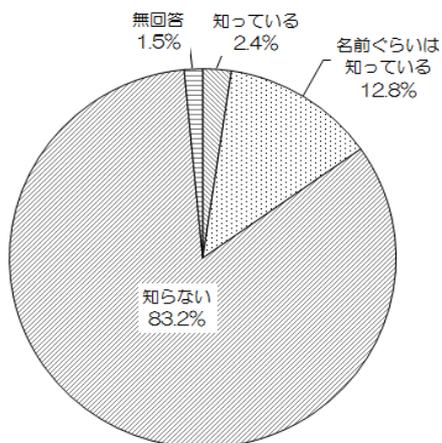
「知っている」「名前ぐらいは知っている」と回答された方が全体の 26.1% となっています。

前回調査では、地域福祉推進計画の前身である地域福祉計画や地域福祉活動計画についての認知度を確認しましたが、増加しています。

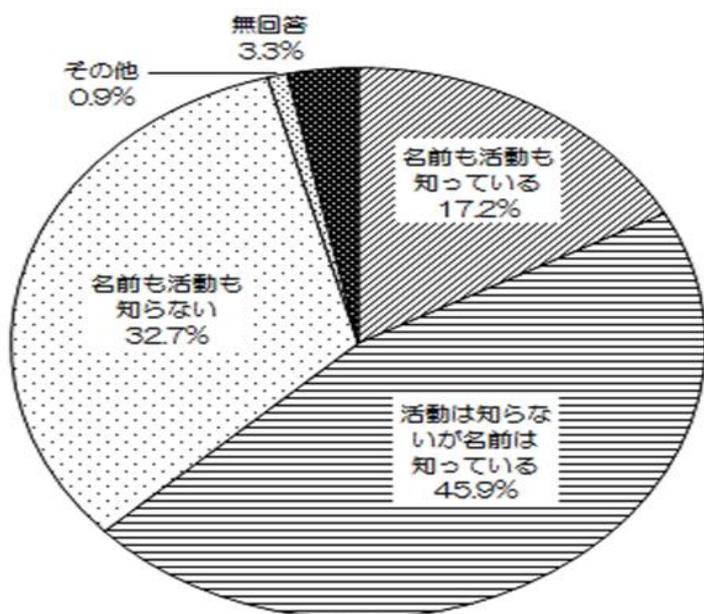
《参考》 前回調査（問 34）
地域福祉計画



《参考》 前回調査（問 35）
地域福祉活動計画



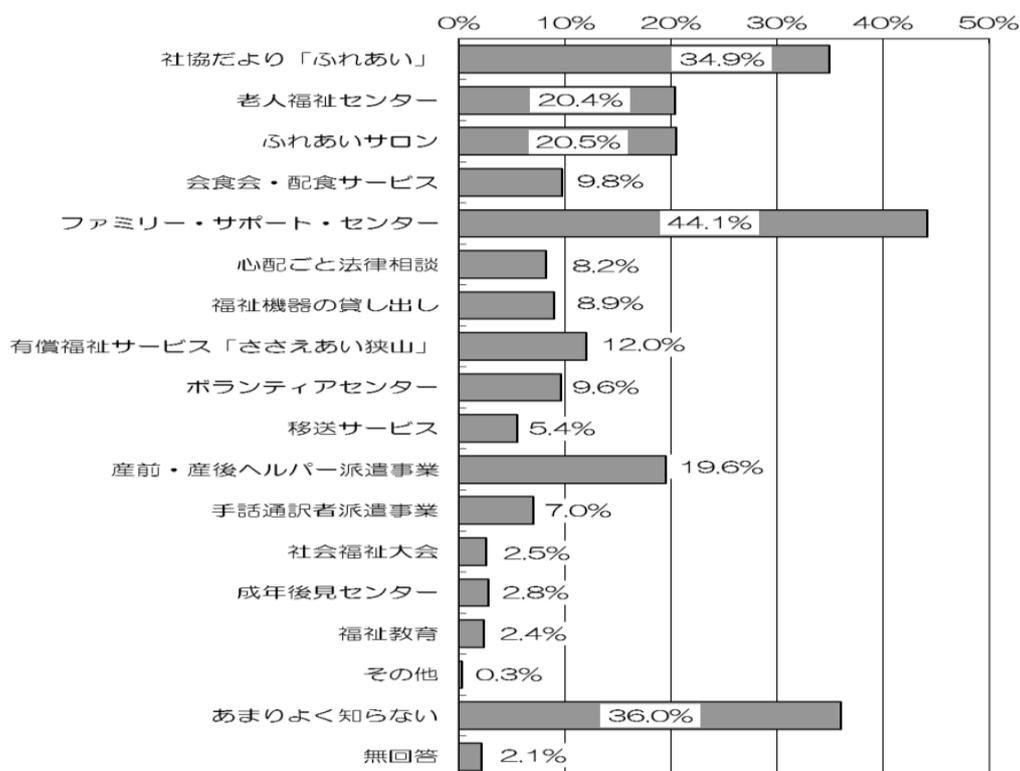
問 39 あなたは、社会福祉協議会という名前や社会福祉協議会の活動を知っていますか。



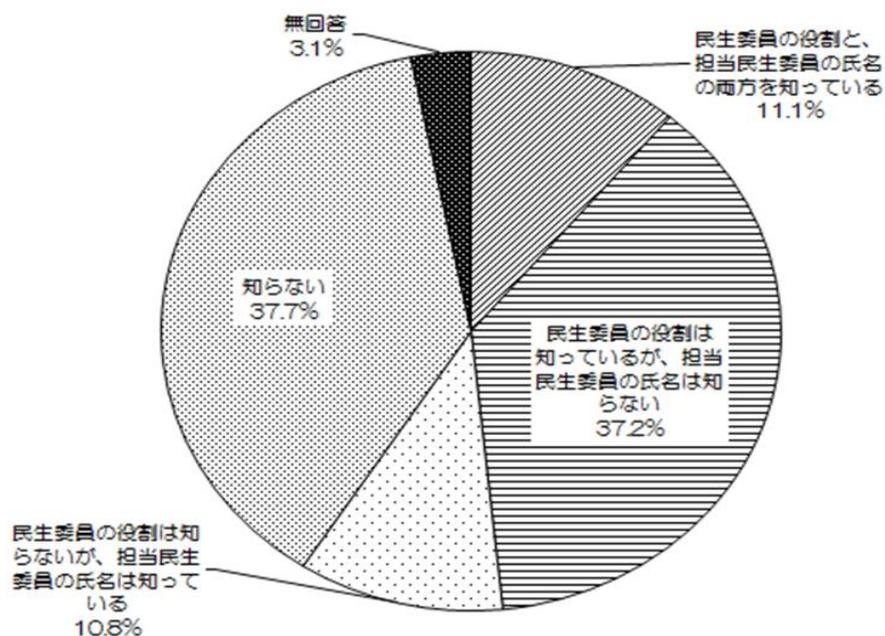
「名前も活動も知っている」(17.2%)、「活動は知らないが、名前ぐらいは知っている」(45.9%)と、社会福祉協議会の名前は知っていると回答された方が全体の約6割強となっています。

前回調査では、社会福祉協議会の活動を「あまりよく知らない」という方が多かったため、まだまだ周知が必要です。

《参考》 前回調査回答 (問 36)



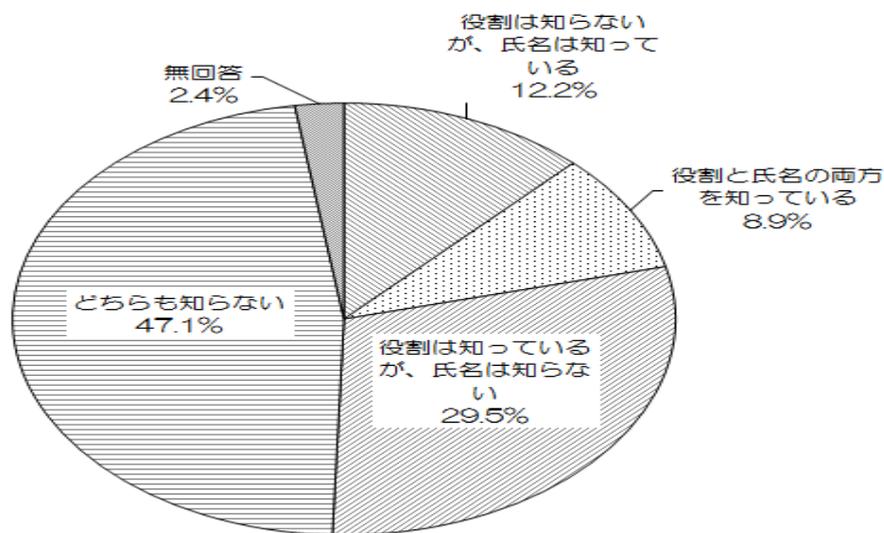
問 40 あなたは、民生委員の役割や担当民生委員の氏名を知っていますか



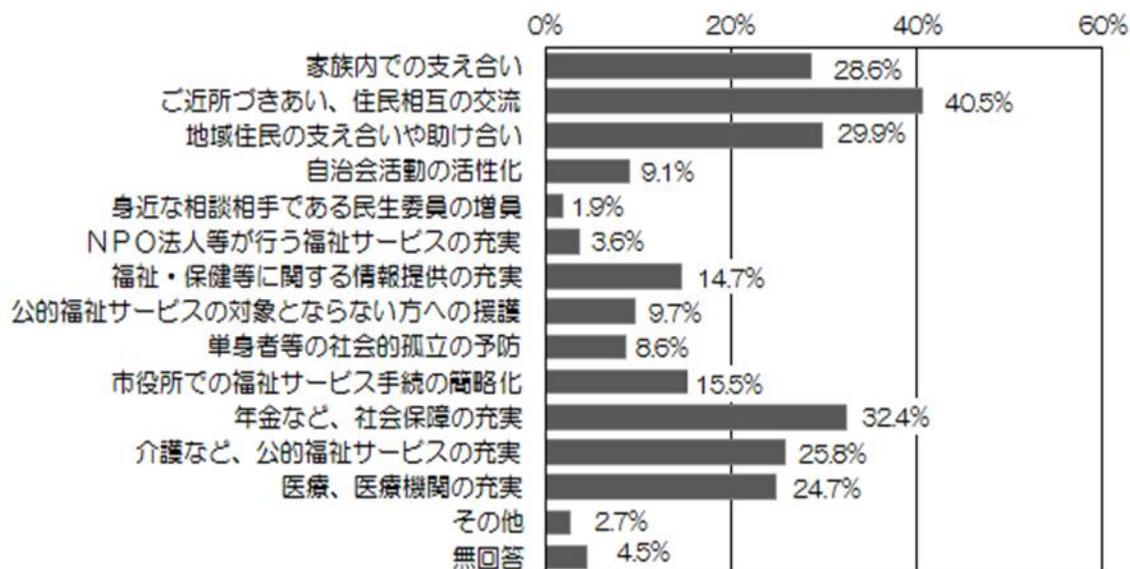
「民生委員の役割と担当民生委員の氏名の両方を知っている」(11.1%)、「民生委員の役割は知っているが、担当民生委員の氏名は知らない」(37.2%)と、民生委員の役割を知っていると回答された方は全体の 48.3% となっています。

前回調査から、民生委員の役割を知っていると回答された方は増加しています。

《参考》前回調査回答（問 37）



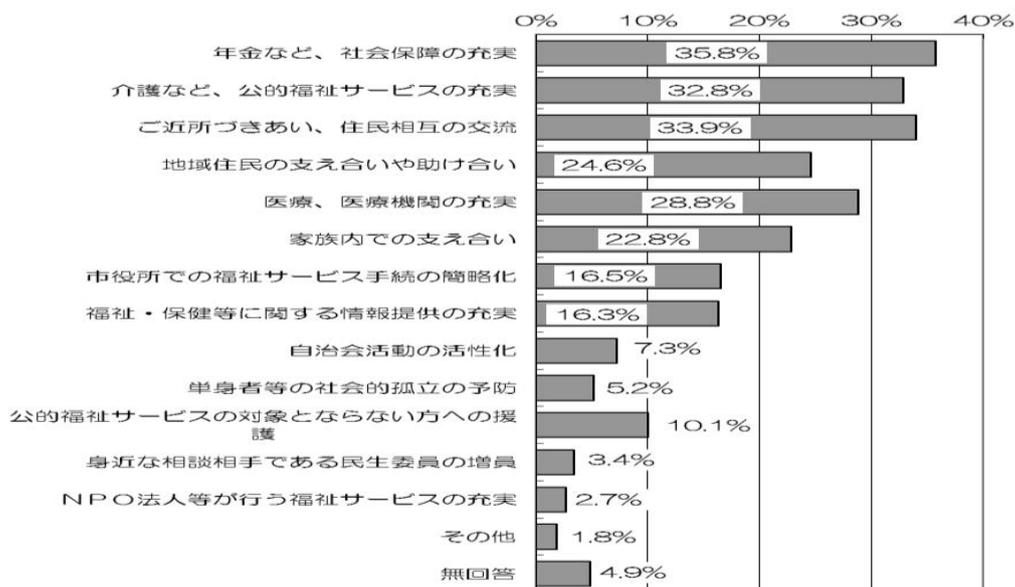
問 41 暮らしやすい地域にするためには、地域のあり方や福祉サービスをどのようにしていくことが必要ですか。あてはまるどころ（3つ以内）をお答えください。



「ご近所づきあい、住民相互の交流」（40.5%）がもっとも高く、次いで、「年金など社会保障の充実」（32.4%）、「地域住民の支え合いや助け合い」（29.9%）となっています。

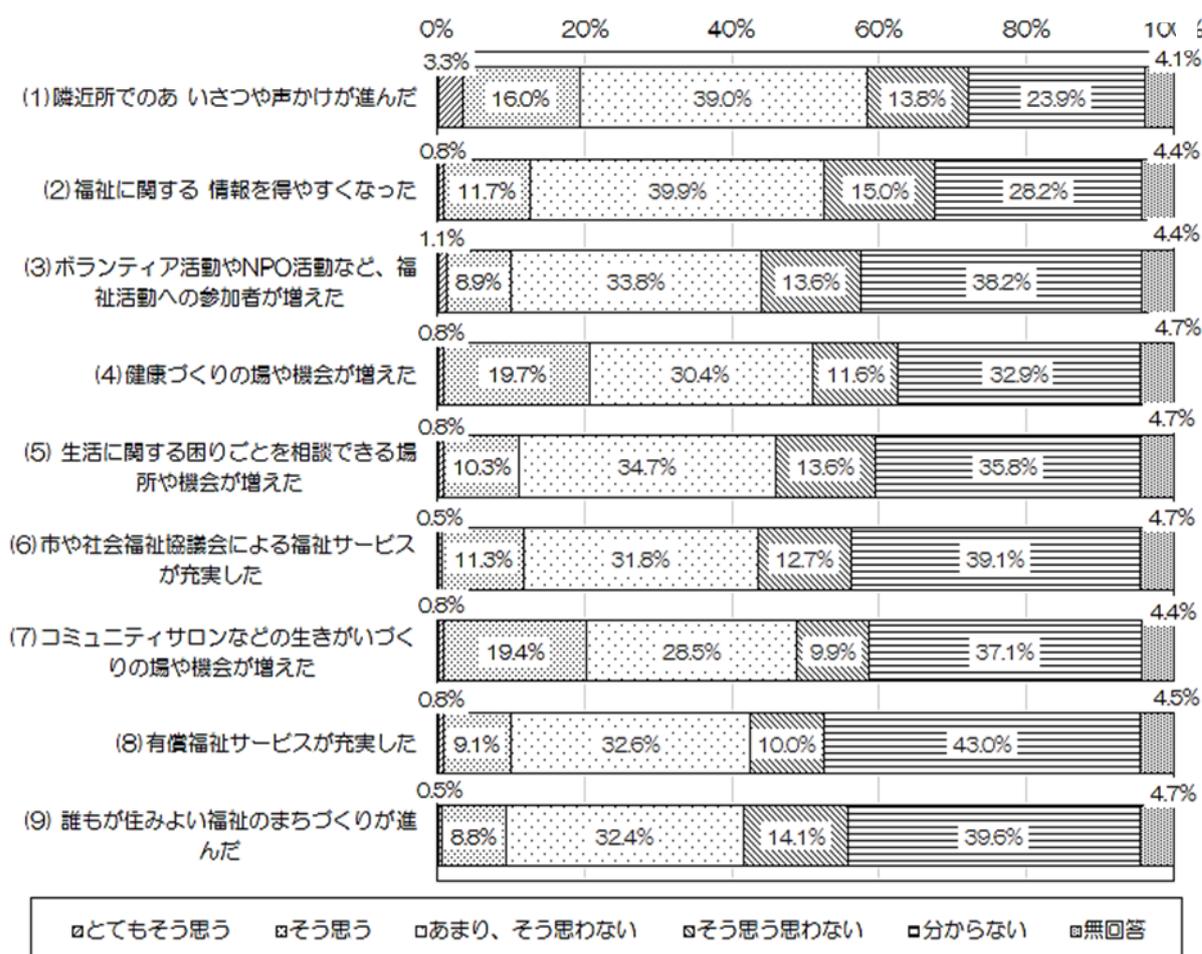
前回調査では「年金など社会保障の充実」、「ご近所づきあい、住民相互の交流」、「介護など公的福祉サービスの充実」の順となっています。前回に比べ、「ご近所づきあい、住民相互の交流」や「地域住民の支え合いや助け合い」といった回答が微増しています。

《参考》 前回調査回答（問 38）



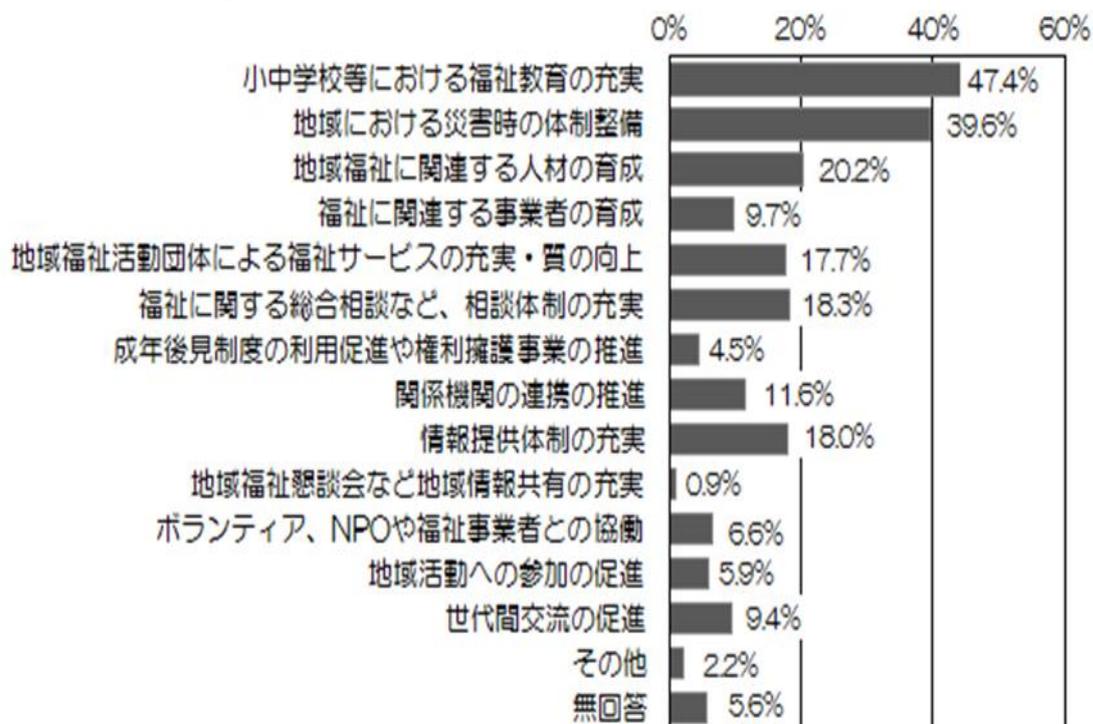
(8) 地域福祉の推進状況に関すること

問 42 市と社会福祉協議会では、平成27年度からの地域福祉を推進していくための計画として「地域福祉推進計画」を策定し、地域住民・地域福祉活動団体・市・社会福祉協議会の協働による取り組みを進めています。計画策定前と比較して、次に掲げる取り組みについて、どの程度進んだと思いますか。



「とてもそう思う」、「そう思う」と進捗度が進んだとの回答が、「健康づくりの場や機会が増えた」(20.5%)、「コミュニティサロンなどの生きがいの場や機会が増えた」(20.2%)、「隣近所でのあいさつや声かけが進んだ」(19.3%)で多く見受けられました。

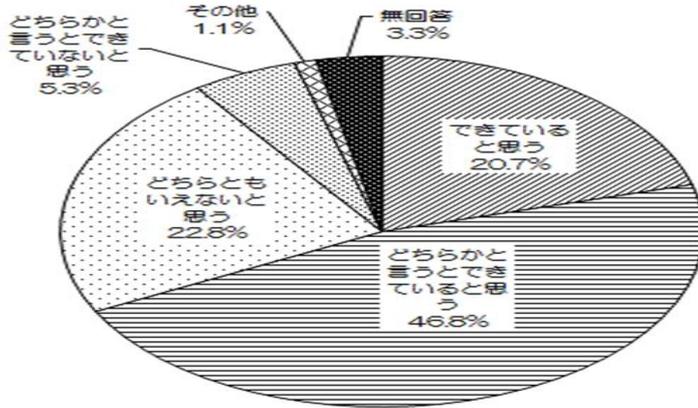
問 43 今後、地域福祉を充実させるために、市や社会福祉協議会が優先的に取り組むべきものは何だと思えますか。あてはまるところ（3つ以内）をお答えください。



「小中学校等における福祉教育の充実」（47.4%）がもっとも高く、次いで「地域における災害時の体制整備」（39.6%）、「地域福祉に関連する人材の育成」（20.2%）、「福祉に関する総合相談など、体制の充実」（18.3%）、「情報提供体制の充実」（18.0%）、となっています。

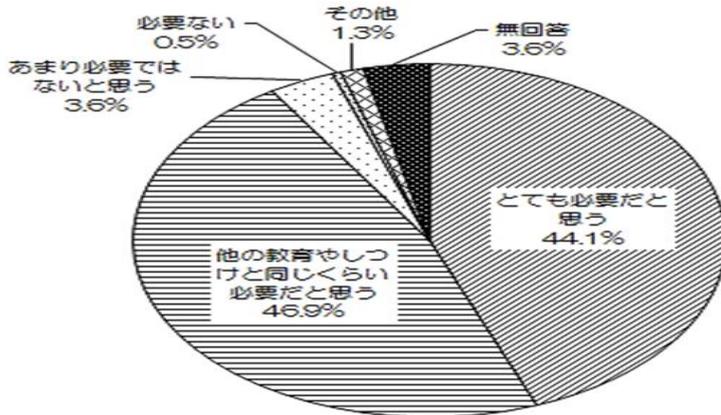
(9) 福祉教育に関すること

問 44 お子さんは、他人の良いところに気がついたり、困っている方を手助けできるように なっていますか。



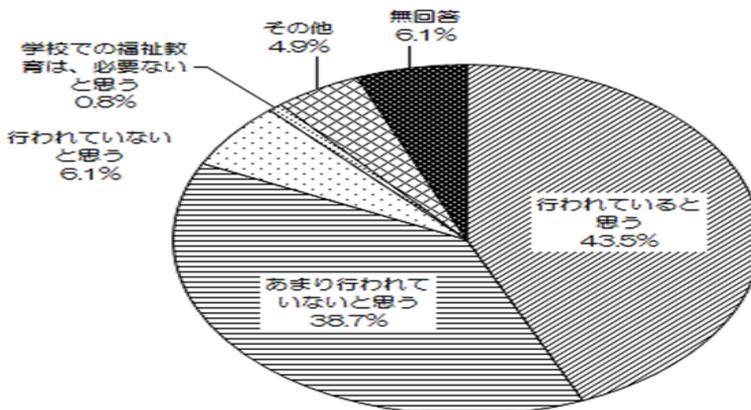
子どもの態度として「できていると思う」「どちらかと言うとできていると思う」と回答された方が全体の67.5%となっています。

問 45 お年寄りなどへの配慮や接し方等について考え・実践する「福祉教育」は必要ですか。



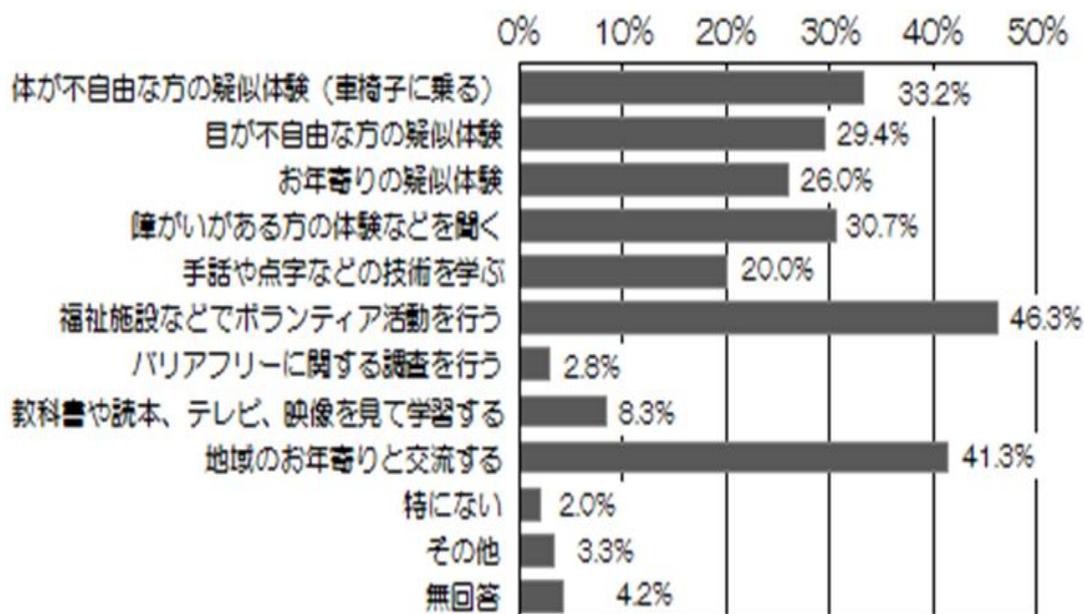
「他の教育やしつけと同じくらい必要だと思う」(46.9%)がもっとも高く、必要だと回答された方が全体の91.0%となっています。

問 46 学校での福祉教育は適切に行われていますか。



「行われていると思う」と回答された方が全体の45.3%となっています。

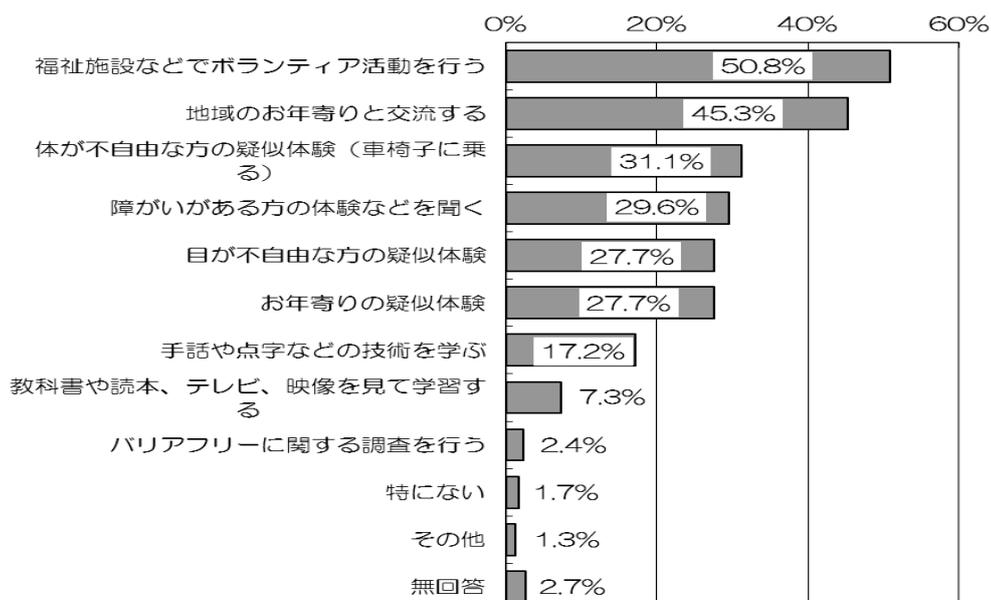
問 47 お子さんに対する福祉教育について、効果的だと思う方法をお答えください。あてはまるどころ（3つ以内）をお答えください。



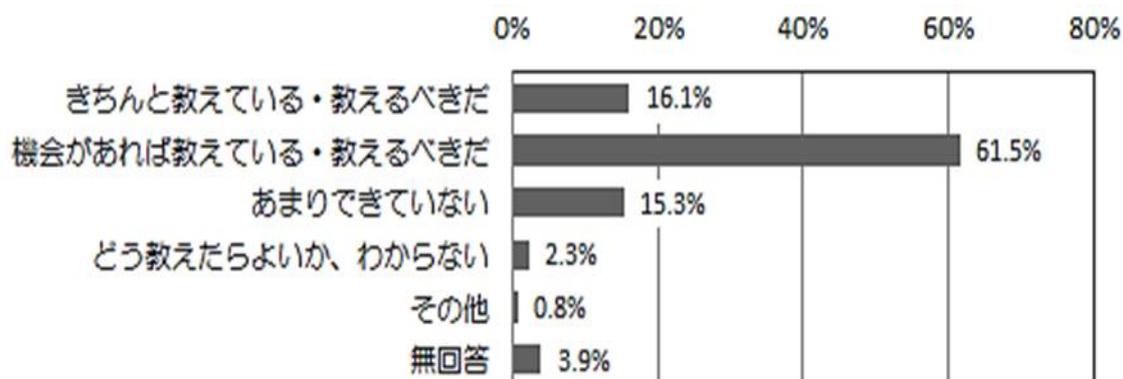
「福祉施設などでボランティア活動を行う」（46.3%）がもっとも高く、次いで「地域のお年寄り（おじいさんやおばあさんなど）と交流する」（41.3%）、「体が不自由な方の疑似体験（車椅子に乗る）」（33.2%）となっています。

前回調査でも同様の回答が上位になっています。

《参考》 前回調査（問 42）



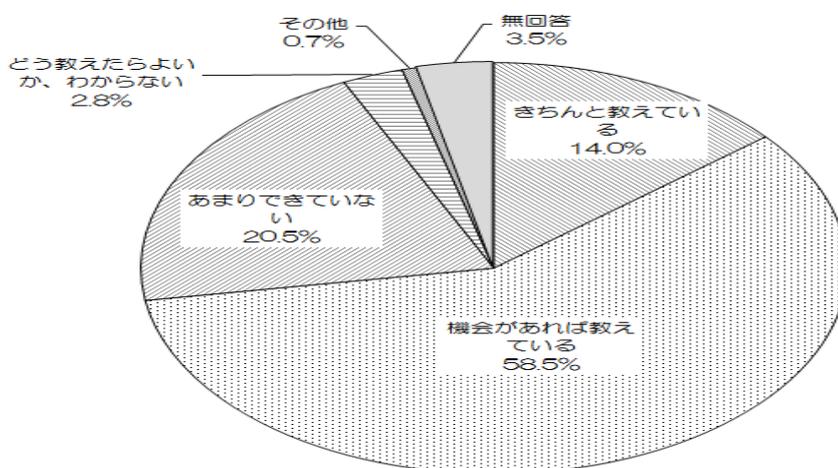
問 48 お年寄りなどへの配慮について、家庭ではお子さんに対し、どの程度教えていますか。



「機会があれば教えている・教えるべきだ」(61.5%) がもっとも高く、教えていると回答された方が全体の 77.6% となっています。

前回調査と比べて、「あまりできていない」という回答が減少しています。

《参考》 前回調査 (問 43)



(10) 自由意見

問 49 家庭において、お子さんに対する「福祉教育」をどのように進めておられますか。あなたの考えやアイデアなどをご記入ください。

主な意見

- 祖父母との交流を持ち、親が自分の親に敬意を示す。
- 親が見本となり、困っている人に声をかけたり、手助けをする。
- 家庭での福祉教育をしようとしたことはない。
- 家族・近所との挨拶などの普段からのコミュニケーションが大切。
- 仕事や家族との出来事を実体験として伝える。
- テレビや授業などで福祉について取り扱った時に話し合う。
- 電車やバスの優先席、点字ブロックなどを眼にした時に、その意味を子どもに考えさせる。
- 福祉に限らず、親子での話し合いの場をつくる。
- 電車やバスなどで席を譲ろうとしても断られるなどあり、譲ろうにも声かけが難しくなっている。
- 必要性は感じるが、どう教えたら良いのか分からない。具体的な方法が分からない。
- 子どもがどの位、福祉を理解しているのか親としても分からない。
- 祖父母や家族との交流を含めて、子どもは実際に体験しないと理解できないので、体験の場が必要。
- 親子で一緒にボランティアに参加したいと思っても、実際には忙しくて参加できない。
- 子どもにとって、学校で学ぶ擬似体験は良い経験になっていると思う。
- 福祉施設への訪問などの場を学校でつくってほしい。
- 不審者対策などの防犯上のこともあり、子どもたちに、困っている人とは言え、どこまで関わるように伝えるかが難しい。
- 福祉教育について親子で話す機会がないので、どう伝えたら良いのか分からない。
- あいさつや声かけをし、近所との交流をもつことが大切。

① 親（親族）の姿勢で示す

- 核家族なので祖父母との交流をなるべく持つようにしたいと思ひ暮しています。お年寄りが身近にいる存在であることで、目上の人間が少しずつ老いていくこと（目が見えづらくなったり、足腰が弱くなったり）を直に感じていく中で”おじいちゃん歩くの遅くてヤだな”とネガティブな視点ではなく、自然と寄り添えるような手を差しのべられる子になってほしいと思ひます。それにはまず、親（自分）が自分の親を、お年寄りを敬う姿勢を示すことと思ひています。障害者の方に対しても同じように考えますが、実行動としては機会もなく難しいところです。
- お年寄りや障がいのある方との接し方と行動でみせる。スーパーなどで声をかけられたり困っている人への接し方を見せて自然と交流している。幼、小、中、高、大、どの学年も関係なく、また未婚や既婚、年代関係なくその地域の人々で交流をしたらよいと思ひう。
- 電車で席をゆずる。困っている人をみたら様子をみて声をかける。まずは自分が行うようにしている。
- 私が近所の年輩の方と会話（立ち話）をするので、年代の違いなく接することができる。
- 福祉に関心を持つべきと思ひてはいても子供に特に教えるということはできないと思ひます。強いて言えば祖父母に対する接し方や病院や公共の場で様々なハンディを持つ方々に対して、自分自身の配慮の姿勢を見せることで子供に伝わっていくことができれば、と常々思ひています。
- 差別しない事を教える。自ら手助けをしたり、お付き合いしている背中を見せています。障害者なんだから助けてもらってあたり前、年寄りなんだから優先であたり前、ではなく「困っている人がいたら助けてやれる人が助ける」と、うちは教えています。
- 地域の方々へのあいさつやお年寄りを敬う姿勢を、親がお手本となるように心掛けています。
- 親の姿を見て真似してくれるように、自分が困っている人を見つけたら手助けをしている。
- 障害のある事が特別と考えず普通に接する。人との支え合いを大切にするため、親自らが子どもに背中を見せる。
- 親が見本となり困っている人がいれば、声をかけ、必要があれば手助けをするということを心掛けています。

- 地域社会に貢献し、人の幸せのために活動する姿を見せている。人は助け合って生きているという事を話すよう心がけている。
- 福祉教育をしようと考えたことがない。けれど一緒に生活してゆく中で点字ブロックのことや、白い杖を持っている人がいたらその場で自然に伝えてゆくようにしている。「全部機械でやっしまえば、あのシルバーの方の仕事はなくなるよね。」と話すとき子供は「じゃああのままのほうがいいよね」と自分から言ってくれり、親と子のコミュニケーションを大切にして、親が自然と身をもって教えて行かないといけない問題だと思う。
- 相手の身になって考え、行動することなど教えています。実際、外で何らかそういう場面に遭遇したら親が身をもって実践してみせることが大事だと考えます。
- 地域の行事などに参加し、親が近所の方と仲良く楽しくしている姿を見ることによって、子供も同じようになり将来的に近所で助け合うことにつながると思う。
- 高齢者が多い地域なので小さいころから親が手本を見せてるのできちんと挨拶ができている。
- 困っている人やお年寄りにやさしくしたり手助けをするのは、当たり前のことですが実際に声をかけたり行動で表すのはなかなか勇気がいることだと思います。大人も子供もそんな人として当たり前のことが自然にできるように、まずは自分から態度や行動で示してゆきたいと思います。
- 数年前の大雪の際は近所で雪かきを行い、お年寄りの家庭の雪かきも協力して行いました。お年寄りの方は温かいお茶を出してくださって、近所のつながりを感じました。やはり普段からのコミュニケーションは何より大切な事なので子供たちに伝えたい。
- 挨拶をすることや、お年寄りが困っているときに声かけをする、お年寄りから話しかけられたら聞いてあげるなど行っている。親がきちんと挨拶をし、近所の方と交流を持っていけば子供も同じように行動します。教育をするのではなく日頃からモラルを持ち人として当たり前の生活を送ることが子供へ受け継がれていくと思う。大人が挨拶できない時代です。その子供はおのずと挨拶できないと思う。
- 地域での活動に参加したり、参加するところを見せたりしている。

<ul style="list-style-type: none"> ● <u>大人が手本となるような行動をしなければ、子供には伝わらない</u>と思う。すすんで関わろうという姿勢がなければ難しいと思うので、少しずつでも色々な場面で実践してくればと思っています。 ● お年寄りや障害のある方への接し方や配慮などは身近である親が率先してやるべきだと思う。<u>言葉で教えるだけでなく、行動を見せて教える方が子供たちも当然のこととして身に付く</u>と思う。 ● お年寄りや障害者との接し方、話し方を親や家族がしていることを見れば、慣れるし、どのようにすればよいかわかってくる。<u>小さいころから接していると自然に付き合える</u>と思う。 ● <u>全ては大人が出来ているかどうか、だ</u>と思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 周りの方も高齢化が進み、日々困っている人を助けるように伝えていますが、口で伝えるよりも親が子に見せるように心がけています。<u>挨拶を繰り返し取り組んでいます</u>。 ● 日頃から困っている人がいたら助けることを言葉でなく、親も実践して見せるようにしている。小さいころからそういう環境にいるので自然に身に付いていると思う。中学校では<u>恥ずかしいという気持ちが出てきて、行動に移せなくなってきている</u>と思うのでこの機会に、また、話をしたい。 ● 特に意識はしていませんが、その場その場で<u>人としてとるべき行動を小さいころから、自ら実践して見せる</u>ことを心掛けている。
--	---

② 親（親族）の体験談を伝える

<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の親の介護の経験があり、娘に介護の様子を話すことで、お年寄りを大切にすること、困っていることなどを学んだと思う。常に「子供や老人、弱い者をいじめるのは許されない」と口に出して教えている。<u>お年寄りと交流できる機会があるとよい</u>と思う。 ● 病院勤務なので病院での実体験の話をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● NEWS や実際にお年寄りや障害のある方に会った際、その方がどんな事に困っていて、どのようなサポートを必要としているか、どのように声をかけるとよいか（私自身が看護師なので）説明してあげる。また、<u>実際にやって見せる</u>。施設などでのバザーやイベントと一緒につれてゆく。
--	--

<ul style="list-style-type: none"> ● 父親が介護職なので利用者さんとの話など、日常的に話しています。どちらかと言うと利用者さんの性格など明るい話題が多いですが、仕事内容などを話すと、びっくりしているようです。一つ一つ丁寧に慎重に様子を見ていないと危険な事がおこってしまう事もあると話したりすると詳しく聞きたがります。高齢者との関わりが少ない現在、<u>もっと子供と大人が集まって話せる機会をつくった方が、ぜったい良い</u>と思います。子ども達は知りたがって積極的に刺激すると思います。障がい者さんも同じです。 ● 看護の仕事をしているので、福祉について私の考えを話したりする機会はある。<u>授業などがあったタイミングで意見交換したりして福祉教育を学ばせている。</u> ● 障害者施設で働いていたので、障害者と健常者の違いはないことを子供に伝えています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 同居はしていないが家族に介護の必要な年寄りもいれば、引きこもっている障がい者もいます。子ども達は、いろいろな事を感じたり疑問に思った事を口にしたりします。その都度話し合ったり、逆に私の思い（不満も）も聞かせたりします。福祉教育としてやっている事はありません。一つ思う事は、自分が何かをしてあげる福祉ばかりではなく、自分が福祉を受ける立場となった時にどうするのか・・・など、<u>一方ばかりではない教育ができればいい</u>と思います。 ● 福祉関係の仕事をしているので<u>仕事の内容などを話している。</u> ● 自分の<u>祖父母が亡くなるまでの実体験を子供達に話したりしている。</u> ● 実体験を話しどのように思うか、どうしたらよいのかなど問いかけ意見を聞くようにしている。
--	---

③ 家庭での促し方を工夫する

<ul style="list-style-type: none"> ● 特にありませんがテレビで見たら「この時どうする？」など聞き、アドバイスもしたりその人の気持ちによりそえるように声掛けをしている。 ● <u>ニュース等で気づいた事を、その場で話すようにしている。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>学校に任せっきり</u>で特に家庭では取り組んでいません。会話をする中で、お互いの考えを聞き、見守っている感じです。 ● 誰もが最後は障がい者になることを教えています。
--	--

- テレビで障がい者の方の考え方や老人の映像が流れた時「困っていること」を伝え「どうしていくといいと思う」と考えさせることをしている。障がい者や老人が今現在、今後、何に困っていて自分達に何ができるのか、何をしたら喜んでもらえるのかを考える機会があればいいと思う。
- 家庭内ではなかなか福祉教育を行うきっかけになる事柄はありませんが、テレビでの番組やニュースで、このことに関わる題材があった時などは親子で、どうすべきかをちょっとしたことでも話し合えるように心がけています。人の気持ちが分かる優しい子に育てていきたいです。
- 24時間テレビ「愛は地球を救う」を観ながら病気について話したり、大変な事を話したりしています。
- 自分よりも弱い立場の人には優しく接するように日ごろから話しています。TVでお年寄りの方の映像が流れると、その場でそんな話題に移します。
- テレビ等で福祉に関する話題が出たとき、できるだけ子どもの疑問に答えたり、一緒に調べて疑問を解決するようにしている。
- 児童館のクラブ活動で慰問することや「福祉教育」関連のテレビ番組を見せたりしています。
- テレビで福祉関連の番組をみることがあれば、話す程度です。
- 東日本震災でのおもに子供のためのボランティアを続けている関係で話をしたり状況を見せたり（写真等ですが）して話し合っています。また、福祉についてはTVなど一緒に見て考えています。
- ニュースや公共の場に行ったとき等、話したりして福祉に対し興味、関心を持たせるようにしている。日常生活の中で教えることが大切だと思っている。
- テレビ番組や街の中で実際にお年寄りや身体の不自由な方を見たときに子供と一緒に考える。
- 街中やTVで流れる場面などでその都度考え方や実際どうしたら良いのかなどのお話をしています。子供は（大人も）自分で見たり聞いたり体験したことは記憶に残ったり考えたりすると思うので、実際に障害者や高齢者と関わる機会が大切です。
- 実際に触れ合い、関われる機会を持つ。テレビなどで障害者や高齢者のことを見たら関連付けて話をしている。

- 常日頃から教えることがないのですが、TVや街で見かけたとき子供に伝える様にしています。偏見の目を持たないで誰にでも手を貸せるように。
- 学校で勉強してきたとき、テレビで見たとき、外出の際で体の不自由な方を見かけたときなど、機会があるときに子供の意見を聞きながら話をするようにしている。
- テレビ、ラジオ、学校などで話題になった時に話し合ったりしている。公共の場では、どのように声かけ、接してよいか、親の行動を見せたり、当人に関わらせるようにしている。
- テレビなどで取り上げられている問題について、子供たちと意見を出し合ったりする時間を持つことが大切と思う。コミュニケーションが取れるし、お互いの考えも共有できて良い。
- ニュースなどテレビで話題になっているもの、その場でとり上げ話し合う。
- 福祉だけでなく、様々にニュースについて子どもと話し合いをしています。
- ニュースやテレビを一緒に見ていて福祉に関する話題が出たとき感じたことを話す程度。
- 日頃、福祉教育に関するテレビ放送があった時、進んで話をするようにしている。
- 福祉教育に関して家庭であまり話題にあがらず意識もしていなかったのが、今回をきっかけに家庭でも話し合っていく必要があると思いました。テレビでも学べる部分があると思うので、家族で視聴し、話し合ったりと、福祉に関わるきっかけを作っていく必要があると感じました。
- 子供が興味を持ちそうな福祉のTV番組を一緒に見る程度です。
- 電車にのった時など優先座席の意味や、お年寄りの方に席をゆずる事を教えている。点字ブロックの意味や、その上に自転車など置くと困る事を伝えている。子供には、その場その場で、どうしてそうした方がいいのかと意味も伝えると納得しやすい。最近は何事もないので、すすんでやるようにとは強くいえない。
- 実際に公共交通機関でお年寄りや体の不自由な方や妊婦さんがいた時に混雑していて席が空いていなかったら声をかけて席をゆずるのを親がして子供にみせる。後でプラスどうして席をゆずったのかについて話す。子供は目でみて感じての方が覚えるし、意識しなくても自然に出来るように、その方がなる気がします。

- 特に家庭で福祉教育をしているというわけではありませんが、困っている人、助けが必要な人には手助けするようには伝えています。しかし、なかなか手助けする機会がないのが現状です。
 - ふだんの生活で特別に何かを教えたりはしていないが、実際にそのような体験をしたり話を聞いたりすることがあれば、その際に考えさせられたり話をする程度。特別に教えると何か特別なことのようにになってしまうので勉強やスポーツなどと同様にふだんの生活に取り入れるべき。
 - 子供に対しては人に迷惑をかけないことや、やるべきことを先にすることを優先的に伝えてきました。親が二人とも介護の仕事なので、まずは声かけの仕方から子供におしえてあげていけたらいいなと思いました。
 - 別に計画して進めてはいない。日常的に生活している中で自然と教えているつもり。まず、親が福祉について知識を得るべき。
 - 特に進めていないが公共の場でのゆずり合う気持ちやバリアフリーなどの説明はしている。
 - 公共の場、もしくは電車バス等に乗車した際お年寄りや
- 身体の不自由な方に席をゆずる等の話は小さい頃から話しています。
 - 困っているお年寄りがいたら手を差しのべたり電車でお年寄りや体の不自由な方に席をゆずったり、あたりまえの事を出来るよう、日頃から話し合っただけで教育している。
 - 駅のホームにある点字ブロック、エレベーター内の低い位置にあるボタンの必要性などを出掛けた時などに教えています。身近にあるものから教えて行くのがいいと思います。
 - 電車に乗った時や、エレベーターを利用するとき、注意書きと一緒に見たり、お年寄りや体の不自由な人に、どのように対応したらよいかを話すようにしている。
 - 特に教育はしていない。周りに障がいのある方やお年寄りも多く、周りを見て学んでいる。学校でもたくさん活動をしているのを感じている。ただ、人にやさしく心にゆとりを持って生きろと伝えている。
 - おじいちゃん、おばあちゃん、体の不自由な方には優しく、困っている姿を見た時は手を貸してあげられるような人になりなさいと教えています。

- 電車やバス利用時のお年寄りや妊婦さんへ席を譲ること、地域の方とのあいさつを交わすことを大切にすることを常に言い聞かせています。
- 電車での優先席利用についてはよく話す。子どもに対しては身近で具体的な体験を通して教育することで、自ら考え行動できるようになるのではないかな。
- 電車に乗って出かけ（いろいろな人が社会で共同で暮らしているのが分かるから）そこで、色々な場面に遭遇した時に自分ならどうするかを聞いてみる。
- 少し前まで、曾祖母と同居だったので、お年寄りがどういう人、状況なのか理解していると思うし、電車などに乗車した際にも席を譲るなどのマナーについて話しをしている。ただ、一般的にいう「福祉を必要とする方」の方にも意識や態度の変化がみられ、断られることもちらほら見受けられるので、声かけが難しくなっているように思う。
- 街内で障害のある方と高齢者を見かけた時に、どういった所が不自由なのかを子供と一緒に考えるようにしている。その上で、その方たちから助けを求められた際にどう対応するかを一緒に考えるように ➤
- しています。
- 電車等でお年寄りに席を譲るなど、その時々で対応している。
- 電車ではお年寄りや体の不自由な方に席をゆずれる様に話しています。
- 助けが必要な人がいた時には年齢に関係なく声をかけてあげられるように教えていきたい。
- とにかくあいさつから始まり、関わり、コミュニケーションの中から感じ取り理解できる様、障害について障害とはどんなものなのかを考え受け入れてほしい。
- 身近な事でその様な（体の不自由な人）方と出会ったら、きちんと説明をして、どう手伝ってあげれば良いのか説明をする。同級生にいても、いじめたり差別はしてはいけない、その変わり手伝ったりあそんだりしてあげる様、話している。
- 家では特に福祉教育はしておりませんが、祖父・祖母と同居しているため、困っていたらお手伝い、声かけをする様に普段から話をしていきます。
- 近所で困っている方に対してどうするか、祖父母の病気に対してどう配慮すべきかを話す。

- 出かけた時に見かけたりした場合「助け合うんだよ」と言っている。
 - 同じ学校内、地域にいる障害のある方への考え方を子供には同じだと教えている。生活をし幸せになりたいと思っているのは誰でも同じ。困っている人がいたら助けなさい。いつか自分が困った時に助けてもらうとうれしいと思うように。
 - 白い杖の人が赤信号で渡ろうとしていたので、「危ない」と声を出した。びっくりしてその人は立ち止まりました。話をしたらひとつ前の信号を勘違いしていたようでした。白い杖の人は目が見えないことを説明し、困った人を見かけたら助けてあげると良いと教えました。
 - 学校や家庭、買い物など毎日いろんな人を見て接する中で良いこともそうでないこともたくさん話しながら、私も子供も学び合っています。その中で、今の自分が出来ることを話したり、行動したり、沢山ほめたり、沢山の経験から学び芽生える、思いやりだと思います。
 - シニア世代が多い地域なので、普段から関わっていたり、見守り活動を通じて、子ども自らが感じていると思う。時々煩わしく感じているような話も聞くが、その時にはシニア
- 世代のありがたさを伝えている。
- 子どもが小学生の頃（5年生まで）は祖母と同居していました。産まれた時からずっと支えられ、見守られ育ってきたことを時々話すようになっています。今後は孫から祖母へ支える気持ちを持つように。同じように今まで地域のお年寄りに見守られて生活してきたのだから、自分の祖母と同じ気持ちを持って周りのお年寄りに接する事が出来るといいね、と伝えています。身体の不自由な方への接し方は、自分より背の低い人が高い所に手が届かない時は代わりに取ってあげるのと同じように、ちょっとした事（難しい事を無理にするのではなく）にそっと手を差し伸べるだけでもやって行こうと伝えています。
 - 学びの機会になるような場所には子供もつれていくようしている。自分の体験を話す時には「あなたならどうする」と考えさせるようにしている。
 - 高齢者や障害者との関わりの中で、子どもからの話を聞いた際、なぜ手助けが必要なのか、なぜ自分との違いがあるのか説明し、できることを行動に移している。

- 困っているお年寄りや障害を持った方を見かけたら、進んで助けるようにと日頃から話をしているが具体的にどうしたらよいか伝えていない。
- 家族に年寄りも障害があるものもいるので、その時々に手助けが必要な事を話しているが、子供の友達やその親には身近にお年寄りや障害者の入り人が少ないので理解していただけない時があり残念に思います。
- 子どもには祖父母と一緒に過ごす時間を持つようにしている。高齢になると、入院したり介護が必要だったり、状況が変わってくる中で、その都度話すよう強いている。また、近所の方々とのコミュニケーションをとるようにしている。
- 日頃から近所の人たちと接点を多く持ち、様々な状況がある事を学ばせている。協力する事、優しくすることを普段から心がけている。
- 挨拶をきちんとするよう話をしている。車いすや杖を使っている方を見たり、道ですれ違う時は見守るか、ゆっくり進むなど気配りをするように話している。地域にどのような人々が住んでいて、どのような事に困っているか、地域の高齢者を知り交流できる機会が今後必要と思う。
- 障害のある方や年寄りの方が困っていたらどうするのか、家庭内で話し合ったり、公園でお年寄りと話していると子供はうれしそうなので抵抗はないようです。障害者に対してどうするのか難しいと思っているので話し合いをしている。
- 何か困っている人を見かけたら声をかけるようにと話しています。近所に結構お年寄りが、いますので…。
- 子どもには挨拶が大事であると教えている。顔見知りになっていると何かの時助けてもらえると思うから。高齢の親族がいるので、お年寄りとの接し方、触れ合いを自然に学んでいると思う。
- 困っている人を見かけたら、声をかけてあげる様に話しています。ご近所の人へのあいさつはもちろん、お礼の言葉など。
- 障害者、高齢者、そういったことは全く関係ないので、健常者でも困っている方への手助けは「お手伝いしましょうか」の一言から始めるよう話をしている。助けてほしい人を助けるべきで、身勝手な思い込みで逆に相手の方の心を傷付けてしまう事のないように。

- 私の父は交通事故により、足と目に障害が残ってしまいました。外見普通の方と変わりはなく見えますが、子供達には外見が変わりない人でも、もしかしたら不自由だったりするかもしれないので、手助けや行動、発言には気をつける様にと伝えていますが、実際身内以外の方とのふれ合いはなかなかないため、本人達がどの位福祉に関して理解しているのか、親としても分からない現実です。
- 私の家庭では障害のある子供も、特養に入所している年若い母もおりますので、子ども達には小さいころから様々な事を伝え教えてきたが、子ども達から小学校、中学校での生徒たちの考え、言動、行動を聞いて心の痛む思いをしている。様々な「個」「個性」を尊重できる国にするには子供たちへの教育が不可欠と思うが、道のりは長く険しい。
- 別居している親の介護について、困ったことや不安などを正直に相談して、一緒に解決できる方法を考えてもらっている。また、その結果を話し、更に考えを深めたり、上手く出来たときに喜んだりしている。
- 困っているお年寄りへの親切さや、体の不自由な方や、目の不自由な方への優しい心で助けることを教えている。
- 人は一人一人みんな違うという事、思いやり、助け合う、協力する、我慢をする、傷つけない事、周り(先生や友達)を困らせないという事を小さいころから教えています。これが福祉教育につながると思う。
- 生活の中で気づいたとき、その場で説明し理解させるのが効果的と思う。一方的に講義しても子ども達には響かないように思う。
- 福祉教育という「教育」の型にはめていません。生活の中で自然と身につけていったり、お年寄りや、こまった人がいた時に一緒に考えたり、意見を聞いたり話をしたりしているので、こんな時こうする…と自分なりの考えた行動が人のために役立っているという自然な行動としてできていると思います。
- 困っている人を自分に置き換えて、どうして欲しいかを考えて行動するように話している。困っていても自分で解決したいのか、本当に助けを必要としているのかをよく考えるように話をしている。
- 小さい時からヘレンケラーなどの本を読んだり、外出時に出会った障害を持った方等との会話や行動を自然に教えてきた。

- 学校で点字を習った時、興味を持っていたので街で一緒にさがしたり、点字ブロックの場所なども確認したりしました。
 - 見返りを求めることはしてはいけない、手伝ってあげたのにと思うのではなく、自然と手伝う気持ちを持つように話をしている。
 - 限定的ではないですが、困っている人がいたら声をかけようねと話しています。
 - 特には教えていませんが、誰にでもやさしく接せるようには教えています。
 - 毎日普通の生活を送れることが何よりの幸せだと云う話をしながら、なるべく悩みを作らないようにしています。
 - 思いやりの心をもち、助け合うこと、様々な人と共に生きることの大切さを家庭でも話すようにしています。
 - 障がい者だからといって特別ではないと教えています。みんな同じ人間という事です。
 - 自分の知る範囲内で、障害のある方、高齢な方への接し方を教えています。
 - 体に不自由がある人が特別なのではなく、困っている人、手助けを必要としている人がいたら、力を貸していけるよう話をすると共に、自分も助けてもらう状況があるかもしれないし、誰もが歳を重ねるの ➤
- でお年寄りを大切にするよう話している。
 - 困っている人を見た時に、こうしてあげるといいよと教えてあげるようにしています。
 - 福祉に限らず常に相手の気持ちを考えられるように話をしている。
 - 困った人には手を貸すという事しか伝えていない。
 - 目で見ても困っているとわかれば手を貸してあげる、まだその程度。
 - 身近な人との関わりの中でその都度教えられる事を話していく。
 - 色々な人と関わる中で、常に相手の気持ちに立って行動するように、話しあっている。
 - 目の不自由な方や、体の不自由な方が困っていたら声をかけ手助けするなどを教えている。
 - 自分さえよければいいという言動はしない、大事にしてほしかったら、先ず相手を大事にする、相手の言うことを素直に聞いて受け止めること、などを普段からしつけている。
 - 実際に見かけたときなどに、聞いたことの話や自分の知っていることを話したりしている。

- 買い物に行ったとき困っている人がいた場合子供に「どうしたらいいと思う」等質問をして答えが良ければ「そうだね」わからなかった場合は、一緒に考えて答えを出したりしています。
- 障害ある人でも自分の判断で手助けをするのではなく、どのように手助けして欲しいのか、今手助けして欲しいことがあるのかを聞いてから行動するように伝えている。
- 色々な人と触れてみ、色々な人が生きていて大変な事があっても、自分だけが苦しいじゃなく、いろいろな人もいろいろな思いをしているんだという事を伝えている。
- お年寄りや体の不自由な方への思いやりの心、助け合いや協力できる心が育てられるように話し合っている。
- 身内に重度身障者がいるので幼いころから接するようしていた。学校やテレビで福祉の話題が出ると、彼と比較しながら家族や身内が日頃どのように過ごしているか話すようにしている。
- 弱者に対して親切にするよう、目の上の人に対しての挨拶は徹底しています。そこから弱者に対しての接し方が育まれるような気がする。
- 相手の立場にたって、考えることや、思いやりをもって接することを教えている。
- 特に教育はしていないが、子どもが福祉について聞いてきたら答えている。
- 高齢者はできなくなっていくことが多くなるが知識はたくさん持っている。また障害者は自分より劣っているのではなく個性の一つと教えているが、理解するのは難しいようだ。
- 子どもは今の自分の体のことしかわからないので、歳をとるといろいろな事が出来なくなることや、疲れやすくなってしまふことなど、若い時と違う事を教えました。そうすれば、どうしてお年寄りに特別な対応が必要かが分かりやすいと思う。
- 特別なことは行っていないが機会がある度に話をしている。
- いじめの番組とかがあった時には、いじめる側の人間をあいつらはクズだなとののしる位で、教育を進めるところまではいいっていません。
- 相手の立場になって、困った時には何をしてほしいのかを考えられる様心がける事。

④ 学習・体験の場をつくる

- 障害のある人の事を全く知らない、身近にいない人もいると思うので、いろんな障害の事を知る事が大事だと思います。福祉の仕事につく人以外の人も知識が入るようにすればいいと思います。読みやすい工夫は必要だと思います。
- 障害者に何時なってもおかしくないと思っているので、1度は子供の時に疑似体験しておくと、障害者の人達のことが少しでも理解できるのではないかと思う。理解や思いやりがあってこそその福祉教育。幼いころからの教育が必要だと思う。
- 家庭において福祉教育について話し合ったことはありません。今後いろいろな機会に疑似体験等を経験させ、親子でよく考える場を作っていくたい。
- 子どもには耳で聞いて進めるより、体を使って体験を通して進める方が良いと思う。医療や福祉施設へ行き学ぶことが出来たらと思う。
- 身体障害者がいるため日頃より介護に対する心がけ、介護の補助をすることで障害者への配慮は学んでいると思うが、高齢者への気遣いも家庭外で学べるホームへの訪問等でふれあい教育も必要ではないかと思う。
- テレビで手話ニュースを見たり、図書館で手話の本を借りてきて、指文字で自分の名前を練習している。将来手話通訳の仕事ができるとよいと思う。歌を歌いながらの手話を学ぶ場があるといいと思うが。
- 介護の仕事をしているので、ホームの行事などに参加させたりしているが、老人は思っているより、きれいで優しいものではありません。暴力的で不潔な人も多いです。上の子は苦手なので遠くで見ているが下の子は平気で交流している。全員に同じ教育をしても意味がないと思う。大丈夫な子の福祉に対する行動力を増やす教育、苦手な子にも理解でき、できる範囲の福祉でよいと思う。無理に交流させることはないと思います。
- 自分の経験などからの話なども含めいろいろな時間において進めていますが、実際に目で見て体験しないと子供はなかなかできません！大人ですら見て見ぬふりをしている人がたくさんいます。
- 買い物した後の荷物持ちをさせたり（とくに米とか）しています。でも、自分から（子供から）率先してやります。

- 困っている方が近くにいて自分に出来る事を考えて手助けしてみようと伝えています。離れに寝たきりの曾祖母が住んでいるので介護をしている祖母の手伝いをしたり、手をにぎってあげたり鼻をふいてあげたりと、何が今必要なのか考えて行動していけるようになってほしいです。ホワイトボードを使ってやり取りすると、お互い楽しく笑顔で過ごしていることが多いように思います。
- 近くに住む曾祖母にあわせている。足が悪いのでおばあちゃんが歩く所にあぶない物はないか等、気にするようになった。
- なかなか近所や知らない方との交流は難しいですが、祖父母との交流を常にしていれば、その先へ進みやすいのではないか。
- 家族以外の人と接する場に参加したり、体験する場所があれば、積極的に足を運びたいと思っています。
- 自治会で行われている敬老会やサロンに参加して、お年寄りのお話を聞いたり交流を深める。
- 実際に目にし、体験するのが一番効果的だと思う。講話や疑似体験をすることで子供も身近に感じ、考えることができる。
- まずは、自分のおじいちゃんおばあちゃんの助けになってくれればいいと思っています。それから地域に住んでいるお年よりや体の不自由な方の助けになればいいと思います。
- 祖父母と、一緒に暮らしていないので、出来るかぎり、なるべく、祖父母達と、ふれ合うようにしたいです。
- 我が家には認知症により施設に入ったおばがおりますので、おばを通して子どもには教えました。そのような対象の家族や親族を通して学ぶと、より一層子どもも感じ取れるようです。
- 私の子供は、父方曾祖父母、祖父母、母方祖父母がおり、年寄りと接することが多い。団地も祖父母世代が多いが、お互いに声を掛け合い、仲よくしてもらっています。
- まずは自分の家族との中で感じたり経験することが第1歩となって大切だと思うので曾祖父母から赤ちゃんまで、親族との関わりを密にする。
- 活動的で、美しく素敵な祖母が、現在車いすでの生活をしている。人間は生きている以上このように変わることがあるという事を子供は感じていると思う。

- 障害者との交流は普段の生活では難しいので、祖父母との交流を多くして、弱い立場の身になり、物事を考えたり、お手伝いができるようにしています。
- 高齢者との関わりが少ないので、先ず自分の祖父母との関わる機会を持ち、身近に感じることが良いのではないかと考えます。そのような積み重ねで目上の人のお話を聞くとか困っている人を助けるとか自然に出来るようになっていくと思う。
- 家庭の中に知的発達障害の兄弟がいる事もあり、ずっと接しているので、余り特別な事とは捉えてはいないと思います。あとは、テレビなどの映像を見た時に、家族で話したり、色々な人がいて、色々な病気や障害、認知症など、子供が疑問に思って発してきた時に答える様にしています。
- 祖父母と行動を共にする。声かけをするようにする。
- 近所の方とあいさつをして日頃から親しくしていただいています。また、祖父母に手紙を書かせたりしてお年寄りへの気遣いや思いやりを持つように考えさせている。合唱団に入っているので福祉施設を訪問したりしてお年寄りとの交流を図っている。
- 脳梗塞で倒れた祖父の介護で、食事を食べる時手伝ったり、リハビリを応援したりと、実際に体験して学んだことがある。
- 現在、寝たきりで入院している祖父がいます。定期的にお見舞いに連れていくことで病院内の人達のふれあいのみです。近所のお年寄りとの接点がないので祖父母との触れ合いを多くして老いることを肌で感じてもらうのみです。
- 祖父母と暮らしており、近くには「ひいおばあちゃん」も住んでいるので、普通の核家族よりは年寄りと接する時間が多いので自然と身に付いている。教育するよりか、自分自身で気づき行動することが重要と考える。
- 身近に、祖父、祖母がいるので、毎日、自然に、学んでいる。
- 自分自身が健康であることに感謝し、弱者に対し思いやりを持って見守り、必要であれば援助を行う事。何より、実際に車椅子で歩道を歩いてみたり、目の不自由な方や老人の疑似体験を行う事は良い経験で、地域等、整備を行う上で細かい気配りや配慮が出来る、やさしく住み良い地域になるのではないかと思います。

- 出掛け時など、車いす用のスロープや点字ブロック等見掛け時に、その大切さや必要性を教えている。ただ話を聞いただけでは障害者の方の苦労が伝わりにくいので実際に目が見えなかったり、足が使えないなど体験が出来る機会があれば、もっといいのかなと思います。
- 3才頃から養護施設や障害者とふれ合う場所へ出向いていた・学校の文化祭やイベント等。授産品を購入したり、点字を体験したり、今まで障害者に対して少しも抵抗感なく自然に接してきている。
- 私自身が、老人施設へ音楽療法に行っているので、学校が休みの時は一緒に連れて行ったり、私が手話を学んでいるのでそれを教えたり、交流の場に連れて行ったりしています。
- 祖父母がおりますので、月に1・2回は会い、車いすを押したり、介護用ベッドを操作したりしているので身近なこととして感じていると思う。1・2回の福祉体験をしてもなかなか身近に感じることはできないと思うので、デイサービスへ行ったりして一緒に遊ぶ等の触れ合いが大事だと思う。
- 障害者施設などの見学や体験をし、多くの障害者やお年寄りがいることを教えている。
- キチンと教えているつもりだったのですが子供がほとんど理解できておらず無念です。やはり幼少より自然と身近に感じられる様、幼、小、中、高との隣に老人ホームが理想ですが、コストが大なので交流を義務化（第2土などに学ぶ）させるのが一番ではないでしょうか。核家族化で交流が全くないのは問題だと思います！ホームのご老人も刺激が不足しているのがボランティア時に分かりました。
- まずは日常の中で大人が先頭になって福祉活動をできなければ「福祉教育」は時間のムダです。親と一緒に経験と体験ができる環境を作るべきです。
- 登校時に防犯パトロールをして下さっている、地域の年配の方とのあいさつ、言葉を交わす、出来る限り、祖父母の家へ遊びに又は泊りに行き、お手伝い等を通じ学ぶ。
- 机上で教えても、体験がなければなかなか入ってゆかないタイプの子であるため、機会があれば、障害がある方たちと交流の場に連れ出したいが、親自身が忙しくて実施できない。
- 地域での障害施設での、お祭りなどに出かける。

- 別生活をしている祖父母との交流を大切考えて、旅行をしたり、食事をしたりすることで、自然にふれ合い、お互い助け合うことができていると思う。子供にとって昔の知恵や工夫を知ることは、興味深いことですし、大切だと思う。
- 兄弟が多いのでお互い協力して生活していくように話している。上の子は下の子の面倒を見る機会が多くある。祖父母はまだ介護の必要はありませんが必要となった時には、全員で協力しいろいろな事を学んでほしい。
- 近所に障害がある方が住んでいて、交流するよう心がけている。自然と関心が行くようで、夏休みの自由研究で自ら障害について調べていた。小さいころから身近に障害がある子と一緒に遊び、環境にいることが自然と当たり前のように受け入れられていたので、幼児期に障害のある方と関わる機会を増やすことが大切だと思う。大阪の大空学校は素晴らしいと思いますので、ドキュメント映画などを上映して、教科書だけでなく、目で見、触れて、関わり合えるとよいと思う。
- 障害者施設や老人ホームへ行ってコミュニケーションを図ったり体験をしたりするとよい。
- 介護状態の高齢者が施設で生活していることもあり、毎週身の回りの世話などに行くので現場を見たり手伝うことによって、どんなことが必要でどれだけ大変な苦労があるかを実感する機会があります。介護される側の人があるどんな気持ちかを想像し笑顔にながるとその喜びはかけがえのない宝物に変わります。
- 祖父母が養育に関わっていることから、高齢者への気遣いや優しさ、思いやりというものの大切さを教えると共に高齢者の身体機能の低下により子供との動作のペースが違う事を生活の中で学んでほしいと思いい日々接している。家族だけに限らず、そういったことを気に掛けることで高齢者を敬う気持ちや傾聴する精神が養えればと思う。
- 3世代同居することで自然に身に付くと思っている。生活するうえで、良いことも悪いことも感じていれば他の方が不自由を感じている気持ちを少しは判ってくれると思う。
- 子ども達はお年寄りとの交流を大切にしている。自分の祖父母のように感じ、困っているとき、助ける行動をとることができている。

- 福祉教育は実際子ども達がどんな形であれ、実際関わらないと理解できないと思います。
- 身近に感じることが大切で、身内に足の悪い方がいるので、子どもには実際に体験してもらっている。階段の上り下りなどの補助一つにしても自分でやってみなくては判らない。
- 年配の方、障害をお持ちの方と接することがほとんどないので、そのような場での交流があるとよいと思う。
- 地域での活動に参加、近所の方への挨拶、近所に住んでいる高齢者の話をする、障害のある方を見かけたら話をする、地域の方とバーベキューやボーリング大会などの交流をする。
- 職場が老健なので、たまにボランティアに行かせている。いろんな障害がある人とふれあうし、どのような手助けが必要か考えるようになった。たくさんの人とふれあう場が沢山もてると良いと思う。
- 福祉活動やボランティア活動を通していろいろな事を学びますのでそのような機会には進んで参加するようになりたいと思う。子供たちには障害のある方や高齢の方にやさしく接する人になってほしい。
- ボランティア活動等に、一緒に参加してみたい気持ちはあるが実行できていない。
- 海外では積極的にボランティア活動を低学年から行っている。日本もそれが当たり前のように感じられるよう活動を取り入れるべきと感じる。それが障害者差別の意識改革や地域活動、お互いに助け合う精神につながると思う。
- 夏休みに、地域の老人ホームへボランティアをしに行っている。実際にお年寄りに関わらないと気付くことのできない体験をして自ら学んでほしいと思う。
- TVを観ていて目にした時や気づいた時などに話しをするなどしか教育していませんが、必要なので親子でボランティアなど機会があれば、と思います。
- 今行っている習い事でのボランティア参加に協力し、介護施設や養護施設、障害施設で活動を通し、その方の楽しんでもらえるように親子で行っています。
- 核家族が進み高齢者と接する機会が少なくなってしまったので、授業や地域のボランティア活動の一環として、施設への体験訪問などを行うのも関心を持つ機会になると思う。
- 福祉協議会が行うボランティア活動に参加した。

<ul style="list-style-type: none"> ● 今は特に何もやっていないが、以前、私が手話を少々やってサークルに入っていたので、一緒にボランティアをやってみたい。 ● 福祉教育として、<u>介護施設などボランティアでもっと積極的にいかせるべき。</u>お年寄 ➤ 	<p>りと一緒に暮らしていないと分からないことがたくさんあると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今は<u>学校での福祉教育に頼りきりになっているので、家でも教えていきたい</u>と思います。ボランティアがあれば参加させたいと思います。
--	--

⑤ 学校への要望等

<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭では進めていません。お任せする訳ではありませんが学校の中で友達と学べたら身に付くのではないかと思います。家庭ではなかなか難しいと思うので、授業の中で取り組んでもらえたら、子どもたちも自然と入ってくるし入り易いと思います。<u>クラブに福祉に触れられる活動が出来たらいい</u>と思います。(そういうクラブを作る) ● あまり、そういった機会がないのですが親族に障害者がいるので思うのですが、子供達が老人施設に行く機会をたくさん作り、障害の方には生きがい生まれ、子供達にとっては福祉に関心が持ててお互いに良い結果に進むと思います。(もっと<u>学校の教科に入れても良い位に大切な事だ</u>と思います。) ● 学校では、<u>車いす、バリアフリー、点字などの体験</u>を行っているので、<u>継続して欲しい。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者などが困っている時は声をかけてみるなど、行動できるような気持で生活するように声かけしています。子どもたちも、身近にお年よりの方がいないと分からないと思いますので、<u>授業などでも、地域のお年よりとふれ合える</u>と考えも変わりました。 ● 以前子供が手話を習いたいといったので、狭山市でどこか習えるところがないかと調べたが、子どもが学校へ行っている時間の大人向けのものしか見つからなかった。テレビでやっている手話講座を録画したが基礎からではなかったため難しく、いつか見なくなった。<u>学校で福祉の授業があつたら興味が出る子供が増えるのではない</u>かと思う。 ● 学校と老人ホーム等の施設を学校内に設け、<u>日頃から高齢者と接していく</u>ようになればよいと思う。
--	---

- 核家族であるため、高齢者や障害者、幼児までのふれあいはできなくなっている。最初は学校で交わりがあり、いろんな人がいることが分かることが大事と思う。地域の福祉施設などに気軽に訪問できるようなことが大事かなと思う。
- 核家族の中で、お年寄りと触れ合う機会がない子供にとって「福祉」と言っても実感をもって家庭で教えていくのは難しい。学校の社会の勉強で具体例を挙げて社会の仕組みを実感できる方法はないのかと思う。
- 家庭では福祉教育はあまり話す機会はない。祖父、祖母と離れて生活しているため年配の方と接する機会が先ずない少ないこと。これは私が子供のころ一緒に生活した経験から残念な事と思います。時には「うるさい」と思う事もあったが貴重な経験だったと思う。学校で施設などのボランティアを計画していただければと思います。
- 優しく接する事。困った人、事があったら相談する事。実生活ではなかなか障害のある方や、老人との接点が無いので、学校単位で交流が持てる時間があれば、お互いに刺激があつて良いのでは？
- 子ども達には目で見て理解させる方が、より現実的に受け入れやすいと思うので、学校や地域で学べる場所で教育して欲しい。
- 学校で行われている疑似体験の話聞き、どのように思ったか話し合いをした。身近な人の話はしやすいが、見ず知らずの人に対してでもできることはしてあげられるようになってほしいので、ふれ合う機会が多ければよいと思う。
- 転勤族の為、あまりお年寄りと接する機会がありません。地元でないので情報を得るのも難しいところがあります。学校を通して色々な機会があつたらいいなと思います。
- 家庭でどのように教えたら良いか分からないので、学校で教えてほしい。
- もっと、学校とかでお年寄りとの交流を増やした方がよいと思う。
- 学校で実施している疑似体験は子どもにとって良い経験だと思う。
- 学校でも授業に福祉体験をさせる時間を作ってもよいのではないか。
- 英語の勉強も大切ですが、手話、点字の勉強もあつたらよいと思う。

<ul style="list-style-type: none"> ● <u>学校でも職業体験だけではなく、福祉体験を取り入れてもよいのではないか。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>授業参観時に親子で疑似体験を学ばせてほしい。</u>
--	---

⑥ 苦慮するところ、悩み

<ul style="list-style-type: none"> ● お年寄りの方が何か困っているようだとすると、下手に声をかけると年寄り扱いするな！！と言わんばかりの方が正直多いのです。でも、世の中ではお年寄りにはゆずりましょう、声をかけて手助けをしましょうが当たり前。<u>大人も子供もどう対応すれば良いかむずかしく思うことが多く、こちらから何でも先に声をかける、助ける・・・はせずに、少し様子を見てみる。結果、何もしなかった、見て見ぬふりをしてしまう形になった、なんて事ばかりです。障害があるかどうか見た目ではわからない方もいます。ふつうそうに見えて実は大変であったり。声をかけてみたらずっと家の近くまでついてくるお年寄りや、逆に怒鳴られてしまうこともある、そうでない人もいるけれど・・・。子供にはあやふやなことばかりです。</u> ● <u>子どもも自分の成長や身の回りの不安など悩みを持っていると思うので、自分の不安や悩みを少しでも取り除かなければ、周囲への関心を持つことや福祉へ目を向けられないと思う。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● たまにですが子供と話す時は、急に福祉教育といってもみなさんも私自身、子供もピンとこないのではと。もう少しわかりやすくいい方を変えて、違う視点から考えてはと思います。あまり煮つまったアイデアも出てきません。すみません。 ● 福祉教育は話し合っていない。怪しい人には近づくな、知らない人に声かけられたらすぐ逃げる、と伝えてきた。今回のアンケートで違う視点で子供の教育のことを考えさせられました。<u>障害者を装った犯罪者もゼロではないので、子どもが見極めるのは難しいです。</u> ● <u>あまり話す機会やタイミングが無いので、どのように話せば良いのか悩んでいます。</u>話すのも大事ですが、こまっている人がいたら声をかけるなど親の私が子どものお手本になれるように心がけたいと思います。 ● <u>事件に巻き込まれたりしないように、困っている人がいても、一人の時は大人を呼びに行くように話をしている。</u>
---	---

<ul style="list-style-type: none"> ● お年寄りや体の不自由な人の中には、本当に助けを求めている人もいますが、できることさえしないで何でもしてもらって当然だと思っている人やかまってほしくない人もいますので、<u>見きわめが必要だと</u>教えている。その上で困っていそうな人がいたらまず、「こんにちは」などあいさつし、<u>相手が話しやすい状態を作ることが必要</u>ではないでしょうか。 ● 昨今、<u>不審者情報等が頻発</u>しているなか、<u>子供にどこまで関わりをさせるべきか</u>苦慮している。障害者を装った犯罪も起きている。 ● お年寄りが近隣にあまりいないので、接する機会は少ないが遠方にいる祖父母と接するとき、子どもは気遣い持てるようになってきた。しかし、困っている人がいたら助けてあげるよう教えているが、その ➤ 	<ul style="list-style-type: none"> 一方でこのご時世、<u>防犯のこと</u>も考え、<u>知らない人に対してどう接するか</u>困ることがある。 ● 老人や障害のある方と<u>接する機会がない</u>ので偏見を持っています。自分と同じ心を持っていて一生懸命生きていると分かって欲しいです。母親から話してもいつものお説教と受け止められ向き合って貰えません。学校で施設訪問に出かけたり、<u>体験談を聞かせてもらう機会</u>を与えてもらって感謝しています。 ● <u>知らない方に対する接し方</u>は今の社会でとても難しいです。良かれと思ってやろうとしても、子ども側が知らない人に話しかけられても対応しないなどの指導を受けているので。 ● どう教えていけばよいのか分からない。
---	--

⑦ その他

<ul style="list-style-type: none"> ● 体の不自由な方への思いやりを大切にしたい。困っている人に進んで声を掛け手助けを出来るような人になって欲しい。<u>どんな人にも、あいさつをし、交流が出来れば良い</u>と思う。 ● <u>思いやりの心を育てる</u>。相手の気持ちになる。手を差し伸べる勇気を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● お年寄りや障害者に特別というわけではなく、<u>誰にでもやさしく接することができれば</u>と思っています。 ● <u>あいさつをきちんとしていれば顔も覚えてもらえる</u>ので、何かあった時や困った時、声をかけてもらえるかもしれない。防犯につながるのかな？と。。。
---	--

- 祖父母と接することで昔からの知恵を知り、又、高齢になって出来なくなっていくことを手助けしたりすることで、敬い支える気持ちがあぐくまれていくと思います。
- 困っている人がいたら助ける、手伝うということは、当たり前のこと。特別なことではない。障害や老いについても。今、自分は健常であっても、いつどうなるかはわからないのだから。お互い様。できる人ができることをやる。
- 福祉とは、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉の3部門によって成り立ちますが、本アンケートは高齢者と障害者の福祉ばかりで児童福祉が見落とされがちです。地域のつながりや福祉の意識や人材育成を考えたとき、次世代を担う子育て世代に参画してもらわなければなりません。その為には、子育て世代にとって自分たちのことである問題提起としての児童福祉をもっと取り上げていくべきだと考えます。
- お年寄りの方に声をかける時は後ろからではなく前からで、目線を合わせることや、つえを使っている方の傍では走らない事。
- 家庭の内外を問わず挨拶をすること。自分の主張より相手の意見をよく聞くこと。
- 家庭で「福祉教育」をどのようにしたらよいか分からないのが現状です。私自身、福祉教育についてあまり考えたことがありませんでした。普段の生活の中で老人や障がい者と接する機会があれば自然と身に付くのかもかもしれませんが、そういう機会はありません。
- 自分を尊重すること、自分以外の人を大切にすること、とても大切。お互いに人と比べてしまいがちですが、それはあまり幸せなことではない。自分を含め、どんな人も社会の一員。必要な時には支えあい、基本的には自分の足でしっかり立って生きていきましょう。
- 障害があってもなくても同じ人間であり差別があってはならない事。自分から声を掛けたり手を差し伸べる気持ちが大切な事。
- 公共交通で体が不自由な人やお年寄りに席を譲る。日常生活の中で困っている人を見かけたら助けてあげる。近所の人には挨拶をし、顔見知りになる事が大事だと思う。
- 障害を持った方や高齢者が困っているときに、積極的に声を掛けられるようになればよいと思う。
- 特にしていない。

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● あせらずマイペース、解らないことは人に訊いてゆっくりでもいいから進んで行ってほしいです。 ● 困っている人がいたら声をかけ、何かできることがあれば進んです。思いやりの心を持つ。 ● 電車等の席は譲る。「大丈夫ですか」の声かけ。 ● 困っている人がいたら自分で手伝えることがあったら手伝う。 ● 人をいたわる心を持つ気持ちを、大切さを持ってほしい。 ● あいさつや困っている人を見かけたら声かけをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 困っている人がいた場合、<u>自然に手助けできるようなってほしい。</u> ● スロープ等が増えていければより安全な福祉につながると思います。 ● 自分で見て、気が付いて、<u>できることを実践して</u>いってほしいと思います。 ● 福祉というものに全面的に頼るのではなく<u>自分自身で何とか</u>するようにしたい。 ● 特にしていない。困った人がいたら<u>声かけ</u>できるようにしたい。 ● あまり進めていないが<u>機会があれば話し合</u>ってみたいと思う。 |
|---|---|

問 50 その他、「地域のつながりと支え合い」を高めていくためのご意見や、ご提案等がありましたら、ぜひご記入ください。また、アンケートの方法や内容等についてのご意見や感想等がありましたら、ぜひご記入ください。

主な意見

- 日頃のあいさつが大切。そこから気持ち良い関係が築け、地域のつながりになっていく。
- 災害時には力を貸せればと思うが、専門知識がないと対応が難しいので、長期的な対応の場合、ボランティアでは難しい。
- 地域で行事を行うことは、地域交流や防犯に役立つが、役員の負担が大きい。
- 自治会や子ども会などの役員は負担が大きいので、今の時代に適応した役員活動にしていくべき。
- 子育て世代は日々の生活に追われて、地域での活動の必要性は感じて、実際の活動は難しい。
- (自治会や子ども会の) 役員を通じて地域の方と顔見知りになれたので、負担は大きかったが、やって良かった。
- 生活に精一杯で新たなつながりを築く余裕がない。
- 近所づきあいを良好なものにするには、まずは健全な家庭環境が大切。
- 子育て世代は忙しくて活動できないので、シニアの方々に活動をしてもらえるように、広報を充実させた方がよい。
- 地域の人々が集まる行事に積極的に参加することで、顔見知りを増やすことができる。
- 学校での疑似体験が子どもたちにとって、良い経験になっていると思う。授業参観などの際に親子で学ぶのも良い経験になる。
- 地元の高齢者と子ども、その親が顔見知りになれると、あいさつが増え、困った時に助け合えるのではないか。
- 世代交代と新住民がスムーズに地域活動に参加できる雰囲気が必要。
- どこに高齢者や障がい者が住んでいるのかが分からないので、マップがあると良い。
- アンケートの量が多く、内容が答えづらいものがあった。
- アンケートをきっかけに、福祉について少し関心を持つことができた。

1 地域住民相互のつながりを深めることに関すること

① 地域住民相互での助け合いに関すること

(ア) あいさつに関すること

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">● 基本は<u>あいさつが大切だ</u>と思いますが、<u>今の時代こわい人も多いので、むやみに声をかけられないという現実もある</u>ので、知っている大人しかあいさつしないのかもしれない。日ごろから交流があり近所の人顔は覚えられるといいなと思います。そういう<u>交流の場があると良い</u>のかと。● まずは、あいさつが出来る事。埼玉県に来て、<u>あいさつが全く出来ていないのにはびっくりしました</u>。地域のつながりと支え合いというのは人とのつながり支えあいであって、人としての基本のコミュニケーションが成り立っていないのは・・・？ここからがスタートラインだと考えます。● あいさつすらしめない人が多く、他人に対しての態度、言葉使いも失礼な人が多い。思いやりがない人と関わりたくないの<u>で福祉活動等あっても参加したくはない</u>。まずは、<u>あいさつのできる人を増やし明るい雰囲気</u>の地域になってほしい。● 普段から挨拶などを通してお互いに知らない人ではなく、<u>知っている人になることが大切だ</u>と思います。● 近隣の方にあいさつ等を | <p>する様心がけていますが、人によって目も合わせない方もいたりするので、大人はそれでも声を大にしてあいさつできますが、子どもにもあいさつをする様に言っていますが、ちょっとそういう方は難しいな、と思います。</p> <ul style="list-style-type: none">● ご近所にお年寄りが多い地域なので出会ったら積極的にあいさつはします。夏休みにはラジオ体操でおばあ様たちと一緒に体操をして、帰りはいろいろ話して帰ってきます。地域の祭りや運動会の参加だけでも<u>異年齢の方々と過ごすことで目をかけてもらえるし、こちらも気にとめることができます</u>。● 地域のつながりや支え合いを拒否される方もいるので<u>手助けをしたくても自分から動くのが難しく</u>思います。ただ、あいさつは自分からしようと心掛けています。<u>みんなが基本のあいさつが出来たらいいな</u>と思います。子どもにも、あいさつの大切さを教えていきたいです。● <u>挨拶があまりできていない</u>と思う。子供たちの手本は学校、地域、家庭なので、<u>大人がしっかりやらなければ子供もまねしようとは思わないのでは</u>。 |
|---|--|

<ul style="list-style-type: none"> ● <u>地域のつながり、支え合いの</u> 為には、<u>日頃の挨拶が一番大切</u>なので、積極的に挨拶することを心掛けている。 ● 地域のつながりは一朝一夕にできるものではない。日々の積み重ねがなくして成り立たない。<u>挨拶などの小さなことから</u> <u>気持のよい関係が築け、地域の</u> <u>つながりへと</u>なっていく。その上で地域での役割等を果たすなど一人一人が意識をもって、何かを担うという心掛けがなければ成り立つものではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝早く出勤し、夜遅く帰宅、週末にはたまった家事や買い出しなどで<u>近所とのつながりは挨拶</u>ぐらいしかできない状況です。 ● <u>日頃の挨拶は大切だ</u>と思う。そこから声かけなどにつながっていくと思う。 ● やはり、<u>挨拶することから</u> <u>地域のつながりもできる</u>と思います。 ● <u>地域の人とのコミュニケーション</u>は大切。
---	--

(イ) 災害に関すること

<ul style="list-style-type: none"> ● 災害時の共助という部分で、進める、高めていっては、と思います。災害が昼間におこった場合の共助、また夜におこった場合の共助では、まったく違ってくると思います。<u>災害時は地域で助け合</u>なければ誰も助けにはきてくれないと考えております。(当初の2~3日間は) ● 防災の面では、独居の高齢者の手伝いは<u>いざというときには力を貸すことができれば</u>と思うが、介護となると<u>専門知識がないと対応が難しい</u>と感じる。有事の短期的なものなら地域 ➤ 	<p>の支え合いは必須ですが、長期的なものはボランティアレベルでは難しいのでは。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 災害等はいつ、どこで起こっても不思議ではなく、お互いに助け合うために日頃からのコミュニケーションが必要だと思う。皆が<u>積極的に地域との関わりを持って</u>くれるとよいのですが。 ● 夏の水害があり、地域の人達とのつながりを強く感じたので、さらに大切にしていかなければと思う。
--	--

(ウ) 自治会・民生委員・子ども会に関すること

<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度から自治会の行事が減ってきている。<u>行事を行うことは地域の交流や防犯に役立</u> ➤ 	<p><u>つが、役員の負担が大きい</u>のではと思う。また、資金繰りも難しいのではないかとと思う。</p>
--	---

- 子ども会の役員ですが、お母さんには負担が大きいです。やりがいもあるのですが、子どもたちの為に一生懸命やっていますが、働く女性が多くなってきている。母子、父子家庭の増加、外国人の家族も増加など、今の時代に適応した役員活動にしていくべきと思います。役員の負担が大きいため退会している家族もあると思います。それでは本来の地域活動の目的からズレているのではないのでしょうか。
 - 現在、狭山市において地域のつながりがどれだけあるのでしょうか？高めていくためと言うよりもかなり低いこのつながりを少しでも高めるといった考えでなければ狭山市は何も変わりません。まずは土台作り（自治会）の大きな見直し、狭山市を引っ張る世代（30代～40代、50代）を中心とした自治会、地域の活動を作ります。まずはここからです。お金をあまりかけなくても本気になれば変わります。みんなの心が動く為の努力をお願いします。力になる事があれば協力します。がんばって下さい。
 - 自治会という単なる飲み仲間というイメージしかありません。高い会費を払って自治会館を作ったり飲み代にされていてはたまりません。なので、
- 自治会のない地域でほっとしています。今後も加入する気はありません。
- 子育て中の世代からは昔からの自治会のあり方だと中々参加がむずかしい。仕事をして子供たちもいての中で、集まりが日中にあっても行けない。土日も行事があると家族の負担が増える。組長、班長をやっているが、荷が重い。なんとか配り物も郵送や他のやり方で負担を減らして欲しい。今は近所に2世帯で住んでいる方も少ないし、核家族が増え共働きも増えているので、自治会の仕事もある程度、仕事の様にきちんとした新しい形を作っても良いのではないか？これからますます子供たちの負担も増えてはかわいそう。新しい形を節に願います。
 - 地域のつながり、支え合いは大切だと思っけていても実際には、自分の家庭の子供達が小さいうちに自治会の班長がまわってきたり、行事に参加したり、夜の班長会に出席するのは、すごく負担でした。特に家には発達障害の子供も居る為、留守番も難しかったり、学校の行事などもあり、大変でした。実際にお年寄りの多い地域なので、近所の方で困っていたら力になりたい気持ちはありますが、子育て中は、なかなか難しいのが現実です。

- 自治会は年配の方の参加、運営していることが多く、なかなかなじめない。同じ市内でも柏原地区より水富地区の方がフレンドリーだったような気がします。市民それぞれが持っているスキルを登録、利用したい人がアクセスできるようなシステム（市のウェブの中にでも）があると良いのでは？
- 地域のつながりはもちろん大切だとは思いますが、子育て世代は日々の生活に追われて、自治会活動等は負担に感じてしまうのは仕方がないのではないのでしょうか。役員や行事など慣例に従いこなしてゆくだけでは意味がないのでは。自治会の存在意義や必要性を具体的に示してゆくことが大切なのではないのでしょうか。
- 地域の人たちはみんな平等な対応であってほしい。後から引っ越してきた人に対し、「新しい人」感が出ている。自治会でも地主が強く、私たちに対して下に見ている人もまだいる。差別もまだ激しい気がする。
- 小さい時から子供会や自治会の行事に参加して、近所の方と挨拶をし、顔を覚え、色々な年齢の人とのつながり、お年寄りの知恵のすばらしさなどを感じられるような地域づくりができれば、その先がついてくると思う。
- 自治会の活動に子供が参加できるものが少ないので、地域の交流を深めるためにも、小さい子供からお年寄りまで幅広い年代の人達が参加できる活動があったらよいと思う。例えば、駅前の清掃活動、目の不自由な方やお年寄りの疑似体験をしながらのウォークラリー、福祉施設にボランティアに行くなど。
- 自治会活動は大切だとは思いますが、仕事をしながらの参加は大変です。高齢化が進み自治会の役員も不足しているなか、地区での祭り、体育祭などは負担が多い。つながりの為に行事をすることが必要だと思うが自治会主催の行事は働きながらの参加は厳しい。
- 高齢の自治会役員が顧問として延々在籍してにらみを利かせているような自治会は崩壊しませんか。時代に合う取組、対応をしないと脱退する者が続出すると思います。役所はそれを避けたいと所なのでしょうが実態をどれだけ把握しているのか。
- 子供会や自治会の役員、今は共働きの夫婦が多く負担に感じると思う。私は子供会の役員を通じ、様々な町内の方と顔見知りになり役員をやってよかったと思っている。
- 自治会活動に積極的に関わったほうが良いと思います。
- 自治会に入る。

<ul style="list-style-type: none"> ● <u>地域などの活動は必要ない</u>と思うが、<u>自治会の運動会はやりたいたい人だけでやってほしい</u>。無理やり出されてしんどいです。土・日は休みたい。 ● 自治会は、<u>半強制的なもの</u>でなく、<u>本当に入りたい方々が入会する任意的なもの</u>となしてほしい。 ● <u>登校、下校時の見守りに感謝</u>します。子供を持つ親として、<u>子供会と自治会の役割が大変</u>です（学校でのPTAもあります）<u>子供会と自治会のあり方</u>を考えて頂きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 例えば：自治会長率先の<u>地域内あいさつ運動</u>や<u>班長と民生委員や専門分野の方との定期的な家庭訪問</u>など……。住んでいる場所での<u>つながり</u>は大切にしたい。 ● 何かあった時は、<u>すぐに手を出して助けてあげられる</u>ように、<u>ご近所との関係を大切に</u>して行きたい。 ● 自治会や子供会などの<u>つながり</u>で、<u>地域の人達とコミュニケーション</u>が取れるようになってきた。
---	--

(エ) その他

<ul style="list-style-type: none"> ● テレビで見たことがあるのですが、<u>お年寄りの方が集まるサロン</u>を小学校の敷地内に作られている町があり、いいことだなあと思いました。自然に交流ができ、その中から得られることが沢山あると思いました。 ● <u>地域のサロン、寺子屋のようなものを増やす</u>とよいのではないか。 ● <u>隣近所の同世代の人としか出会う機会がない</u>ので顔と名前を知ること、徐々に接してみようと思いはじめるかもしれません。 ● <u>つながりが大切と分か</u>っていても、<u>不審者のな方もいる</u>ので<u>子供にどう伝えていけばよいのか迷う</u>ことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● マンションなので、本当につなかりがなくマンションはつまらないと思う。実家のように庭を掃除しながら、チョット会話したり地域の活動を引っ張ってゆく元気な方がいたらよい。いい意味で少しおせっかいな人がいるとか、お互い意識しすぎている気がする。<u>つながりと支え合い</u>なんて人の<u>気持ちが開かれていないと出来ない</u>かなと思う。 ● 地域の<u>つながり</u>を必要とする状況は各家庭で差があると思います。小学生がいるので<u>登下校を見守ってく</u>れている地域の皆さんには感謝していますが、<u>感謝の気持ちを伝える場</u>（子ども達）があるとよいと思う。
---	--

- 地域との繋がりは非常に大切だと理解しているつもりです。しかし今は生活するので精一杯で、新しくつながる余裕がありません。また団地など賃貸住宅に住む方はいずれ引越しますので、つながりが必要ではないと考える人が多いのでは。自治会やボランティアの方に感謝しつつ、人任せにし放しで申し訳ないと思っております。
- 自治会、子ども会、PTA等、地域のつながりとしての組織はもっと自由になってほしい。続けるための仕事、前例をなぞるだけの活動になりがちである。それを変えようとすると反対する人の力（圧力）があり、困難であり、変える労力を惜しむようになる。結局新たな人材を見つけ、自由な考えとお互いが助け合えるような意識が高まればよいが。
- 大雪の時、雪かきのできない家庭への応援をする、心を閉ざされた高齢の方など子供に対して思いやりがない大人がいる・・・緑を増やしたり、花を植えたり、外套の色や声かけなど温かい地域の環境を作り人間関係が変わるといいなと期待する。
- 共働きの家庭が増加している中で地域のつながりというのは逆に厄介な問題になってしまうことが多い時代だと思う。 ↗
- 仕事をしていない高齢者は土、日を使ってイベントやつながりを持とうとします。逆に共働きの家庭は土、日が唯一の体を休める時でもあります。この重なり合わない部分をいかに使うかが今の時代の問題と思う。「長く生きているからエライ」「仕事をしているから無理は当然」という考えを変えないと、この先つながりや支え合いは、なくなっていくと思う。感謝の気持ちを忘れないことが「つながりと支え合い」につながると思う。
- まずは健全な家庭環境から。それがあって良好なご近所づき合いをしていく心の余裕も生まれるのでは。仕事をするお母さんが増える中、子育てを第一の仕事と考えています。
- 「遠くの親戚より近くの他人」自分が周囲の人に助けを求められた時には対応できるような人でありたい。地域のつながりは「イザ」というときに本当に力になってくれるものであることを皆が実感できる関係を築いていけるとよい。
- 地域のつながりは大切だが、それぞれの家庭の事情（仕事、年齢など）があり、一律に役を持たせるなどは、なかなか大変です。
- 若い人たちが地域の行事に参加してゆけたら良いと思います。

<ul style="list-style-type: none"> ● <u>ずっと地元にいる人が多く、持ち家に住んでいる人と賃貸に住んでいる人との温度差がある。</u>他から引っ越してきた側からとして入りずらく、関わりづらい。 ● 近所付き合いも難しいこともあり、仕事に行く前の忙しい時にお年寄りの長話には困ったり、お手伝いしたくとも余計なお世話かなと思ってしまう。 ● 今、住んでいる地区は充分なつながりがあります。 ● 他人同士の協力が必要だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>地域のつながりや支え合いは大切だと思いますが、子育て世代には仕事をし、家事をすることで忙しく時間を作るのが難しいのが現状です。</u> ● <u>支える人、支えられる人、お互いが気持ちよく良好な関係でなければ支え合いは成り立たないのではないのでしょうか。</u> ● <u>無理につながりや助け合いを求めると、苦痛になります。</u>各家庭に都合もあるので、自然とつながり合える関係が築けるとよいと思う。
---	---

② 地域福祉への関心を高めることに関すること

(ア) 広報に関すること

<ul style="list-style-type: none"> ● <u>せっかく色々活動されているようですが、多いにPRされた方がいいと思います。</u>このような活動を知らない方が多いと思いますので。 ● シニアの方々へもっと活動について<u>広報活動をして参加をお願いするのが良い</u>と思う。子育て世代は育児も忙しく、働いている方も多いので、地域の 	<p>ことに携わることが難しいことが多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● フルタイム勤務だと、なかなか地域とつながっていくことが難しい。つながりが大切なのはわかっているが、<u>退職後に時間が自由に使えるようになった時に様々な情報があると参加しやすい</u>と思う。
--	--

(イ) 家庭教育に関すること

<ul style="list-style-type: none"> ● 子供から見て「困っているお年寄り」がいても、そう思われることが嫌な人もいて、子供が助けようとしても、ひどくつっぱねる人もいる。そういうことが何度かあると、子どもに 	<p>積極的に人助けしろとは言えない。<u>子どもに「人助けしろ」と教育するだけではなく、お年寄りや体の不自由な人などにも、一定の理解が必要</u>だと思う。</p>
---	---

<ul style="list-style-type: none"> ● 「地域のつながりと支え合い」は家庭で子供に教えるのが一番と思う。防災訓練や体育祭など、<u>地域で人々が集まる行事には積極的に参加し、顔見知りを増やすことが第一歩</u>と思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 電車に乗った時に席をゆずる事など教えていますが、あまりそういう場面にならない。テレビなどで「<u>身体の不自由な方</u>」の生活や考え方を見たりして、<u>自分だったらどう思うか話し合っている。</u>
---	--

(ウ) 福祉教育に関すること

<ul style="list-style-type: none"> ● <u>今回、子供達が学校で疑似体験をし、とても良い経験になった</u>と思いますし、考えるきっかけになったと思います。このような機会をどんどん増やしてほしいと思いました。家で<u>何をして何を学べばよいか、わからない事も多いので身近な学校でこういう場を設けて頂けるとありがたいです。</u> ● <u>子供達は日常生活の中から疑似体験する事で障害のある方の思いを感じ理解できるきっかけとなり、そのインパクトは強く残ると思うので、学校の教育の場にもっと取り入れ学べると良いな</u>と思った。 ● <u>子ども達には、体験学習、ボランティア活動に参加して、様々な体験、経験を通じて、自ら学び、行動できるようになってもらいたい</u>です。ですので、<u>体験学習やボランティア活動の「場」があると（増えると）良いな、</u>と思います。 ● <u>学校であった福祉体験が楽しかった</u>と言っていたので実 ➤ 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>際に障害体験やふれあう機会がないと子供達はピンとこない</u>と思う。 ● <u>普段の生活の中福祉教育を意識して生活していないのが現状</u>です。幼稚園、小学校などでお年寄り、障害のある方と接する<u>機会を作り親はボランティアとして参加するなどして頂けると良い</u>と思います。 ● <u>有料老人ホームや老健が増えてきており、小学生、中学生から授業の一環として施設へ出向いて交流を図るなどしたらどうでしょうか。職業体験で来るだけでは何の意味がない気がします。</u> ● <u>小学生だと4年生ぐらいにそのような勉強をするのですが</u>全年で年1回ぐらいは時間をとってもらい理解を深めていく授業があってもいいと思います。 ● <u>介護教育は必須科目として取り組むべき。</u>大人になって自分自身がこの問題に直面した時にどう対処すれば良いか判断できるようになると思う。
---	--

<ul style="list-style-type: none"> ● <u>学校で高齢者と触れ合う機会が少ないので、授業の一環として高齢者と何かをすることができればよいと思う。</u> ● <u>子どもの内から福祉に関心を持つように、小・中学校から福祉教育をすることが大事だと思う。</u> ● <u>老人施設と、交流があればいい。夏休み、冬休み、春休み、他の休みに、ボランティアを授業の単位として取り入れる。</u> ● <u>子どもを通しての行事参加がほとんどですので、学校行事に、お年寄りや障害者の方が来ていただけるよう、トランスファーの充実や、駐車場の整備等、</u> ➔ 	<p>皆さんが来やすい会場作りが大切。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>学校が閉校しているところが増えているのでお年寄りと子供たちと会う機会が減ったのではないかと思う。</u> ● <u>学校でお年寄り、子ども達、親（自分達）が集まる行事（？）があると良いと思います。</u> ● <u>学校で福祉について学んだり、地域の年寄りと交流ができる機会を作っていただきたい。</u> ● <u>もっと学校でのお年寄りとの交流等を深めていくといいと思います。地域（自治会での交流も…）</u>
--	--

(工) 地域交流に関すること

<ul style="list-style-type: none"> ● <u>災害などが起こってから「支え合おう！」</u>というのは、まず難しいので、<u>日頃からコミュニケーションをとることが必要だ</u>と思います。地区の運動会の様な、<u>つながりが持てるイベント</u>を続けていくとがわかりやすいのではと考えます。子どもから大人まで楽しく交流ができる気がします。しかし運動会だけですと年々高齢の方が増えていくので他のイベントや交流できる場があると良いと思います。 ● 「認知症」や「子ども食堂」などわけてしまうのはもったいない。<u>地域で交流する場があれば、自然に人も集まる</u>と思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>地域の中でも支えが必要と考えられる高齢者や障がい者に出来るだけ地域で生活していただき、身近に感じられる環境にしていけると、自然に交流が図られるようになっていく</u>と思います。また、それにより高齢者や障がい者に意見を出していただくことで、ハードもソフトも住み良いまちになっていくと思います。 ● <u>一緒に暮らしているお年寄りの人が居ないので、地域のお年寄りの方と交流する機会がある（もしくは増える）と良い</u>なと思います。
---	--

- 定期的に公園や校庭、公民館等でお年寄りと子供と一緒に遊んだりする機会を設けてはどうか。地元のお年寄りと子供、その親も顔見知りになれど、普段会っても挨拶ができ、気軽に話ができれば困った時に助け合いのきっかけになると思う。
 - 若い世代はつながりだったりをあまり考えない。中高年世代は自分の生活で精いっぱい。その幅広い年齢層の方々の気持ちを引きつけるような地域での行事だたり、声かけを文章だけではなく、人の耳に入ってくるような場所を作る。
 - 狭山市は地域のつながりは深いと思います。そのための活動も個々に取り組んでいる様に思います。一つ一つの行事の呼びかけが少ないと思います。世代を超えた交流がどんどん増えてくると嬉しいです。
 - 様々な世代の人と接する機会が増えれば良いと思います。お年寄りの方々の行事に子供が参加したり学校行事にお年寄りをご招待する等、楽しく触れ合うことで、つながりが作られていくのでは、と考えます。
 - 子どもの数が少なくなり、子ども会はこの地域ではなく、新学期に新一年生を見て近所にこんな子がいたんだと初めて知ったりしている。地域の行事等で年齢に関係なく交わってい
- けたら、お互い楽しく住みやすくなりそうな気がする。
 - 近隣住民や地域の中で高齢者に限らず、多くの方と関わることで相互扶助を理解してくれると思います。そういったことが防犯などにも繋がり、学校や地域との連携になり今後、次世代に続くようになればよいと考える。
 - 地域のつながりは、正直面倒な面がありますけれども、隣の人の顔がわからなかったり、困った時に支え合えないのは、良い地域とは言えないと思います。高齢化社会で子供が高齢者とふれあい、親も巻き込んでゆく様なイベントや機会が増えると良いと思います。その中で周りの人をお互いに知ることが出来、支え合いにつながればと思います。
 - 地域のコミュニティーの場は増えてきているので、そこに来られるような声かけ、誘いが必要だと思う。行きたくても行かれない弱者の人には民生委員等の行政が動くのが一番。地域の人だけでは限界がある。コミュニティーに来る人はいつも同じ人なので、行政が動かないと動かない人はなかなか動かない。そこから、ようやく「地域のつながりと支え合い」が生まれると思う。

<ul style="list-style-type: none"> ● <u>ご高齢の世帯が増えており、従来の地域交流活動はご負担に</u> <u>しかならないように</u>思われます（スポーツ関連）ご高齢の方でないと参加できない様な交流イベントにシフトしていいでしょうか。 ● <u>地域の方達とミニゲームを一緒にやることで、お互い話せて良かった</u>なと思いました。 ● <u>つながりを深めるために、地域でのイベントに積極的に参加しやすい環境づくりが大切</u>だと思います。 ● 地区の体育祭は小さな子からお年寄りまで、お話をしたり、豚汁を食べたり、みんなが元気になれる行事だなと感じた。 ● 地域の住民を知るために、体育祭・地区対抗、つながりを深めるにはよいと思います。 ● 何か困った事があったら助け合いができるよう、<u>近隣の方達と、話せる機会をつくって</u>いきたい。 ● <u>核家族は地域とのつながりや支え合いの機会が少ない</u>ように思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>お年寄りなどのお話を聞くのはとても大事だ</u>と思うので、<u>お話しする機会を設けた</u>ほうがいいのかなと思います。 ● <u>学校等を利用して、行事を通じて地域と交流を持つ機会を作ると参加しやすい</u>と思う。 ● <u>地域の資源回収の時など、子供たちが地域の一人暮らしのお年寄りや障害のある方等を訪問し声をかけお手伝い</u>する。 ● <u>年配の方が気軽に交流できる場所が情報などわかるようにし、外に出る機会を増やせるといい</u>と思います。 ● <u>地域イベントや自治会に参加してコミュニケーションを図ったりふれあいをしたり</u>するとよい。 ● <u>ちょっとしたイベントでも沢山やっていたら一回ぐらい参加してくれる人がいる</u>かもしれません。子供が単独で、家族で等。 ● <u>（隣近所しかわからない）地域の人との交流できるイベントに参加してみたい</u>。 ● <u>交流がほとんどない</u>ので良く分からない。
---	--

(オ) その他

<ul style="list-style-type: none"> ● <u>地域と自分たちの生活がどうすればつながるのか？子供のいる世帯は子供のことでつながりやすいが、独居・子のいない世帯は何をすればつながるのか？</u> <u>地域とつながることのメリ</u> ➔ 	<p><u>ットは？メリットや必要性がないと地域とつながることは考えないし支え合うことも考えない。必要性を感じさせる活動が必要</u>と思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>近所に知り合いを増やす</u>。
--	---

<ul style="list-style-type: none"> ● この地域は治安のよい安全な街だという過去の栄光に浸って現実を見ようとしない高齢者による老害ともいえる自治体制の問題があり、若い世代の参画を阻害しています。それは高齢者の自己有用感の低さのゆがんだあらわれと感じている。福祉を考える時<u>物理的なサービスの拡充だけに目が行きがちですが、子ども、親、高齢者の三世代に対する自己有用感を持たせる取り組みがなければ、誰も道徳的、貢献的に動きません。</u> ● 私自身ももっと地域や助けを必要としている人に目を向けるべきと感じました。<u>小学生、中学生にも知る機会があるとよい</u>です。 ● 地域活動を積極的に行い、交流を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>勉強会など専門知識のある方（先生）を呼び話し合う場がある</u>といいと思います。勉強する内容は、高齢者の方、障がい者の方、お金の話など、問題になっていることなどです。避難訓練などは、とても良いと思います。 ● 高齢者も核家族化している為、子供の声などがさわいでいなくても騒音ととらえられてしまう為、生活がむずかしい。孫がいない世帯だとなおさらです。チャイムまでの少しの時間、家の前で遊ばせるのも気をつかいます。 ● <u>狭山市の福祉や地域の活動などを全く分かっていないことを感じた。</u>これから関わりを持っていこうと思った。
---	---

③ 地域福祉活動への参加に関すること

<ul style="list-style-type: none"> ● 順番でまわってきて仕方なく班長や子ども会やPTAをやっているが、そのおかげで<u>地域の方と顔見知りになれたり話すことが増えてたりしたので結果やって良かった</u>と思う。顔見知りになれたことで自然と親もあいさつするようになったし、それを見て子どももあいさつするようになった。今後も、<u>役員は大変だが順番でまわした方がよい</u>と思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>世代交代と新住民の方がスムーズに地域活動に参加できる雰囲気が必要</u>だと思う。保守的だと若者や新住民は地域の入る余地がなくなる。私の地域では少しずつではあるができています。この地域で生まれ育ち、残るのが率先して架け橋になるよう働くことが大切と思う。 ● <u>地域での集まり（お祭りなど）のある時には、積極的に参加する。</u>可能な限り関わりを持つ。
---	--

<ul style="list-style-type: none"> ● アンケートを何度も書いていますが、特に改善などはないので強制にはしないで頂ければありがたいです。<u>子供を産めば産むほど役員や行事が大変になります。子供の数ほど働かなくてはいけないのに、矛盾してイヤになります。</u>なので自分が年を取って子育ても終わってから役員等、手伝ってあげたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分自身や周りの人も義務で地域活動に参加しているようです。<u>気軽に参加できるような取り組みを希望します。</u> ● 夫婦共働きの時代、<u>ボランティアをしたくとも時間がなかなか作れません。</u>近所のゴミ集積所でのあいさつ程度です。 ● 地域での行事等に参加するようにしていく。
--	--

2 地域住民の幸せを高めることに関すること

① 心身を健やかに保つことに関すること

<ul style="list-style-type: none"> ● もちろん地域のつながり、支え合いは必要だと思いますが「<u>プライバシー</u>」や「<u>自主性</u>」などで<u>ブレーキがかかる部分もあり正直難しいです。</u>P15に記入しましたが任意でお願いにも限界があるので（・アスレチック等の大公園・温泉リゾート）など自然と<u>市民やそれ以上の人々が集まる施設を作るのが一案</u>だと思います。市の運営で、「<u>健康寿命</u>」重要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>介護保険が使えない老人の為にサービスがあった方が良く</u>と思います。運動能力が下がっているのに、できないことを無理にやって、ケガ→要介護になる老人が多いです。デイサービスのような体操や食事、レク旅行などがあればよいと思います。交流の場で、長く健康でいるための知識を知って欲しいし、不幸自慢ではなく、<u>健康自慢ができる老人が増えて欲しい。</u>
--	---

② 相談・連絡に関すること

(意見なし)

③ 特に支援が必要な世帯の見守りに関すること

<ul style="list-style-type: none"> ● 周りに、お年寄りが多いので、1人暮らしのお年寄りが1人にならないように、市でも、気をつけてもらいたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 住んでいる地域に<u>高齢者や障害のある方がどのくらいいるのかなどを、マップなどで知ることから始めていく。</u>
---	---

<ul style="list-style-type: none"> ● 昔と違って今は仕事を持っている人が多いので、近所付き合いをする人は少なくなってきた。出来るのでしたら、どこに高齢者が住んでいるのか、一人住まいをしているのかが分かるマップを作っただけだと、気に留めることができると思う。 ● 地域性があり、難しい問題 ➔ 	<p>だと思われるが、<u>行政からまたNPO法人【外部的なもの】による指導指針がないと地域のつながりを高めることは難しい。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自治会から求められることがとても多いように感じるが、自治会に加入しない世帯もあるため、自治会で把握できない方々のことは市が福祉活動団体と連携しなくてはいけないと思う。
---	--

3 地域福祉活動の輪を広げることに関すること

① 地域福祉活動の育成に関すること

(意見なし)

② 地域福祉活動の輪を広げることに関すること

(意見なし)

③ 地域福祉活動団体への協力に関すること

(意見なし)

4 その他

① 市への意見

<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校に通っていますが近所の外国人のお子さんを持つ方への市、学校の配慮について。近所に住んでいるからと言われ細かい学校行事の連絡、お休みの時の連絡方法等を連絡する事にとっても負担を感じる。ひとつ、<u>英語もしくは母国語でひな型を作り説明してあげてほしい。</u>(運動会は毎年同じパターン、 ➔ 	<p>月曜休み、火曜が予備日など) <u>さやまっ子緊急メールも英語版があればいいのに。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 三世代で住めるようなゆとりのある住宅とか各世代のコミュニティとか、あるとよいと思う。<u>支え合いも先ずは子育て世代が多くなくては若い世代に狭山市に住んでもらわないと老々支え合いになってしまう。</u>
--	--

② 社会福祉協議会への意見

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">● 社協の活動は、広報誌で知っていましたが、実際に「地域福祉が充実しているな〜。」と、実感はしていませんでした。(あまり身近ではなかったからだと思います。) | <ul style="list-style-type: none">● 福祉協議会は、はっきり言って何もわかりません。名前は聞いた事がある程度です。● 社会福祉協議会の事、もう少し自分から積極的に知って行こうと思いました。 |
|--|--|

③ 市・社会福祉協議会への意見

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">● 障害者が身近にいます。ほぼ地域ではなく他市、他県の世話のなることが多く過ごしてきました。地域福祉等、言葉は独り歩きますが、<u>狭山市はあまり優しい街ではないように感じます</u>。福祉に関わる人、知識、道徳的な質の向上を、事業を立ち上げる前に考えてほしい。● 地域住民が肌で感じるような変化がある事を望みます。● 台風9号時に浸水被害にあったエリアに住んでいるので今後、大雨が増えていくであろう | <p>うから、しっかりと対応して頂きたい。このようにアンケートを回収しているのだから、<u>目に分かるような結果をしっかりと残して、狭山市に住んで良かったと思うようにしてほしい。</u></p> <ul style="list-style-type: none">● <u>地域福祉推進計画のアピールをもっと必要だ</u>と思います。この様なアンケートの幅をもっと広げては？● <u>地域福祉計画が周知されていないように思う</u>。趣旨・目的を幅広い世代に知らせてほしい。 |
|--|--|

④ アンケートに関すること

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">● このアンケートの結果を統計処理して計画が順調かどうかを判断するのではないかと心配です。すみずみまで<u>ヒアリングすること、そこからアイデアを抽出することが大事だ</u>と思います。統計の怖いところは、どんな設計のアンケートでも何らかの結論が出て、一見意味があるように思えてしまうところです。アメリカ・ポートランド | <p><u>ドのまちづくりのようにワークショップ形式での意見交換、フィールドワークなどされるとよい</u>かと思います。住民をまきこんで。できれば住民主導で行いたいですね。</p> <ul style="list-style-type: none">● 質問内容もあまり興味がない事なので、いまいちピンと来ていない状態でアンケートを書きました。すみません。● アンケートの<u>量が多すぎる</u>。 |
|---|---|

- このようなアンケートを記入してもらえば「狭山市地域福祉推進計画」の抜粋をつけて欲しい。内容も分からず、ただアンケートだけ答えさせるのでは、きちんとした調査にはならないと思う。
 - 小学5年生と中学2年生の親子にアンケートを実施した意図がよくわからなかったです。ただ福祉についてあまり身近でない課題について考える良い機会になっているのではないかと思います。
 - アンケートの内容が答えづらい。「福祉を必要とする側」に妊産婦、障害のある方、高齢者をまとめられると、どう答えてよいかわからない。それぞれが必要な福祉は異なるし、解決しなければならぬ程度も違うと思う。また、小・中学校の保護者対象ならば30～40代の親がメインとなると思うので生活背景や環境を考慮した内容にしてほしかった。
 - 狭山市地域福祉推進計画を知らないため、アンケートに答えようもない質問がありました。
 - アンケートだが、「お年寄り」というのが何才ぐらいの人を想定しているかわからない。子どもに言わせると、「祖父母」（60代半ば）は「お年寄り」ではないそうだ。
 - 日頃あまり考えたことの
- ないテーマが多く、専門的な言葉を理解するのに時間がかかった。これを集計しても実情を認識されることは難しいと思う。
 - 設問にどれにも該当しないだけでなくと思うことがあります。例えば問9で家庭に乳児や低学年がいる場合、その後の設問がふさわしくないと考えます。問10以降は生活困難者に対する質問のようなので、その場合、乳幼児や低学年は当てはまらないのではと思います。答える側からの目線に立ってアンケートを検討して下さい。
 - 問36の様に「暮らしやすい」という回答にはどこが良いとかという質問があるのに対し、「なぜ暮らしにくい」という回答の理由は聞かないのでしょうか。今後の取り組みに活用していくならば、良い理由だけではなく、マイナスな部分の意見も聞くべきだと思います。交通の便もなく、商店もない地域で90才を過ぎた方が自転車で買い物に行かなくてはならないなど不便な事もたくさんあります。このアンケートで地域福祉の課題を解決していけるのか？と疑問です。
 - 自宅で記入するアンケートは時間も選ばず、気軽に応ずることができ良いと思う。
 - 良く分からない質問が多かった。

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 昔のように、子育てしている母親も仕事をするようになり井戸端会議をすることは少なくなりました。そんな中このアンケートとても良いと感じました。何事も先頭に立ってやってくれる人に感謝して、やってもらうのが当たり前でなく<u>自分のできることはするように心掛けたい</u>と感じました。 ● 引越ししてきて間もないためアンケートにあまり答えられませんが、アンケートによりいろいろな活動が行われていることを知りました。<u>今後は少し興味を持っていきたいと</u> ➔ | <p>思うと共によりよい地域を目指してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アンケート長くて大変でしたが、市長さんたちを応援する気持ちで協力させていただきました。心おだやかにいられる地域でありますよう、よろしくお願い申し上げます。 ● アンケートで実態を把握して狭山市がより住みよい街になるとよいと思う。 ● アンケートは<u>問題が少し難しい</u>。 ● <u>質問が多い</u>と感じた、子どもは途中で飽きてしまった。 |
|--|--|